



0048487-000

特202-453

唱歌指導体系と実際

新潟師範学校附属小学校唱歌部・著

万松堂書店

昭和11

AH1

文部省新訂小學唱歌準據

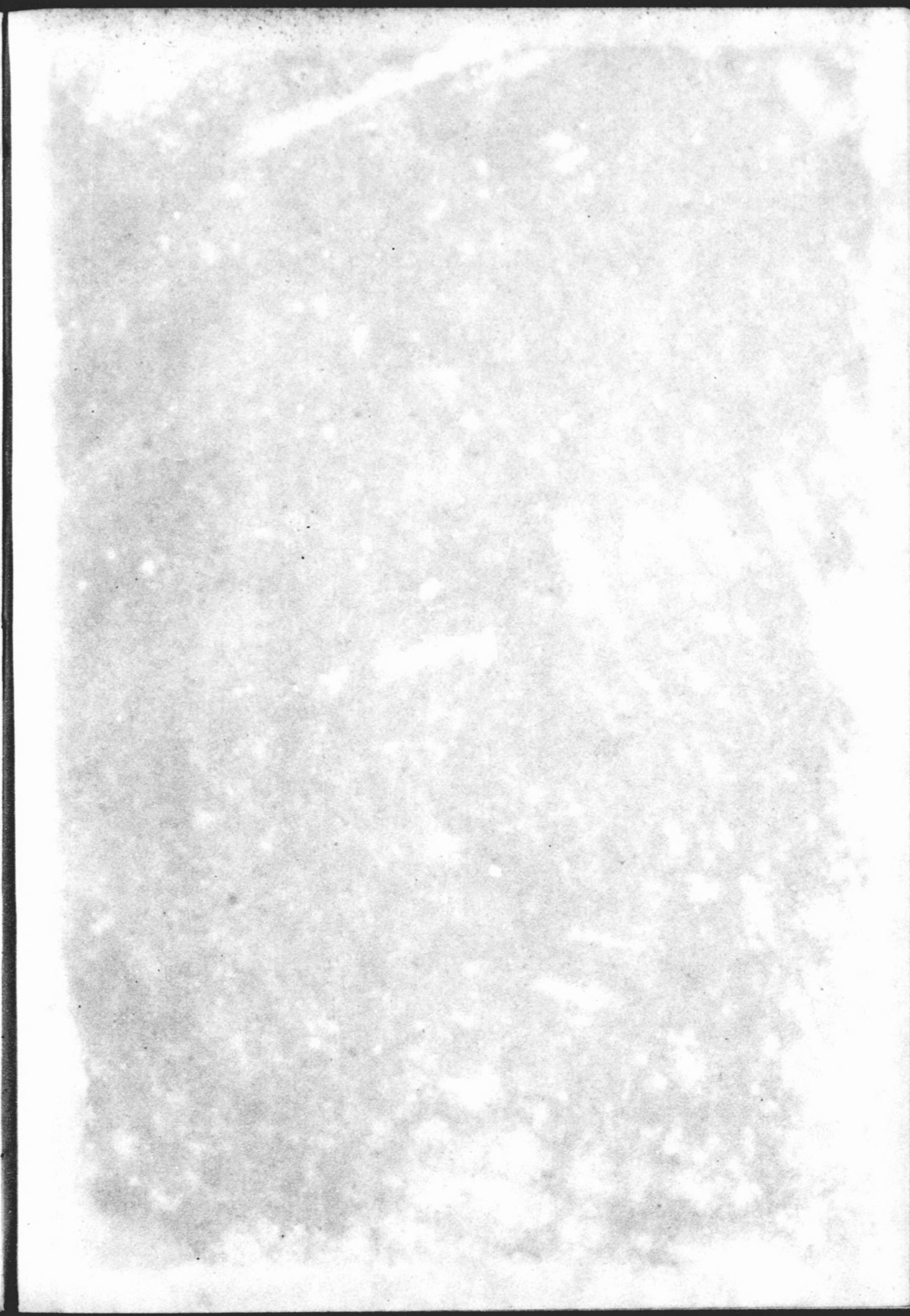
# 唱歌指導体系と実際



新潟師範学校附属小学校









時202  
453



唱歌指導体系と實際

新潟師範學校附屬小學校唱歌部





## 緒 言

教育全般に涉つて確固たる指導観より生れたる指導体系の必要なることは多言を要しない。

殊に國定教科書の無い教科として指導者に全教科を見透し其の教科の全体系を認識すると否とは教育上大きな影響を與へるものである。

指導体系必ずしも形となつて居らなくとも指導者の胸底に潜み絶えず指導の根底となつて居ればよいが、各教科に於て指導者の負擔の過重より現今の唱歌教育が稍もすれば成案を見ず無系統な斷片的即興的な指導が行はれ其の爲唱歌教育の不振が叫ばれてゐる大きな原因をなして居ると考へる。

他教科に比し教授時數の少い事も確か其の原因と考へられる。

情操教養の重大使命を果すべく、一週一時間は餘りに短時間であり、又指導の一部分である發聲の指導についても、騒音と雑音との環境にあつて正しい樂音、正しい聲音の指導から隔離された兒童の聲音を一週一時間を以つて矯正すべく如何に努力しても効果が無いと努力の効果を疑はざるを得ないのであるが、しかし其の「如何に努力」が如何なる程度の努力であつたかを反省しなければならない。成案の無い努力に効果はなく風のまにまに波のまにまに流れる無方針なる指導は既に教育とは云はれない。我々の努力は、一粒一石を積み重ねて、以つて情操教育の大成にまで築き上げる決意のもとに置かれる礎石でなくてはならない。

我校に於て唱歌教育の研究を主とする初等教育研究會が開催されるに當り、當校の指導体系を編纂し指導者諸彦の御批判に訴へ唱歌教育の發展の資となすことを得るならば幸甚の至りである。

昭和十一年五月

新潟師範學校附屬小學校唱歌研究部



## 指導体系樹立の趣旨

いま爰に唱歌教育の一般理論ではなく、唱歌指導の實踐から所産されたる指導觀を述べ、實踐指導によつて確立された指導体系を、具体化し方法化して述べようと思ふ。

### (一) 當校唱歌教育本質觀

「歌曲の唱誦と鑑賞によつて、兒童の音樂性を啓培し音樂的直觀を容易にし人格陶冶に資す。」との根本態度に出發してゐる。(説明は畧す)

### (二) 唱歌教育の反省と其の是正。唱歌教育が時代思潮によつて影響され、方法を與へられることは言を俟たない。一應その變遷の跡を反省することは、唱歌教育將來の是正の資となるであらう。

唱歌科の成立した明治以後を考へるに、

創生期→模倣期→過渡期を経て反省期たる現在に達し未來に及ばんとしてゐる。その各時期の時代相を眺めても先人の失敗と建設との無言の教訓を語つて、反省を促すものが多い。反省すべき處を擧ぐれば、

(イ) ヘルバルト教育説の影響が指導形式を固定化し劃一的な指導に陥らしめなかつたか。

(ロ) 訓育の手段としてのみ存在價值が認められてゐなかつたか。

(ハ) 無自覺な教授法に陥されて兒童が受動的になり自發活動が抑へられてゐなかつたか。

(ニ) 指導が唱誦の指導だけに限られ、唱法の技術的傳達にのみ追はれ根本態度を誤つてゐなかつたか。

(ホ) 歐米の新教育が無反省に取り入れられはしなかつたか。

(ヘ) 兒童性を無視した消化されざる音樂理論の強制、無目的な樂譜指導。過大な聲音訓練が行はれなかつたか。

等が反省される。

これ等の諸點はまた實際の兒童についても徴することが出来る。

今春都市並びに農村を中心とした中等學校學校入學生について音樂調査をした結果を見て、其の第一項「小學校で唱歌は好きでしたか嫌ひでしたか、嫌ひでしたらなせ嫌ひであつたか」

の答案が右の反省を如實に表明してゐる。

これは單に好嫌を示す統計ではなく、過去唱歌指導の缺陷と、將來唱歌指導の方向をさし示し、指導者に訴へ求めて大なるものを語つてゐる。

	中 學 校	女 學 校
好	33.99%	50.57%
嫌	57.50%	14.36%
中	8.49%	35.05%

好嫌の原因の一端



嫌の原因

中學校 (203名=57.5%)

(一) 楽譜に関するもの

- 譜が覚えにくくて嫌です (35名)
- 譜がむづかしい
- 譜をかく試験があるから
- 歌ふのは嫌ひでは無いが譜を書いたり読んだりするのが嫌ひです
- 譜をよく覚えない内に初めるから嫌ひです

(二) 聲音に関するもの

- 聲が良く出なくて歌はれないから (60名)
- 高い聲が出ないから (5)
- 聲の調子がわからないから (4)
- 聲が悪くて先生に叱られてから嫌になりました (3)
- 叱られたり立たせられたりして良く出来ないから (2)
- 歌ふと頭がぼうとする
- 節が出来ません
- 發音が出来ません
- 恥しくて聲が出ません
- 歌ふと聲が疲れて區切らない所まで區切る
- 元は好きでしたが六年になつたら音が下つて難儀な様な気がする (2)
- 五年の終り頃聲が變つて出なくなり息切れして歌はれない
- 笑はれたから (歌ふと) (2)
- 耳が遠くて聞えずに聲が悪くなるから
- 聲がどうしても出なくてややつこしい
- 五六年頃になると段々聲が出なくなり良い聲を出さうと思つても變な声かすれた聲が出て今度無理に出さう翌日學校へ来て何かすれて遊んでも面白くない
- 高い聲が出なくて譜がよめないから (15)

(三) 唱歌教育全般に關して

- 下手だから (27) • 面白くない (7)
- 一人で立つて歌はせられるから (5)
- 點が悪くなるから (6) • 唱歌がよくわからない (4)
- 試験の時一人で歌ふのが嫌ひ (2)
- 歌詞が覚えられなかつたから (5)
- 習つた歌は大抵忘れたから (2)
- 考査の時人に笑はれたから (2)
- 軍歌なら好きですが普通の歌は嫌ひ (2)
- よく教へられなかつたから (2)
- やかましくていやでした
- 同じことばかりで退屈で面白くない
- 女な氣な同じ歌ばかりで十時間も歌はせられたから
- 興味をもつてゐませんでした
- よくのみこめないから

嫌の原因

女學校 (50名=14.36%)

(一) 楽譜に関するもの

- 譜がわからないから (12名)
- 譜がわからない時は嫌ひでした

(二) 聲音に関するもの

- 聲が悪くて下手でしたから (10名)
- 思ひ通り聲が出ないから (10名)
- 良い聲が出す聲がかすれて苦しいから (3)
- 歌を歌つてゐても急に途中で聲がかすれることがあるから (2)
- 歌を聞くのはいいが聲が悪くなるから (2)
- うまく歌へないから
- 音が高い處へ行くと聲が出なくなるから
- 調子が直ぐにはづれるから
- 少し大きな聲を出すと直ぐのどがいたくなるから
- 興味がなくてかれ聲を出すから
- 譜がわからなくて音が出ないから (2)
- 音符が面倒で聲が出ませんから

(三) 唱歌教育全般に關して

- 他の學科より下手でしたから (3)
- 他の學科より込み入つてむづかしい
- 良い點を貰はなかつた (2)
- 面白くないから
- 唱歌の試験が嫌ひでした
- さびしい時は歌ふが氣がむかない時は歌はない
- 唱歌を習つた時が良いが暫くたつと節を忘れてしまつて歌はれなくなるから
- 一つの唱歌をよく覚えない内に別なのを習つたから
- 先生がすぐ少しでも間違ふとすぐおこりなされるから
- いい點を貰つた時は好きですが一人で歌はせられる時は大嫌ひ
- 試験の時になると、急に音が小さくなつてよく歌へない

本譜指導についても、指導を施された者が中學校の27.19% 女學校の33.90% の僅少であるが、就中確實に本譜の實力を有してゐると見られるものは極めて少部分である。

今更樂譜指導の無用論を唱へる者はあるまいが聴唱法のみによつても一年より六年までに如何な發展過程を考察されたかを考へねばならない。

又聲音の陶冶についても練聲の必要は勿論であるが、變聲期といふ病的な期間に加へられる過重の指導を訴へてゐる者が如何に多いか、又如何に唱誦された教材が兒童の情操を培ひ、魂の糧ともならず、徒らに記憶の表面を上滑りして忘れ去られることの多いかに就ても多考を要すると考へてゐる。

(三) 立案の態度

「教育全般より觀たる唱歌教育の中道」を念願してゐる。

(イ) 唱歌教育より音樂教育への擴充

(ロ) 各學年に於ける指導標準を定め小部分なりとも系統的建設的指導を行ふ。

(ハ) 短時間の唱歌指導であるから要點のみを與へ他は兒童自身に工夫研究をせる能率的指導法。

(ニ) 高學年に於ては特に機械的な模倣學習より自學的學習の態度を養成する。

(ホ) 劃一的指導を打破して指導法の多様性について考慮。

(ヘ) 既習事項の練習を絶えず反復して徹したる指導

(四) 運用上の留意點

(イ) 唱誦教材の教材は本縣に於ては新訂尋常小學唱歌のみ認可されて居る爲それを主教材として他の教材は認可あり次第に配當されたい。

各月共に多くの教材を配當して選擇して行くとよい。

(ロ) 音域に於て×印はその音を使用して無い事を示し速度は歌詞全部を唱誦する時間をあらはす。

計算の方法は

一節内の音譜數(四分音符にて速度を示してあれば四分音符として)と小節數と歌詞の節數の積を求め速度を示したる數にて除して時間を求める。

(ハ) 唱誦教材の指導上の注意は主に誤唱され易い所を豫め考慮して指導すれば正しく唱誦され能率的である。

(ニ) 基本指導の項は三年までに本譜視唱の基礎的練習を課して四年より視唱に入る様にしてあるが、兒童の状況により五年或は六年とするならばその間に指導をなす。中途にて指導を開始する時は一應一年よりの練習を参照されたい。

聲音の訓練等は抽象的な説明にては充分述べられないので指導者が範唱や優秀兒童の唱誦を聞かせて絶えず「よい聲」の標準を與へられたい。

説明無き練習も指導者に於て鹽梅されたい。

(ホ) 記述無き時も絶えず前の練習を繰返し徹底されたい。

(ヘ) 毎學年末に進度欄に記入し、反省の一端としたり、擔任變更の引繼に替へ又次の指導の出發點とする。

(ト) 鑑賞指導に於ては主に指導困難な鑑賞レコードについて記述した。



尙設備の理想を求めたら際限が無いので最少限の範囲を想像して要点を説明しレコードの運用につとめた。鑑賞歌曲はレコードを要せず指導者に於て唱誦指導に準じて行ひたい。尙鑑賞レコードの( )印は既習學年を示すものである。

(チ) 器樂指導について現在實施しつつある方法に述べたのであるが指導の一例として御考慮願ひたい。

(リ) 指導能率増進のため具体的教鞭物の製作について今迄忘れ易かつたのであるがその方面の製作に努力して來た。

例へば主要教材の歌曲掛圖、各拍子のリズム掛圖、音樂年表、管絃樂の解説圖、式歌掛圖、五線譜板、音階譜板、シロフォン圖、鍵盤圖等すべて教師の製作によるもので、これ等については指導者に於て創案されたい。

(ヌ) 兒童用筆記帳も低學年には歌詞と繪の記入出来る用紙、シロフォン圖を持ち、高學年には五線紙(線間の廣いもの)シロフォン圖・鍵盤圖等を使用してゐる。

尙指導上の諸點について實施後の反省を承り又御批判を得てよりよき指導体系の生れることを念願してゐる。(岩原)



## 目 次

### 緒 言 (指導体系樹立の趣旨・運用上の留意點)

#### 第一學年

唱誦指導要項	1
基本・鑑賞・器樂指導要項	3
第一學期 唱誦指導	5
同 基本・鑑賞・器樂指導	7
第二學期 唱誦指導	9
同 基本・鑑賞・器樂指導	11
第三學期 唱誦指導	13
同 基本・鑑賞・器樂指導	15

#### 第二學年

唱誦指導要項	17
基本・鑑賞・器樂指導要項	19
第一學期 唱誦指導	21
同 基本・鑑賞・器樂指導	23
第二學期 唱誦指導	25
同 基本・鑑賞・器樂指導	27
第三學期 唱誦指導	29
同 基本・鑑賞・器樂指導	31

#### 第三學年

唱誦指導要項	33
基本・鑑賞・器樂指導要項	35
第一學期 唱誦指導	37
同 基本・鑑賞・器樂指導	39
第二學期 唱誦指導	41
同 基本・鑑賞・器樂指導	43
第三學期 唱誦指導	45
同 基本・鑑賞・器樂指導	47

#### 第四學年

唱誦指導要項	49
基本・鑑賞・器樂指導要項	51
第一學期 唱誦指導	53
同 基本・鑑賞・器樂指導	55
第二學期 唱誦指導	57
同 基本・鑑賞・器樂指導	59
第三學期 唱誦指導	61
同 基本・鑑賞・器樂指導	63

#### 第五學年

唱誦指導要項	65
基本・鑑賞・器樂指導要項	67
第一學期 唱誦指導	69
同 基本・鑑賞・器樂指導	71
第二學期 唱誦指導	73
同 基本・鑑賞・器樂指導	75
第三學期 唱誦指導	77
同 基本・鑑賞・器樂指導	79

#### 第六學年

唱誦指導要項	81
基本・鑑賞・器樂指導要項	83
第一學期 唱誦指導	85
同 基本・鑑賞・器樂指導	87
第二學期 唱誦指導	89
同 基本・鑑賞・器樂指導	91
第三學期 唱誦指導	93
同 基本・鑑賞・器樂指導	95



指導方針

(一) 家庭に於ける生活より學校生活が始まるのであるがその轉換を自然的になだらかなものにするのが初學年指導の要諦であらう。唱歌教育も今迄は家庭に於て無意的な導きであつたものが一定の意圖を持ち体系により有意的指導が加はるのであるがその連絡を無理なく行はせる。自然の歌の生活が次第に唱歌教育を行ふのである。歌ふ喜びを失はせない様に又一定の目的なり方針があると無理が生じ易いから最小の標準に向つて順應せしめ導いて行く方針でありたい。

(二) 四月入學と同時に聞き覚えの教材の調査をする。他日指導の際の方法なり、誤唱個處、大体の傾向が明瞭となる。調査方法は筆答は不可能であるから教師が歌詞を讀むか或は歌つてそれにより知つてゐる兒童に歌はせて調査する。

(三) 入學當初の指導  
「幼稚園の唱歌」「お家で習つた唱歌」といふ様に最初の間は聞き覚えの歌曲を弾き微音にて歌はせる。

(四) 唱歌遊戯との連絡  
体操科の遊戯の要目とよく連絡する。

(五) 誦讀の訓練  
「よくきかせる」事も必要であるが時間が長いとあき易いから一曲或は一部づつでも耳を澄して聞く態度を無理なくつくる。

(六) 意識的唱謠の訓練  
聴唱法による弊害の一は無意識的な模唱である。初期の指導としては仕方無いが次第に反省的に旋律の動き、リズムの流れを意識させながら唱はせ又聞かせる訓練を心掛けねばならない。聴く時でも  
• どんな所が面白いのか。  
• どこを可愛らしく歌つたでせう。

(七) 發想指導  
主に歌詞の内容を話合つて兒童に發見させる。  
• 勇ましく歌ひませう。  
• 鳩(ひよこ)にやさしくお話しする様に歌ひませう。  
又發想を範唱の時つたのとつけないのと比較させてつた氣持よさを味はせる。

(八) 誤唱の訂正  
一年生には聞き覚えの教材が多くその訂正がくどくどしくなり易いから。歌詞の誤りはその意味や發音を直してやり曲のあやまりは旋律唱謠や他の母子者にて正しい歌ひ方を興味的に授けてから歌詞を歌はせる。

(九) 歌詞の指導法  
• 難しい歌詞や兒童の経験にない内容は教師が説話する。  
• 容易な歌詞はその様子を(兒童の想像した情景を)語らせながら後で後述の唱歌帳にかゝせる。  
• 歌ひつゝ内容を考へ次第に深化する態度で進みたい。

指導法

(一) 方法の多様  
既習教材→基本練習→新教材といふ様に一定の形式にのみよるのは高學年に於てさへ避けねばならない。目的さへ定つてゐたならば教材の個性を生かし兒童の興味を引き喜んで學習する方法による方が自然な指導法である。殊に低學年の唱歌は唱歌の一定の時間内よりも各教科に総合的に歌はれるのが望ましい事と思ふが定められた時間に行ふとしても種々なる方法が行はれねばならぬ。

例へば  
(イ) 既習教材の唱謠より  
(ロ) お話より  
(ハ) 繪畫の話合より  
(ニ) 鑑賞より(主にレコード鑑賞)  
(ヘ) 齊唱獨唱より  
(ホ) 基本練習(勿論興味的なもの)より

(二) 教 法  
(イ) 聴唱法によるのであるが成る可く早く一、二小節の分節的取扱より全曲として聴唱させる様に導く。全曲を総合的に聴唱させるには拍子を取りながら鼻聲(ハーミングヴォイス)タ、マ、ラ音にて旋律唱謠させる。  
(ロ) 歌詞は七月末に片假名の學習が大體終つたならば板書して提示してよい。形式は初めは縦書とし次第に横書にも馴れさせる。詩本來としたならば縦書であるが歌曲と結びつけるため又は簡単な記號をつける爲横書は都合がよい。

例(1)  
ソ ト ヘ テル ト キ<sup>V</sup> ト テ キ テ  
オ ツ テ モ オ ツ テ モ<sup>V</sup> ツ イ テ ク ル  
ホ チ ハ<sup>ニ</sup> ホ ト ニ<sup>ニ</sup> カ ハイ イ ナ<sup>ニ</sup>  
例(2)  
ソ ト ヘ テル ト キ<sup>V</sup> ト テ キ<sup>ニ</sup>  
オ<sup>ニ</sup> ツ<sup>ニ</sup> テ<sup>ニ</sup> モ<sup>ニ</sup> オ<sup>ニ</sup> ツ<sup>ニ</sup> テ<sup>ニ</sup> モ<sup>ニ</sup> ツ<sup>ニ</sup> イ<sup>ニ</sup> テ<sup>ニ</sup> ク<sup>ニ</sup> ル<sup>ニ</sup>  
ホ<sup>ニ</sup> チ<sup>ニ</sup> ハ<sup>ニ</sup> ホ<sup>ニ</sup> ト<sup>ニ</sup> ニ<sup>ニ</sup> カ<sup>ニ</sup> ハイ<sup>ニ</sup> イ<sup>ニ</sup> ナ<sup>ニ</sup>  
○は一拍を示す、從つて◎は三拍である。

Vや<sup>ニ</sup>は教へる必要はないが、こゝで息をつき、こゝで一休みませうと示す程度である。

(ハ) 繪畫の利用  
歌詞の混み入つた説明よりも掛圖なり黑板畫によつて説明したならば大へん興味もあり印象深い。畧書事典や畫張等からその教材に必要なものを教師の唱歌帳の空所に記入して置くとよい。小黑板があつたら既習曲は次に述べる低學年用唱歌帳等を見て兒童にあらかじめ板書をさせて置いてよい。

(ニ) 「低學年唱歌帳」(三年まで使用)  
歌詞の繪畫表現である。唱歌の時間に書かせるよりも家庭作業にしてゐる。  
(1) 歌詞の記憶の正否が個人的に訂正出来る。時々誤りに印をつけてやるが正しく歌へたと思つた時でも個人的には随分誤つて覚えてゐる。  
(2) 記憶の獎勵 唱歌帳に後で記入するために眞剣になつて覚える。記入のために覚える意志が無くなる憂ひが無い。類似の歌詞はその相異をはつきり覚えさせる。  
(3) 繪畫表現によつて内容の理解をさせ題目からの連想を繪にするのでなく内容を表現する様に指導する。  
(4) 一人で歌ふ場合歌詞を忘れた時に正しく示す。  
• 唱歌の時間中必要以外は成るべく見ないで歌ふ。

(ホ) 歌はせ方  
• 齊唱、獨唱、組唱、列唱  
• 對話的に歌はせる(旋律の受継ぎ)  
• 内聲唱(口形のみの變化)  
• ハーミングヴォイス  
• 互唱、(分節して交互に唱はせる) 兒童は旋律の動きに注意してよい。  
(ヘ) 暗唱の徹底  
既習曲は何時でも歌へる様に暗誦させる。歌詞を示しすぎると暗唱をさまたげるから短時間に能率的に行ふ。



基本指導

低學年に於ける基本指導は或要素に分けて行ふもので無く、唱誦指導と密接に聯關して興味的な指導を行はねばならぬ。

(イ) 唱歌の動作化

拍子のとり方を先づ指導する、それには唱歌の内容によつて簡単な動作と結びつけたり暗示したりする。

例へば

- 日の丸の旗をふりながら歌つてみませう、きれいにそろつた組が上手なですよ。
- 豆をまきながら鳩の歌を唱ひませう（左手で入れ物を作り右手でまく動作）
- ひよこ（両手で口ばしを表現させ歌に合せて餌を食べる）
- 電車ごっこ（両手で電車の輪をあらはす）等

(ロ) 唱歌遊戯

体操科に行はれるものと異り歌詞の内容の表現よりも曲のリズムに合わせて運動量の少い簡単なもの

例へば

ボート漕ぎ、時計のふりこ遊び、汽車ごっこ、結んで開いて、拍手合せ、動物園ごっこ、模擬演奏等により拍子に対する鋭敏な感受性を養ふ。

(ハ) 第一學年の基本練習は聴音練習を中心として行ふ

(1) 行進、足踏と歌曲との一致。

早く、遅く、強く、弱くにつれて机間又は周圍を行進する。

(2) 音の高さの聴音。

• オクターブを隔て、初めは二組にして行進曲を弾くにつれて自分の組の音が聞えたら拍子をとる。

次第に三、四組に分けて入り交へて行ふことにより音高の判別をさせる。

• 音階圖譜の指導。

音の上昇につれて手を上に上げ、下降につれて下げ、中途から變化させる、この指導の後に譜板上にドからシまでをはりつけて、音名を擬人化して歌はせる。

(3) 拍子練習

拍子のとり方……拍手による、打節（掌を指二本にて打つ）による。

又二拍子では二本の指を、三拍子では三本を、四拍子では四本の指を順次に正しくたたく方法もよい。

又たよく場所を異にしてもよい、四拍子ならば手、手、胸、机といふ様に

各拍子の區別……鍛冶屋の槌音として教へる。（アクセントを入れ）

二拍子    ドン    カン | ドン    カン

三拍子    ドン    カン    カン | ドン    カン    カン

四拍子    ドツ    テン    カン    カン | ドツ    テン    カン    カン

机上で演奏（ピアノ、オルガン）の模倣をさせて自由に拍子練習をなす。

(4) 音階練習

擬聲音を用ひて興味的に行ふ。

擬聲音の調査 環境の中のもの調査して利用する。

例へば

- カラス……カア    カア                      • ネズミ……チュツ    チュツ
- ヒヨコ……ピヨ    ピヨ                      • セ    ミ……ミン    ミン    ミン
- 犬                      ……ワン    ワン                      • タイコ……ドン    ドン    ドン等
- 牛                      ……モウ    モウ

次に母子音にうつり圖譜の指示唱による。

(5) 音程練習

- 擬聲音を用ひて「犬の歌」「自動車の歌」「汽車の歌」といふ様に簡単なものを即興曲として歌はせる。
- 既習曲の一部を歌はせる。
- 一度示したものは機会ある毎に繰返す。

(6) 發聲練習

聲の模範を示す事が大切で如何なる注意よりも効果がある。

故に教師の範唱、模範となる兒童の獨唱により正しい聲音へと導く

一時間中に於ても聲量を變化させて疲れさせない様にする、この時も教師の範唱によつてその程度を示すとよい。

口形の指導は一、二年中に訓練しないと高學年になつて指導が困難である。

- 口をはつきりあけて、大きく小さくしながら歌つてごらん。
- 時々歌つてゐる兒童の個人について口形の變化を賞揚すると他の兒童も模倣する。
- 子音を明瞭に出して早く母音にうつす。
- 鏡が設備してあつたら唱歌室を出る時「アエイオウ」と云ひながら各自の口形をみさせる。

(7) 階名唱誦になれさせる。

歌曲が稍唱誦出来るやうになつたら階名と歌詞を交互に歌はせたり、階名で聴唱させたり、教師は歌詞で兒童は階名で歌はせたりして階名や音程、拍子、リズムに馴れさせる。

(ニ) 低學年基本指導の注意

身体的に見ても、心理的に見ても、呼吸器も發達せず、吸氣も不十分で又注意力も持續せず練習に變化をつけ又練習曲等も速度の速い輕快な律動的の練習を主とする。

高學年になつたならば、靜的な練習法によつてもよい。

鑑賞指導

鑑賞指導に於ては鑑賞歌曲、鑑賞用レコード、其他各方面の指導が含まれねばならぬが主にレコード鑑賞を中心として述べる。

(イ) レコードの選定（其ノ一）

最も困難なるのは選定よりも設備費である。故にその額によつて制限されるのであるが。

- 同一レコードの指導點を學年相應に定めて何回となく使用する。
- 指導要項中の（學年）は指導した學年を示す。音の推移による瞬間的印象であるから決してあきることなく反つて新教材よりも親しみを持つ。
- 學年の主眼によつて選ぶのであるが成るべく理解の容易のもので多方面に指導出来るものを選ぶ。
- 詳細に解説することが出来ないのは遺憾であるが、たゞ指導要項のみを示す。
- 一時單元の指導で無くて適當に分割して月中に指導する。
- 時々教師が指導せずたゞ諦聽させるのみの鑑賞も行ふ。（要項には記述して無し）


(ロ) 第一學年指導事項

- 感想發表                      • 音樂童話                      • 内容の想像                      • 器樂指導と連絡（リズム樂器）
- 拍子練習                      • 旋律鑑賞（旋律をロサさむ程度に）                      • 繪畫表現
- 自由表現（模倣演奏等）                      • 音色鑑賞

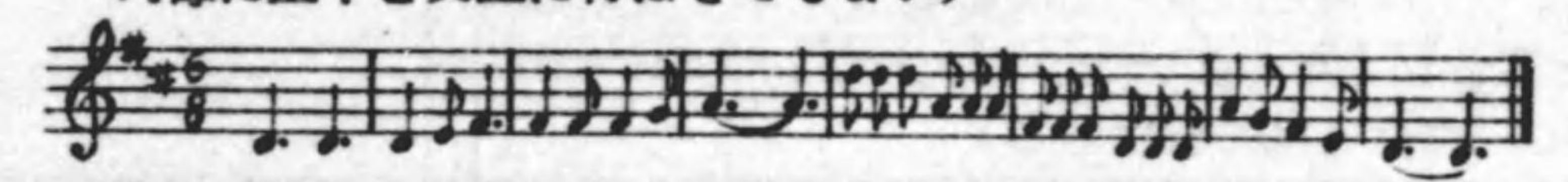
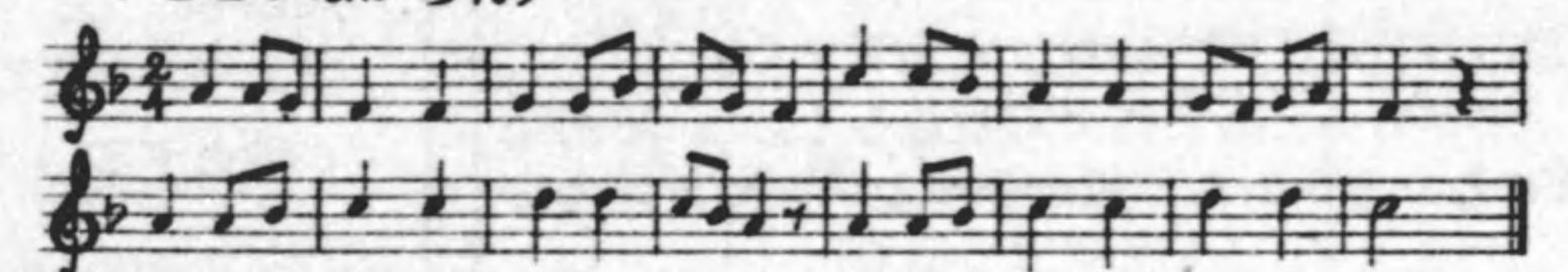
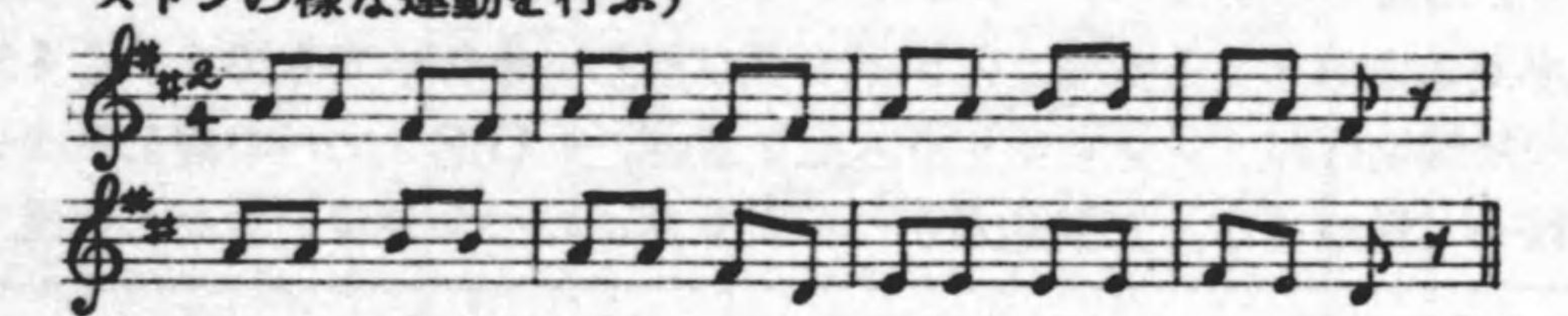
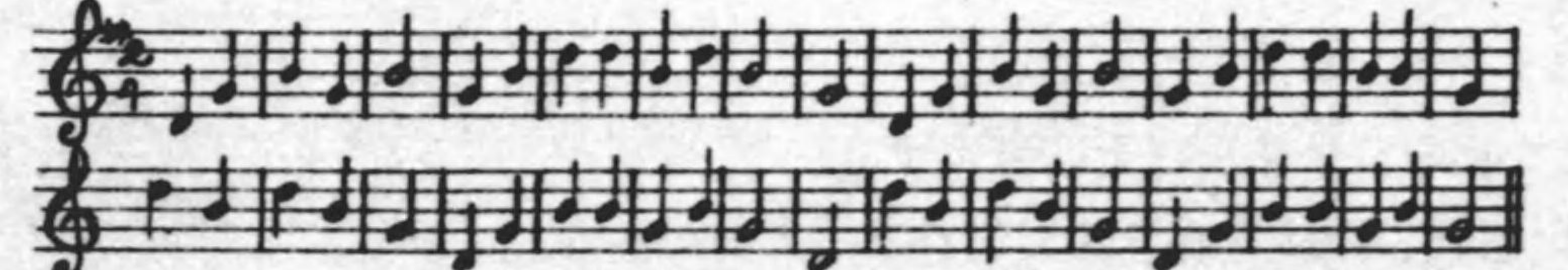


5 尋一 第一學期 唱謠指導

月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
4	日の丸の旗		$\frac{2}{4}$	$\text{♩}=\text{108}$	36秒弱	國民の信念と意氣とを表徴してゐる日の丸の旗の歌曲を授けて美しさと勇しさに感じさせる。
	鳩		$\frac{2}{4}$	$\text{♩}=\text{96}$	30秒	兒童に親しまれてゐる鳩の歌曲を授けて鳩を愛撫する優しい情を養ふ。
5	兵隊さん	$\sharp$	$\frac{2}{4}$	$\text{♩}=\text{120}$	40秒	子供達の憧憬の中心である兵隊さんの行進の壯觀を表現した本歌曲を授けて雄壯快活の情を養ふと共にスタッカットのある=調四分の二拍子の唱謠に習熟させる。
	ひよこ		$\frac{4}{4}$	$\text{♩}=\text{112}$	1分9秒弱	ひよこを可愛がる様子を表現した本歌曲を授けて動物愛護の優しい情を養ふと共に初めての四分の四拍子の唱謠に習熟させる。
6	かたつむり	$\sharp$	$\frac{2}{4}$	$\text{♩}=\text{92}$	42秒弱	かたつむりに親しみを以て呼びかけてゐる本歌曲を授けて滑稽味と快活の情を養ふと共に $\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩}$ のリズムを含んだ歌曲の唱謠になれさせる。
	電車ごっこ	$\sharp$	$\frac{2}{4}$	$\text{♩}=\text{104}$	28秒弱	電車ごっこの面白さを表現した本歌曲を授けて喜びの情を養ふと共にシンコペーションや十六分音符の唱謠力を養ふ。
7	朝顔		$\frac{2}{4}$	$\text{♩}=\text{84}$	34秒強	美しい朝顔の咲くのを毎朝楽しみに待つてゐる本歌曲を授けて優美の情を養ふと共に休止符の無い歌曲の唱謠に習熟させる。
	池の鯉	$\sharp$	$\frac{2}{4}$	$\text{♩}=\text{96}$	30秒	池の鯉に対する愛らしい情景を表現した本歌曲を授けて快活の情趣を養ふ。

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>唱歌教室への出入は軽快な行進曲に合わせて行ふ。机へつける時も自由に行進曲に合せながら静かに着く練習をやつたり机間を早く、遅く行進させる練習を行ふ。</li> <li>聞え覚えの教材が多いから分節指導法によらず全体を通じて誤唱を訂正する。</li> <li>「勢見せて」はいきよいではなくいきおいと發音させる。</li> <li>をを守らないと重苦しくなる。</li> <li>のリズムが <math>\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩} \text{ ♩}</math> となり易い。(一つ一つ歩く様に歌はせる)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>讀方の「ハトハト オミヤノヤネカラ オリテコイ」を取扱ひながら歌はせるとよい。</li> <li>休止符がないからブレスに注意して範唱する。</li> <li>は <math>\text{♩} \text{ ♩}</math> に歌ひ易い、「飛んで行け」は「いけ」と發音する。</li> <li>「ポツポツポ」は明快に歌ふ、鳩が鳴いてゐる様に可愛らしく。</li> <li>聞き覚えの教材であると、どなり聲になり易いから「鳩が逃げない様に可愛らしく歌ひませう」と注意する。</li> </ul>	<p>※ 範奏の際 <math>\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩}</math> の所は楽器も歌ふ場合と同じく正しく休止する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて=調が出て音域が下に擴張される。</li> <li>スタッカットの歌ひ方は「お口を開けてはきはき歌ひませう」と注意する。</li> <li>二節の「お馬に」の處はスタッカットでなく普通に歌つた方がよい。</li> <li>粗暴な唱ひ方になるからその時は「元氣があり過ぎると兵隊さんが列を飛び出してきれいでも勇ましくも無くなりますよ。」</li> <li>「アルイテル」の同音進行が「レレレミレ」となり易い。</li> <li>行進ラツパの譜を歌はせ一組はそれを唱ひ他の組はそれに續いて歌はせる。又銃砲をかついだり馬にのつた想像をさせて行進する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>同形旋律や類似旋律があるから分節取扱にしくなく旋律唱謠を先にした方がよい。</li> <li>四拍子によく慣れさせる。</li> <li>「行くな」は「いくな」と發音。</li> <li>休止符を正しく守る。その前の四分音符がのび易い。</li> <li>教訓は表面に出さず暗示的に。</li> <li>二段のVはその前のJを少し短くする。</li> <li>連合音符は滑かに歌ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>初めてF<math>\sharp</math>が出て半音進行が行はれてゐる。</li> <li><math>\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩} \text{ ♩}</math> のリズムになれさせる <math>\text{♩}</math> は明瞭に發聲させ母音をよくひびかせるソ④-ソソミ。</li> <li>第三段の「つのだせ」は「の」にアクセントがつき易く殊に「あたまだせ」「めだまだせ」の處は「た」「だ」について不自然になる。</li> <li>各段終りの四分音符は短く切る様に弱く歌ふ、のぼすと快活な氣持が出ない。</li> <li>濁音は軽く發音してきれいに。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>朗讀の時はリズムにのせて次第に唱謠へと導く。</li> <li>十六分音符の所は言葉を早く明瞭に。</li> <li>「うごきます」は「ミミソソミ」となり易い。</li> <li><math>\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩}</math> 「テンテン」は「チーンテン」と歌ひレガートに。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>片假名の學習が本月を以て大體終るから板書も加へる。</li> <li>縦書にして次第に横書にもなれさせる。ブレスの場所も記入させる。</li> <li>低學年唱歌帳に記入させる。四月よりの教材も書かせる。</li> <li>鳩と全じく休止符が無いからブレスの所を明かに示す。</li> <li><math>\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩}</math> は <math>\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩}</math> の形式に歌ふ。</li> <li>短三度(ソ←→ミ)の進行が六回も繰返される。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>三段から四段との進行にオクターブの超越進行がある、上行の高さを充分にとらないと音が下り易い。</li> <li>一段三小節「ドレミファ」が「ドレミソ」となり易い。</li> <li>「キタラコイ」のイは短くして次の八分休止符を明瞭にする。</li> <li>二段に切分音の唱法があるが歌詞二節は普通に「しだれた」と歌ふ。</li> </ul>	 <p>奏法(琶音)</p>



月	基本指導	鑑賞
4	<p>唱歌遊戯による拍子練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポート漕ぎ (次の曲に合わせてポートを漕ぐ動作をなす組毎に又列毎に上下を交互に行はせてもよい)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 結んで開いて (曲に合わせて結んでは手を結び開いては開いて拍子を取りながら行)</li> </ul> 	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 汽車ごっこ (曲に合わせて両手を開いて両側に屈けて軽くつけピストンの様な運動を行ふ)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 模擬演奏 「さあ両手を机の上に対して先生のピアノ (或は歌) に合わせて弾きませう」 • 教材に即した動作化を行ふ。</li> <li>• 曲に合わせて行進したり足踏みの練習 (教室の出入、気分轉換に) 早い…こまた 遅い…大また 強い…股を上げ 弱い…股を下げ</li> </ul>	<p>鉛の兵隊行進曲 (描寫樂)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 兵隊さんが何をしてゐる</li> <li>• どんな音が聞えました</li> <li>• 手を拍つて兵隊さんに合さあ一緒に兵隊さんにな (全部出来なければ列毎)</li> <li>• 繪に書いてごらん。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音高の聴音 オクターブを隔てゝ行進曲をひき高い方が聞えたら高い組は立つて拍子をとる、低い時は低い組が座したまゝ拍子をとる。オクターブから音を次第に接近させる。</li> <li>• 擬聲音の調査 「みなさんの色々の音を聞いた内で面白いと思ふ音をそのまゝ口で云つて下さい。」</li> <li>• 聴音練習 音の上昇によつて手を前に延ばして下降によつて手を下げる。自由に上下出来る様にする。</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 拍子練習 拍子のとり方の指導。歌ふ時は絶えず拍子をとる様に導く。打所も手だけではなく頭、胸、机等を交互に打つ。</li> <li>• 階名唱法 既習曲を階名にて聴唱させ階名にしたしませる。</li> <li>• ラツパの歌として教へて行進の際に用ひたり音程練習にしたりする。</li> </ul> 	<p>玩具の兵隊觀兵式 (描寫樂)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 何をしてゐるレコードで</li> <li>• 勇ましい觀兵式をしてゐ (讀本の掛圖を示す)</li> <li>• 觀兵式の様子を考へて下</li> <li>• 両手を机の上に出して指 (自由表現)</li> <li>• 前にもこれに似たレコー</li> </ul>

指導	器樂指導
	<p>器樂指導</p> <p>(イ) 方針</p> <p>唱歌教育が現在歌ふ事のみを終始すること無くあらゆる体験を通して音楽生活を發展させねばならぬと云ふ主潮は認められてゐるけれども方法上の問題に行き悩んでゐる様である。その解決の一方途として兒童の合奏指導の試案について述べてみる。</p> <p>(ロ) 合奏指導の價値</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 變聲期或は發聲上の障害から歌はれない兒童に音樂的体験を與へる。</li> <li>(2) 合唱に於けるが如く個々の表現が統一され全体としての音樂演奏の美しさを醸成する。</li> <li>(3) リズム感を養成する。</li> <li>(4) 音に對する感性が一層養はれる。</li> <li>(5) 興味的に自發的に學習する。</li> <li>(6) 樂器製作の教育的意義。</li> <li>(7) 管弦樂其他の音樂鑑賞を容易ならしめる。</li> </ol> <p>(ハ) 設備</p> <p>最も困難なるは經費の點であるが成るべく手工料に於て上級學年に製作させるがよい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) リズム樂器 <ul style="list-style-type: none"> <li>太鼓 (製作出来難い)</li> <li>トライアングル</li> <li>カステネット</li> <li>輪 鈴</li> <li>タンブリン</li> <li>シンバル</li> </ul> </li> <li>(2) 旋律樂器 <ul style="list-style-type: none"> <li>明笛 (製作可能)</li> <li>銀笛</li> <li>シロフォン (製作可能)</li> <li>ハーモニカ</li> </ul> </li> </ol>
<p>のかわかりますか。(感想發表)か。</p> <p>せてごらん。</p> <p>つて歩いて見ませう。(自由表現)に順次に)</p> <p>(低學年唱歌帳に)(繪畫表現)</p>	
<p>せうね。(感想發表)</p> <p>るのですよ、觀兵式はわかりますか。</p> <p>さい。</p> <p>を兵隊さんにして觀兵式をさせませう。</p> <p>ドを聞きましたね覚えてゐますか。</p>	







月	基 本 指 導	鑑 賞
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一學期の練習を繰り返す。</li> <li>擬聲音による音程練習。 (鈴、鐘、犬、猫、太鼓、ラツパ、汽車、自動車等) 音數、音域を次第に増加する。</li> </ul> <p>例</p> 	<p>アメリカン・パトロール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな音が聞えるかあて</li> <li>何をしてゐるのでせう。</li> <li>アメリカの兵隊さんが勇</li> <li>音がどんなになつてゐま</li> <li>大きくなつたり、小さく</li> <li>(そう初めは遠くから近</li> <li>一緒に兵隊さんになつて</li> <li>覺えた所をタンタンで歌</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>擬聲音による音階練習</li> </ul> <p>例</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>音階圖譜の指導 階段の所にド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、の兄弟がきちんと ならんでゐます。 ドミソは女ですから赤くしませう、ドはドの歌が上手で、レは レの歌が上手です、さあ先生が指した所の兄弟の歌を歌つて下 さい。 例 (ドレミファソソソ (ソミソミドミド (ララソファミレド (レレミファミレド</li> </ul>	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍子練習 呼稱のしかた、鍛冶屋さんが槌を打つ時に色々の打方がありま すが今日はこんな打方をしてみませう。 トッ テン カン カン   トッ テン カン カン トッ テン カン カン 手を拍つ時にもこんな氣持で強く弱くうちませう。 「人形や菊の花が四拍子であるからこれの指導をなす」</li> <li>音階圖譜の指導 (ドーシ)</li> </ul>	<p>キュービーの行列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キュービーさんが出ます</li> <li>一緒になつて歩いてみま</li> <li>よく聞いてお話が出来ま</li> <li>お話のうちの何處でもよ</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>音階練習 (=調) つみ木に=調のオクターブの各音が出たから順次進行を行ふ。</li> <li>階名唱論を繰り返す。</li> <li>拍子練習 (二拍子) トン カン   トン カン   トン カン   トン カン</li> </ul>	

指 導	器 樂 指 導
<p>と下さい。(音色鑑賞) (感想發表) ましく歩いてゐるのですよ。 すか。 なつたりしますが何故かわかりますか。 くへまた遠くへ行くのですね) 合せませう。(自由表現) つてみませう。(旋律鑑賞)</p>	<p>(二) 指導系統案</p> <p>(1) 第一學年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌のリズムに合わせて合奏する。</li> <li>ピアノの旋律に合わせて合奏する。</li> <li>レコードに合せる。</li> <li>樂器は主にリズム樂器だけを用ふ。</li> <li>教師の指揮による合奏。(及び自由合奏)</li> </ul> <p>(2) 第二學年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌のリズムに合奏。</li> <li>主旋律に合奏。(ピアノ)</li> <li>レコードに合せる。</li> <li>旋律樂器としてシロフォンの初歩指導。</li> <li>教師の指揮による合奏。</li> </ul> <p>(3) 第三學年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌のリズムに合奏。</li> <li>主旋律に合奏。(ピアノ)</li> <li>レコードに合せる。</li> <li>リズム樂器、シロフォン指導。</li> <li>教師の指揮による合奏。</li> </ul> <p>(4) 第四學年 全 上</p> <p>(5) 第五學年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌のリズムに合奏。</li> <li>主旋律に合奏。</li> <li>レコードに合せる。</li> <li>明笛、ハーモニカ、ピアノ、銀笛の初歩指導。</li> <li>樂譜による合奏を加へる。</li> </ul> <p>(6) 第六學年 全 上</p>
<p>が何をしてゐるのでせう。 せう。(自由表現) すか。(感想發表) いから繪に書いて下さい。(繪畫表現)</p>	

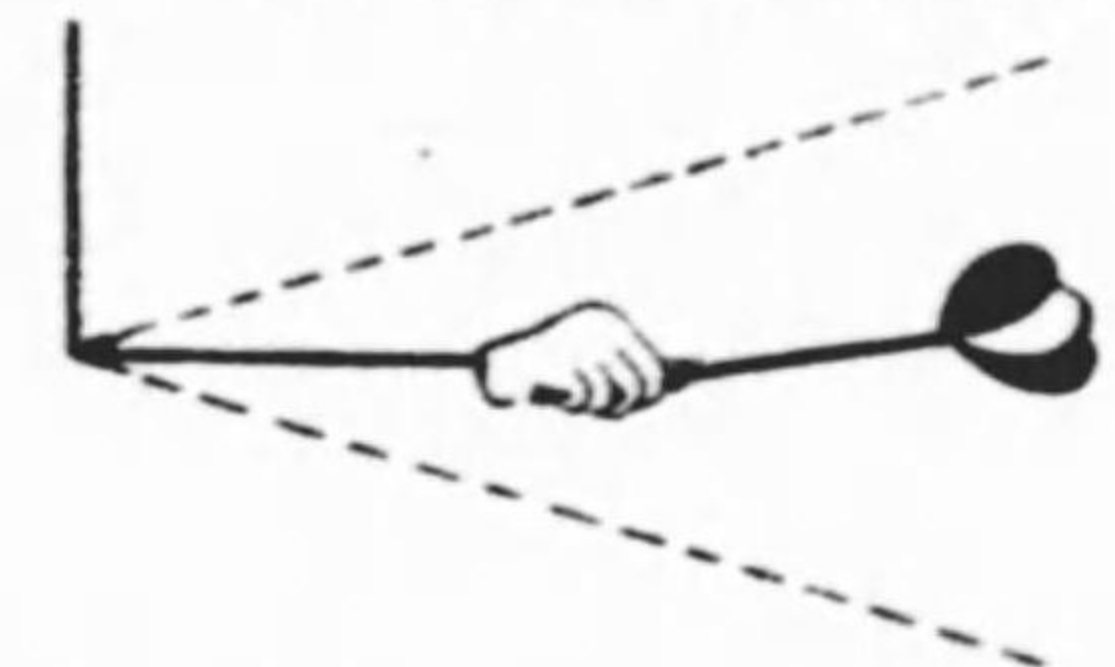


月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
1	雪達鷹		$\frac{2}{4}$		$J=100$ 38秒強	雪達鷹の面白さを表現した本歌曲を授けて快活の情を養ひ半音進行の唱謠に習熟せしめる。
	兎	$\sharp\sharp$	$\frac{2}{4}$		$J=96$ 40秒	可愛い兎の性情を表現した本歌曲を授けて優美快活の情を養ふ。
2	犬	$\sharp\sharp$	$\frac{4}{4}$		$J=120$ 48秒	ボチの可愛らしさを表現した本歌曲を授けて愛らしい情景にひたらせて快活の情を養ふ。
3	花咲爺	$\sharp\sharp$	$\frac{2}{4}$		$J=84$ 46秒弱	讀方「ハナサカヂヂイ」の學習と連絡して本歌曲を授けて童話教材の内容を一層深化し快活の情を養ふ。
	新訂尋常小學唱歌第一學年用	調子 $\flat 10$ $\sharp 6$ $\sharp 11$	拍子 $\frac{2}{4}$ 21 $\frac{4}{4}$ 6	音域 	音程 完全一度 長二度(各種) 短二度 $\text{ファ} \leftrightarrow \text{ミ}$ $\text{ド} \leftrightarrow \text{シ}$ 長三度 $\text{ミ} \leftrightarrow \text{ド}$ $\text{ラ} \leftrightarrow \text{ファ}$ 短三度 $\text{ソ} \leftrightarrow \text{ミ}$ $\text{ド} \leftrightarrow \text{ラ}$ 完全四度 $\text{ソ} \leftrightarrow \text{レ}$ $\text{ラ} \leftrightarrow \text{ミ}$ $\text{ド} \leftrightarrow \text{ソ}$ 完全五度 $\text{ソ} \leftrightarrow \text{ド}$ $\text{ラ} \leftrightarrow \text{レ}$ 短六度 $\text{ド} \rightarrow \text{ミ}$ 完全八度 $\text{ソ} \leftrightarrow \text{ソ}$ $\text{ド} \leftrightarrow \text{ド}$	

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律唱謠によつて曲のリズムを正しくして唱謠させる。</li> <li><math>\text{ゴモシ ユキダケル}</math> が <math>\text{ドミソラソ}</math> に誤り易い。</li> <li><math>\text{ミ} \leftrightarrow \text{ファ}</math> の半音進行は明瞭に。</li> <li><math>\text{メダマラムイテ}</math> ははきはき明瞭に、終りの「ね」は軽くぼつと切る。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>八分音符並列のリズムを明確に唱謠する。</li> <li>三段(ミミミファラソ)「ナニヨリジマン」が(ミミミソラソ)になり易く</li> <li>終りの「レミミレド」が「ドミミレド」になり易い。</li> <li>四拍子になり易いから各小節の初めの音に相當アクセントをつける。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li><math>\text{ドミソラソ}</math> のリズムが多いため <math>\text{ドミソラ}</math> が誤られ易い。</li> <li>「ほんとに」は「ほーんとに」と歌ふと可愛らしい。</li> <li>「すがつて」は「すがあつて」とがの母音を延して終りに捉音を挟む様にする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>一段の <math>\text{ド}</math> は軽くアクセントをつけてリズムを明瞭にあらはす。</li> <li>「ヂヂイ」は軽く發音。</li> <li>二段二小節の「ソーツミ」が「ソーラソミ」となり易い。</li> </ul>	
<p>新出リズム</p>	



月	基本指導	鑑賞
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物園遊び。 各列をうさぎ、象、猿、鴨、といふ様に分けその列の人が曲に合わせて動作を行ふ。 例 鬼の列（ビヨンビヨン飛んだり、両手で長い耳を作つたりして机の間を曲に合わせて行く）</li> <li>母子音による音程練習。 例 ミドミド ミソソ ファレレ ミドド ラ、、、 ラ、、 ラ、、 ラ、、 バ、、、 バ、、 バ、、 バ、、 マ、、、 マ、、 マ、、 マ、、</li> </ul>	<p>時計屋の店（描寫音楽）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞いて思つた事を云つて</li> <li>手を拍つて時計に合わせて</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴音練習（音数をあてる）</li> <li>音階練習 階名にて行ふ。（=調）</li> <li>階名唱謡 旋律唱謡の模唱を多く行ふ。 簡単な行進曲を階名にて教へ教室の出入にはそれに合わせて歌はせる様にする。 又既習曲を行進曲にして階名唱謡させるもよい。</li> </ul>	<p>軍艦マーチ（吹奏楽） 敷島行進曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何のレコードかわかりませぬ。</li> <li>一緒にうたつてみませう。（旋律鑑賞）</li> <li>太鼓、ラツパの組に分けて模擬演奏。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>音程練習 擬聲音や母子音、階名を加へて興味的に行ふ。</li> <li>發聲練習 本學年にては個々の練習はしないが絶えず注意して「氣持のよい聲」「きれいな聲」として教師や児童の範唱を聞かせる。</li> </ul>	
	本學年基本指導上の反省事項及び進捗（指導者記入）	<p>本學年指導教材（指導點を示したるもののみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉛の兵隊行進曲 (C509B)</li> <li>玩具の兵隊觀兵式 (C509A)</li> <li>アメリカン・パトロール (C267A)</li> <li>キュービーの行列 (C90523B)</li> <li>時計屋の店 (V10160)</li> <li>軍艦マーチ (P333)</li> <li>敷島行進曲</li> </ul>

指導	器樂指導
<p>下さい。（感想發表）</p> <p>下さい。（リズム鑑賞）</p>	<p>第一學年第三學期の指導事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>時間の終りに樂器を列毎に配置して歌に合せたり、ピアノに合せたり自由に合奏させる。 ・「歌やピアノの歌がよく聞へる様に小さい音ではつきり出しませう。」 ・樂器は交替させる。</li> <li>拍子をとらせる 樂器、リズムを打つ樂器を定めて交互に合奏させる。</li> <li>教師の指導 レコードを使用する、その曲も簡単な行進曲等がよい。 「先生の合圖のあつた所だけを鳴らしなさい」</li> </ol> <p>□カステネットの指導</p> <p>(イ) 持ち方 カステネットの柄を右手に持ち 圖の如くに保持する</p>  <p>(ロ) 手頭を柔かくして上下に運動させる。 カステネットを横向に持つと音が出ない。</p> <p>□タンバリン</p> <p>(イ) 持ち方 木枠の穴に親指を入れて左手を曲げて直角として垂直に持つ、右手の指先を使つてタンバリンの革の中央部を打つ。</p> <p>(ロ) 手頭を柔かくして顛はせることが出来る様に持つ。</p>



指導方針

- 前學年同様に唱歌に興味をもたせ喜んで歌ふ習慣をつけたい。
- 唱謠指導も他の基本指導と連絡して少しずつ指導點を向上させる。
- 歌曲の取扱  
何時でも自由に歌はれる様になつてゐなければならぬ、特殊な曲ばかり歌はれたりその學期に習つたものだけしか歌はれなかつたりしては眞に歌曲の氣分を味得することは出来ない。  
その方法として。  
時間の終りの既習教材の唱謠は單にその學期その學年だけでなく今までの曲をどれでも歌はせる。  
疲れると思つたら「教室の唱歌會」といふ様にして四人毎或は獨唱、分團毎に歌はせる。六年生になつてから時には鳩や日の丸の旗が出るもなごやかな氣分がする。

指導法

(一) 方法の多様

- 前學年に於て述べた如く教材の個性に應じ又その日の兒童の様子(例へば体操の後、炎天の運動の後、寒い日等の外的影響や學習態度等)により方法を選ぶ。
- (イ) 既習教材の唱謠
  - (ロ) お話より
  - (ハ) 繪畫の話合
  - (ニ) 鑑賞より
  - (ホ) 齊唱、獨唱より
  - (ヘ) 基本練習より

(二) 教法

聽唱法によるのであるがその同一方法の中でも次第に程度を高める様にする。

(イ) 教授能率に於て時間が少くて唱謠が完成する。

(ロ) 旋律について意識的に理解させる方法をとる。

例「雲雀」

- 今ピアノで弾く歌をハーミングで歌ひながら(或はタ、ラ音)何の歌かあてよ下さい。  
三回續けますからその間拍子をそつてよく歌ひませう。(旋律唱謠)

旋律だけでも美しく音樂的である時は旋律唱謠をさせて曲を正しく導き、それを味ひ樂しませながら全体的把捉をさせる。然る後歌詞を指導する。

- 今日習ふ唱歌を書きますからすらすら読んで早く暗誦して下さい。一話合一歌ひながら印をつけますから何處にどんぞ印がつくか拍子をとりながら聞かせよう。

ビーイ ビーイ ビイトーV サヘズル ヒバリーV  
 サイツリ ナガラー V フーコマデ アガルーV  
 タカイー タカイー V タモノー ウヘカーV  
 コーエハ キーコエテ V ミーエナイ ヒバリー||

初めはーやVをつける。  
 次に- 拍毎に○をつけて行く。二拍の處は◎で拍子を二つうつことを知らせる。

- 旋律の以上の事を見せさせることはむづかしいとしてもVや♪位は発見させて行く事も出来ると思ふ。

(三) 階名唱謠について

一年生より既習教材については絶えず興味を失はない様に階名唱謠を繰返す。

殊に基本練習と連絡して行く時に階名の認識、音程の把捉等によい。

方法

(イ) 聽唱的に行ふ。

- 雲雀の三番を歌ひますから早く覚えて下さい。「ミーレ ミーレ ミレド ミソソミ ドレミー」板書してもよい(假名譜で)が成るべく早く覚えるために聽唱させるがよい。  
階名唱謠を競争させる。

(ロ) 音階圖(音階圖譜の左側)を使つて指しながら階名で歌はせる。

一年生の初期は假名のついた白丸赤丸を使用したがるべく早くとる。

本學年中にハ調のオクターブ、ヘ調のオクターブの階名、場所をはつきり覚えさせる。

困難のやうに見えるが階名唱謠をやる内に自然に覚える。

(ハ) 樂譜板の利用

(ひばりの曲)

(ニ) 假名符

上の様な形式で假名符を與へ歌へる様になつたらクレオンでその上をぬらせて假名を消す。

(四) 低學年唱歌帳(前述)

(五) 繪畫の利用(前述)

(六) リズム二つについて

歌はせたり聽音させたり音程練習の際は正しく指導しなければならないが記譜する時はすべて●によつた方が簡單で繁雜でなく都合がよい。

(七) 歌詞指導上の注意

歌詞内容の話合や説明に時間を長く取る事は唱ふ意欲をそぐものであるから歌ひつゝ考へさせ考へつゝ歌はせ教授時數のたつにつれて内容を深める。

(八) 既習教材の唱謠

絶えず歌はせる様に工夫したい教師の好みや兒童の好みによると歌へる教材がかたより易いから成るべく繰返す様にする又歌詞が數節ある時は第一歌詞以外をとり出して歌はせる。  
既習教材の唱謠を興味的に行ふため低學年であつたならば  
教室の唱歌會 等としてプログラムを定め  
ラヂオの子供の時間  
で獨唱齊唱を奨励する。

(九) 歌詞の練習の時

記憶させる方法として第一歌詞と第二歌詞を同時に歌はせる。その時の注意事項

- (イ) 亂暴な聲では歌はつきりきこえない。
- (ロ) 口をはきはき動かす方がよく歌へる。
- (ハ) はつきり、きれいに聞えた方はどちらであるか聞いてゐます。

(十) 誤唱の訂正

旋律の聽音をさせながら早くその歌詞を正しく歌ふ練習を加へて餘り教授が斷片的にならない様に注意する。



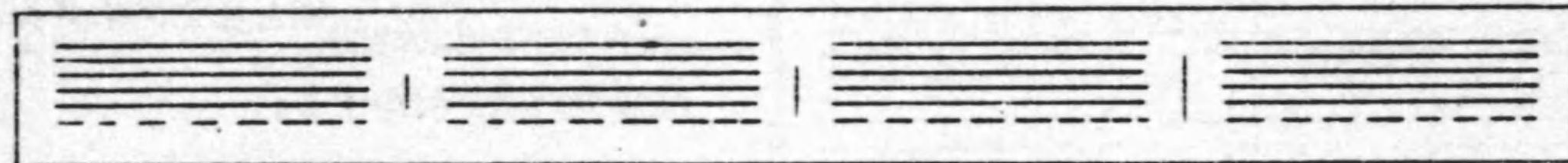
**基本指導**

前學年同様 唱誦指導と連絡して興味的に行ふ。

- (イ) 唱歌の動作化による拍子練習(前述)
- (ロ) 簡単な唱歌遊戯(前述)
- (ハ) 本學年は音階圖(音階圖譜の左側のもの)による音程練習を中心に各練習を有機的に行ふ。

**音階圖の指導過程**

- 一年生の前期は白丸、赤丸に假名をつけたものを用いたが後期になつて白丸、赤丸に代へる。
- ドミソドの四ヶの赤丸もドソドの三個にしドの二個に減らしドの一個にても歌へる様にする。
- 音程の把握  
指した音程を歌ひ出すことが出来なくなつた時は音階を順次に進つて音程を發見させる様に指す。  
速には指した處を反射的に歌へるまでにする。  
ハ調にして歌へる様になつたらドをファに移動させてハ調の練習も行ふ。  
階名唱誦と連絡すれば困難では無い。  
階名で歌へる様になつたら母子音にて行ふ。
- 歌曲の判別練習  
音階圖を指して既習曲をあてさせる、練習を多くやる。
- 練習は弱聲に歌はせる時を多くす。  
普通に歌はせると疲勞し易いから教授能率上と音程を明確にする兩方面から弱聲に行ふ事も必要である
- 音程練習も聴音練習も曲として面白く歌はせる。
- 兒童も自由に指す事が出来る様又五線に親しませるために机上に五線をペンキかエナメルで記入するとよい、例へば四人掛の机であるならば。



樂譜の遊戯的指導に利用するとよい。  
圖書紙かボール紙に色紙を張り打抜にて丸を作り線上に並べたり、間に並べたり又樂譜板と連絡して兒童自身に並べさせる様指導する。

**(ニ) 聴音練習**

- 唱誦練習の際に判別させる事を多く加へる。
- 同形、類似旋律の發見。
  - 強い所が曲中の何處かの發見。
  - リズム、音高の歌を聞き分ける。
  - プレツスや長短音を聞きとる。
  - 旋律を階名にて唱はせる。
  - 旋律を明瞭に覚えさせ又聴かせるために歌曲の一部のリズム、音高を變へて唱奏し發見させる。

**(ホ) 發聲發音練習**

- 唱誦中適當に注意した方がよい。
- 口は はきはき 動かす。
  - 教壇に出て歌ふ兒童について他の兒童が注意し合ふ。
  - 尚呼吸と關係するから V 1, 2 の指導をよくやる。
  - 絶えず注意する「口をよくあけて言葉をはつきり歌ひませう」

**(ハ) 音階練習の歌(うたのけいこ)**

この曲を授けて興味的に音階練習が出来て有効である。

うたのけいこ

**鑑賞指導**

**(イ) 指導案について**

下の如き形式のカードを作り一曲に一枚をあてあらゆる解説を記入し又兒童の感想發表、自由表現、其他の反省を記入し各學年の指導點を統制する指導案が必要である。  
全部まとめてバインダーに綴込み鑑賞細目が出来る。  
指導する場合一應目を通して指導點を定める。

(裏面)

年學 第	年學 第	年學 第	レコード鑑賞要項
第	第	第	
學	學	學	

(表面)

解説	目録	目録
	番号	

**第二學年**  
**(ロ) 指導法**  
前學年に全じ

**樂器指導**

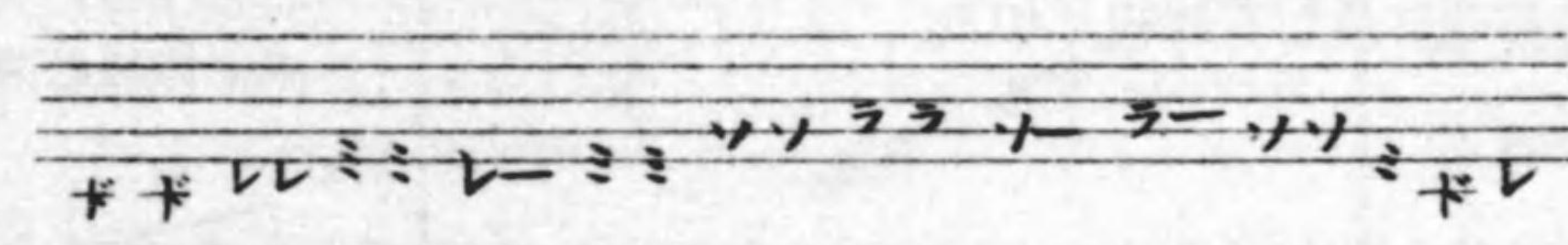
**指導要項**

- (1) 歌のリズムに合奏
- (2) 主旋律に合奏
- (3) レコードに合せる
- (4) 旋律樂器としてシロフォン初歩指導
- (5) 自由合奏及び教師の指揮による合奏







月	基本指導	鑑賞
4	<p>○音階練習「うたのけいこ」の曲を教へそれを歌はせながら音階の所を ラ、タ音にて速くしたり、遅くしたりして歌ふ。</p> <p>□階名模唱による音程練習（ドード）ハ調 前學年の復習をやり、 又時に假名符を五線に書いて視唱させる。歌はれたら●にする 主に既習教材による。</p> 	<p>森の水車</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どんな音楽かよく聞いて</li> <li>• 「森の水車」といふ題が浮びますか。</li> <li>• 一緒に拍子をとつて聞きませう。</li> <li>• きれいな小川のほとりで氣持で聞きませう。</li> </ul>
5	<p>◇歌曲判別の聴音練習 既習曲についてピアノを多く弾かない内にあてる。 又一段を弾いて歌詞をあてさせる。（ピアノ又は聲音にて）</p> <p>○音階練習（ヘ調又ハト調） 次の形式のものを模唱させたり、音階圖の指示唱</p>  <p>音階圖の赤丸の移動へ調の所のドを示しドミソドを赤丸にて明示す。既習曲の階名唱議を行つて音の位置を覚えさせる。</p>	<p>小鳥屋の店（描寫樂）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 何が聞えましたか。</li> <li>• 小鳥の聲が聞えましたね どんな様子を音楽にしたいて下さい。</li> <li>• 感想發表</li> <li>• 先生もちつと聞いてゐる（内容解説）</li> </ul>
6	<p>○音階練習「うたのけいこ」をニ調にて歌はせる、又全部階名にて歌はせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 此の頃より口形の注意……明瞭、不明瞭の二通りを示して「はきはき歌ふ様に」と教へる。</li> </ul> <p>口形練習のため既習曲を内聲唱（口形体操）させたりバ音にて早く行進曲を歌はせる。</p> <p>◇長短の聴音練習 拍子をとらせながら「いくうち」かあてる。</p> <p>◇音數の聴音練習 （例）ドレドレミソミレド（九音） ソソラミソラソミドレミ（十一音）</p>	
7	<p>○音階練習（音階圖の視唱）</p> <p>◇長短の聴音練習（三音間） 聲音又は樂器音（オルガン）にて （例）ド ミ ソ（板書）ド レ ミ V W W W W W V W W</p> <p>□樂譜盤視唱の音程練習（ヘ調）同一時間は同一調子にて （例）</p>  <p>數回繰り返へて歌はせる。（既習曲の一節をとるもよい）</p>	<p>玩具の交響樂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「玩具の音楽」ですがどんな音が聞えましたか。</li> <li>• 一緒に玩具になつて踊りませう。（第二樂章） （自由表現）</li> <li>• 樂器の外の鳥笛（鶯、鶉、郭子等）、太鼓、ガラガラ等の玩具の音を相圖して聞かせる。</li> </ul>

指導	器樂指導
<p>下さい。（感想發表） ついてゐるのですがどんな様子が目に ませう。 水車が靜かに廻つてゐる處に腰かけた</p>	<p>□シロフォン指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• シロフォン圖を印刷して渡し、簡単にシロフォンの面に書いてある數字譜の読み方を教へる。</li> <li>• 又數字譜が繁雜であれば假名符にシロフォンも圖も兩者共に書きかへるがよい。</li> <li>• 時間が少い時はシロフォン圖だけを模擬演奏される。 又基本指導の音階圖として利用してもよい。</li> <li>• 階名唱議の必要にせまられ又眞剣になり、その階名唱議によつて演奏するので興味を持つ。</li> <li>• 指導を急がない事兒童の様子をみて適當に行ひ、決して効を求めたり、結果を餘り期待せず指導過程に教育的意識を見出す。</li> <li>• 時間の關係より指導者に於て適當進度をしんじやくして頂きたい。</li> </ul>
<p>また鐘の音も聞えましたね のか小鳥の店へ入つたつもりでよく聞 とこんな様子が目に浮びますよ</p>	
	<p>□トライアングルの指導</p> <p>(イ) 糸を短くして左手に持ち指の間から糸を出す。 打棒は右手に軽く持ち一邊を打つ。</p> <p>(ロ) トライアングルの一端を身体につけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• トライアングルを揺れない様にする。</li> <li>• 顔はず時は三角の頂點に近い處を中央により交互に打つ。</li> <li>• 打棒は先端を使ふ又軽くしてきれいな音を出すこと。</li> </ul>
<p>んな音が聞えましたか。 ませう。（第二樂章） 郭子等）、太鼓、ガラガラ等 かせる。</p>	



月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
9	ポプラ		4/4		♩=126 1分09秒	夕日の中に輝くポプラ、暗夜の静かな空に芽えてゐるポプラを表現した本歌曲を授けて詩的な情趣を味得させる。
	案山子		4/4		♩=112 1分09秒弱	案山子の様子をユーモア的に揶揄した本歌曲を授けて滑稽味と快活な情を養ふ。
10	かけっこ		2/4		♩=120 34秒弱	勇ましいかけっこの様子を表現した本歌曲を授けて軽快活潑の氣分にひたらせる。
	浦島太郎		2/4		♩=100 1分36秒	國民的童話である浦島太郎を讀方と連關して授け美しい楽しい童話の世界にひたらせ優雅な情を養ふ。
11	雁	##	4/4		♩=112 1分17強	秋の空を渡る雁の面白さを表現した本歌曲を授けて快活の情を養ふ。
	紅葉		4/4		♩=92 1分23秒弱	美しい紅葉の遠景や溪流に沿へる紅葉の華麗を表現した本歌曲を授けてその情景を想像して優美の情を養ふ。
12	うちの子ねこ		4/8		♩=104 55秒弱	子猫の振や袂にすがつたり、まりにされる可愛い様子を表現した本歌曲を授けて讀本の韻文の詩的情趣を深化し快活愛撫の情を養ふ。
	一月一日	##	4/4		♩=96 1節40秒	陛下に對し奉りて新年を壽ぐ至情を表現し國民的情操を養ひ莊嚴な氣分にひたらせる。

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムが  で力強い落着きのある曲想。</li> <li>第二段の「ファラソ」のファの音程があいまいになる。</li> <li>速度が早いかはらぎれよく歌ふ。・第二段  は  と歌ふ。</li> <li> のリズムが變化して引っぱり易い。・第三段の旋律指導を十分に。</li> <li>一段ソ→ミの長六度の上昇は音程に注意する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各段のリズム形式が同じいから旋律を發見的に指導する。</li> <li>第三段「ソソソラ」は「ソラ、ソラ」となり易い。・かがしと發音しない。</li> <li>第一節と第二節との歌詞を比較し暗記させる。</li> <li> が  と誤唱され。・  が  となり易い。</li> <li>一段三小節の十六音符は輕快に發聲させる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律唱謠をさせて全体を把握させる。・第二段「ミミソソ」は「ミファソソ」となり易い。</li> <li>第三段のスタッカートを明瞭に次の附點四分音符がスタッカートにならぬ様に。</li> <li>第一節から第二節にうつる際は正しく拍子をとつてうたふ。(三拍をのばす)</li> <li>一段四小節のソは確實に柔らかに。・第一歌詞と第二歌詞は最後が赤、白反對になつてゐる。</li> <li>第三段の  が  になり易い。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各段ともリズム形式は同じから初めに一段のリズムを把握させる。</li> <li>歌詞の暗誦は先づ筋をよく回想させる。・リズム形式  を  に誤唱し易い。</li> <li>第二段の「ソソソレ」を「ソソソレ」となり易い。・第四段  が  となり易い。</li> <li>「行きあふ」は「ゆきあふ」と歌ふ。・歌詞が五節までであるから互唱、列唱、獨唱を組合せて疲勞させない</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムは新しい  が用ひられて居る。</li> <li>第一段のブレスをよく守る。鼻音(ん)が多いから發音に注意。</li> <li>最後の二音は高音であるがあまり不自然にならぬ様に。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞が難解であるからその美しさを充分わかる様に補説する。</li> <li>リズムは  が基礎。・第二段の  が  となり易い。</li> <li>四分休符が八分休符に誤り易い。・「アキノニューヒ」の「ニュー」に力を入れないこと。・全体を明るく明快に</li> <li>最後の「スソモヤウ」の「モヤウ」は延ばして歌はしめる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>讀方の韻文と關係して五月頃取扱ふのもよい。・リズムが複雑である。</li> <li>第一段終りの「こねこ」は  にならない而して八分休止符を守る。</li> <li>「たもとにすがる」ははつきり歌つてすべらないこと、旋律唱謠を十分に。</li> <li>一段から二段のレ-ラの完全五度の音程が困難である。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞は難しいから大意だけ。・ファの半音が多いから正確に唱ふ様に、殊に第四段の「ミソファレ」が「ミソミレ」となり易い。・各段第三小節の  が  となり易い。</li> <li>「祝ふ」は「いをー」と發音。・不謹慎な歌詞をさける様式日唱歌の意味を徹底させる。</li> <li>速度がおくれるとブレスが亂れ音程が下り易いから速度がおくれない様に。</li> <li>「あーふぎ」は「あーおぎ」と、「たふとけれ」は「とうとけれ」と發音。・音の下り易い原因</li> </ul>	<p>(歌詞の理解不十分 男子の發聲の不良 二回位つゞけて歌はせる)</p>



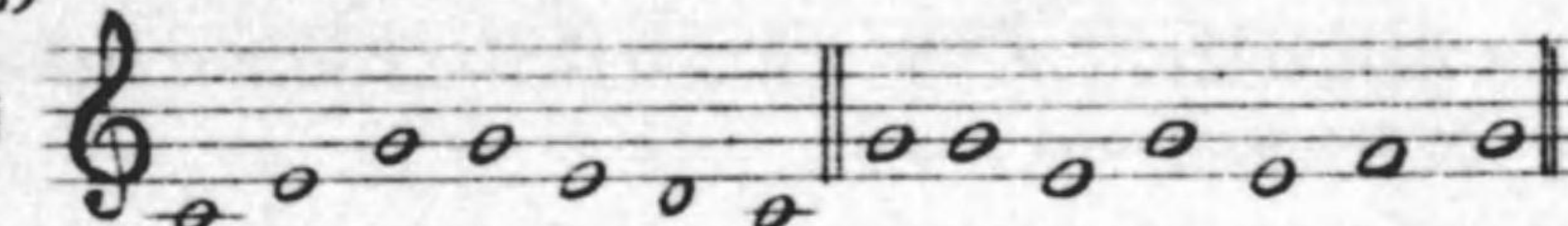
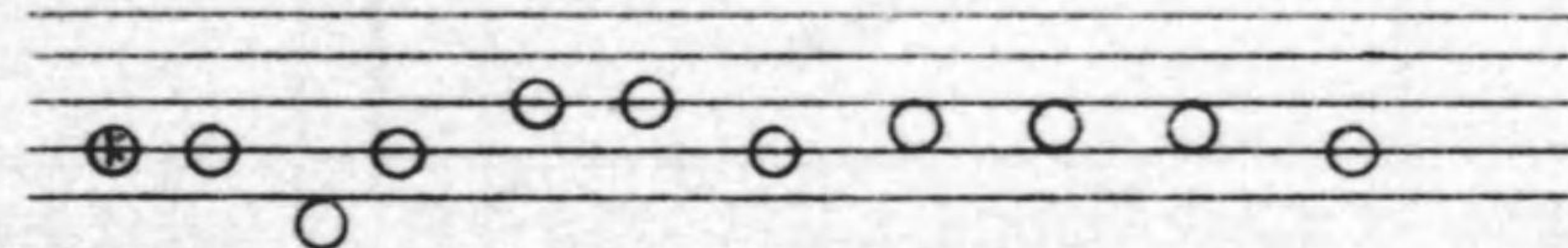



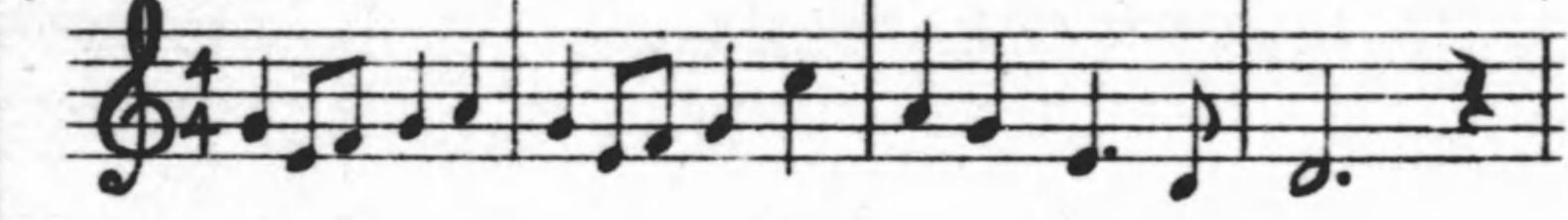

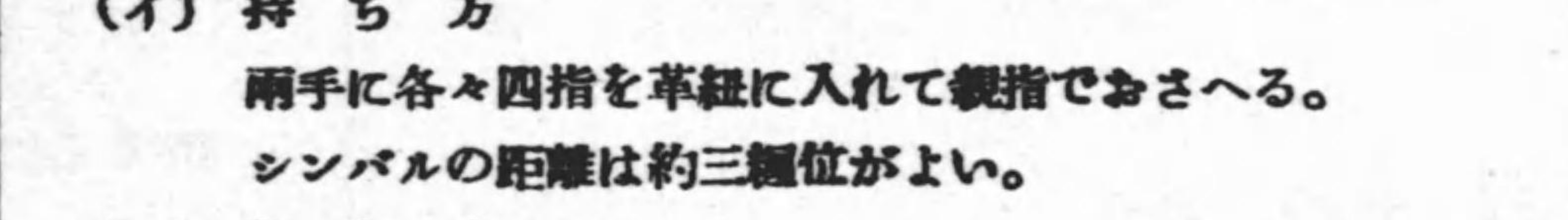



月	唱誦教材	調子	拍子	音域	速度	目的
1	雪		$\frac{2}{4}$		$\text{♩} = 92$ 42秒弱	子供の喜ぶ雪景色の楽しい情景を表現した本歌曲を授けて爽快の情を養ふ。
	紀元節		$\frac{4}{4}$		$\text{♩} = 80$ 一節48秒	紀元節の儀式に世界無比の國体を讃仰し國体の尊厳を感じ國民的情操を養ふ。
2	時計の歌	$\sharp$	$\frac{2}{4}$		$\text{♩} = 92$ 42秒弱	絶間無く動いてゐる時計を擬人化して表現した本歌曲を授けて教訓を暗示し明快な情を養ふと共に休止符のないスタッカートの多い歌曲の唱誦に習熟せしめる。
	影法師	$\sharp$	$\frac{2}{4}$		$\text{♩} = 80$ 48秒	校庭で遊戯をする影法師、夕方家路へ歸る影法師の面白さを表現した本歌曲を授けて優雅な情景にひたせると共に促音の多い唱誦に習熟せしめる。
3	梅に鶯	$\sharp$	$\frac{4}{4}$		$\text{♩} = 100$ 1分17秒弱	初春を象徴する梅と鶯の優雅な情景を表現した本歌曲を授けて長閑な気分をひたせると共に擬聲音をきれいに唱誦する力を養ふ。
	(九月教材) 富士山	$\sharp$	$\frac{4}{4}$		$\text{♩} = 96$ 1分20秒	讀方と連絡して富士山を讚美してゐる本歌曲を授けて讀方の韻文の詩的情趣を深め崇高優美の情を養ふ。
	新訂尋常 小學唱歌 第二學年用	調子	拍子	音域		音程 (新出のもののみ) 長三度 ラ→ファ スイ→ソ 短三度 ファ←レ レ→スイ 完全四度 ファ←ド 完全五度 レ←→ソ 長六度 ミ←ソ ラ←ド 短六度 ド←ミ 完全八度 ソ→ソ

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>よく歌はれてゐるが正しく唱はれてゐない教材である。「こんこ」は「こんこん」でなく「こーんこ」として歌ふ。「ずんずん」は「ずーんずん」に歌ふ、一字が二音に歌はれる所の歌ひこなしに氣をつける。</li> <li>第一節「降つては降つては」と第二節「降つても降つても」と混同しない様に。</li> <li>リズムが  となり易い。</li> <li>附點音符にアクセントをつけはづみを持たせる様に母音をひびかせて軽やかな氣持を表現</li> <li>長六度(三段より四段へのド→ラ)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞が難解であるから大意だけを具体的に説明する。</li> <li>速度が遅すぎて重苦しくならない様に。</li> <li>「あふぐ」は「あをぐ」と發音する。</li> <li>各段終りの附點二分音符は正しく延ばす。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>休止符が無く、スタッカートの唱誦がある。</li> <li>全体休みなくならぬ旋律である、時計の進む氣持とよく調和してゐる。</li> <li>附點八分音符にアクセントをつける。「つがずに」を「つかず」と歌ひ易い。</li> <li>歌詞の一、二節が混同し易い。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>八分音符並列のリズムで休止符が無い、リズムを明瞭にして旋律の動きの美しさを味はせる。</li> <li>促音の唱誦が多い、(マツクロ、ヤツバリ、ソロッテ、ラドツテ)「ヤツバリ」は「ヤーツバリ」と軽く促音を入れる。</li> <li>一二段は最後の四分音符を充分延ばしてからブレスする、二小節でブレスしない。</li> <li>ミンナデ  はと歌ふ。</li> <li>四拍子になり易いからやよはづみをつけて軽快に。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各段のリズム形式が同一。</li> <li>二段「ウメガ」のガが四分音符になり易い。</li> <li>すべて二分音符は充分延ばす</li> <li>二段と四段の前半二小節は類似旋律であるから混同しない様に。</li> <li>完五度(四段三四小節間のソ→レ)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「富士は日本一の山」が「天長節」の旋律と混同され易い、この處は旋律唱誦が階名唱誦によつて訂正する。</li> <li>二段の三小節及び三段の二小節の連合音符を正しく歌ふ。</li> <li>四段は亂暴に歌はれ易い。</li> <li>一段三小節の「レソソファミ」の音程に注意する。</li> </ul>	Pocorit(少しゆるやかに) atempo=アテムポー (もとの速さで)
<p>新出リズム</p>	



月	基本指導	鑑賞														
1	<p>◇ 楽器音による聴音練習 (ドーソ) ヘ調、ハ調 聴音したものを假名にて書かせる。 (例)</p> <p>教師 </p> <p>児童 <table border="1" data-bbox="470 500 1014 606"> <tr> <td>ド</td><td>ミ</td><td>ソ</td><td>ソ</td><td>ミ</td><td>レ</td><td>ド</td> <td>ソ</td><td>ソ</td><td>ミ</td><td>ソ</td><td>ミ</td><td>ファ</td><td>ソ</td> </tr> </table></p> <p>□◇ 音程音階練習は前述のものを発展させる。</p>	ド	ミ	ソ	ソ	ミ	レ	ド	ソ	ソ	ミ	ソ	ミ	ファ	ソ	
ド	ミ	ソ	ソ	ミ	レ	ド	ソ	ソ	ミ	ソ	ミ	ファ	ソ			
2	<p>□ 楽譜盤の視唱、音程練習 (ト調) 「時計の歌、影法師の第一歌詞の取扱後に視唱させる。」 (例)</p> <p></p> <p>◇ 楽器音の聴音練習 (ドーラ) ニ、ヘ調、ハ調歌はせたり、假名にて早く書かせる、練習をなす。</p>	<p>時計屋の店 (一年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 何のレコードか覚えてみるか。</li> <li>• どんな時計がならべてあるかわかりますか。</li> <li>• この音楽を聞いて時計屋の店の様子がわかりますか。(感想発表)</li> <li>• 鳩時計、振り時計、ボン子をとつて下さい。</li> <li>• 教壇へ出て自由表現</li> </ul> <p>時計になる児童、店員になる児童。</p>														
3	<p>□ 音階圖の視唱による音程練習 (ハ、ニ、ヘ、ト調) 自由に何處を指しても歌はれる様に練習する。 次の事項の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 假名譜の作業</li> <li>• 聴音の書取 (假名にて)</li> </ul> <p>(注意) 音程確立のため餘り楽器を使ひ過ぎない、たゞ主音を時々與へてやる。</p>															
	<p>本學年基本指導上の反省事項及進度 (指導者記入)</p>	<p>本學年指導教材 (指導點を示したるもののみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森の水車 (C151B)</li> <li>小鳥屋の店 (V10002)</li> <li>玩具の交響樂 (C90518)</li> <li>森の鍛冶屋 (V151A)</li> <li>踊る星 (C90521)</li> <li>時計屋の店 (一年)</li> </ul>														

指導	器樂指導
	<p>演奏曲の一例「春が来た」</p> <p>タンバリン </p> <p>トライアングル </p> <p>カステネット </p> <p>シンバル </p> <p>シロフォン </p> <p></p>
	<p>タンバリン </p> <p>トライアングル </p> <p>カステネット </p> <p>シンバル </p> <p>シロフォン </p> <p></p>
	<p>□ シンバルの指導</p> <p>(イ) 持ち方 両手に各々四指を革紐に入れて親指でおさへる。 シンバルの距離は約三釐位がよい。</p> <p>(ロ) 打ち方 両方が合するのでなく上下の位置から早く擦違ふ時に音を出す様にする、これを交互に行ふ。</p> <p></p>



指導方針

(イ) 本學年は聴唱法が主であるが第四學年に於て視唱法によるため視唱法を加味した聴唱法による

- 指導の主眼として既知の旋律を楽譜によつて階名唱謠をなし、各音の高低、長短の價値を自覺して唱ひ將來樂譜を視て新しい旋律を形成して行く爲の豫備的練習をも加味する。

(ロ) 視唱法に入つて視唱出来るか否かはたと階名を歌はれただけでは決する事は出来ない、兒童にとつて無自覺であつても教師が第一學年より築き上げた音感覺修練の上に立たなければならぬ。

(ハ) 時間数が少いので家庭作業を加へて唱歌の時間は指導の要點を與へる様にしたい。

(ニ) 時々唱歌室備へつけの一年二年の新訂唱歌の階名唱謠を奨励する。

(ホ) 既習曲の練習

この練習が充分でない。その學期その學年だけでなく前學年前々學年といふ様に繰返して絶えず歌詞を暗誦させる様に指導する。又内容についても「どんな様子を歌つてみた」と時々語らせたい。

指導法

(一) 方法の多様

前學年に述べた通りであるが本學年になつては教法に於て教材の難易によりその方法を選ばなければならぬ。

(二) 教法

(イ) 比較的旋律の複雑な教材は聴唱によつた方が能率的であり又その方がよい。

(ロ) 比較的容易な教材

- 旋律の發見的聴唱法  
第二學年に於て音の長短、拍數、ブレス、休止符等を教師の方で示したがその事項を範唱節奏を聞く間に兒童に發見させる。兒童の活動が有意的になる。

(1) 初めはV ㄥ 7, の發見範唱はその所を明瞭にす。

(2) 長短の發見、範唱の際はやと誇張して示す  
例 1

㊦ リガワク ㊧ イチワク

例 2 (本譜と連絡)

ホ・ケルノヤドハカニバタヤナギ

㊨ ナギ オボロニ ㊩ ヤミヨセテ

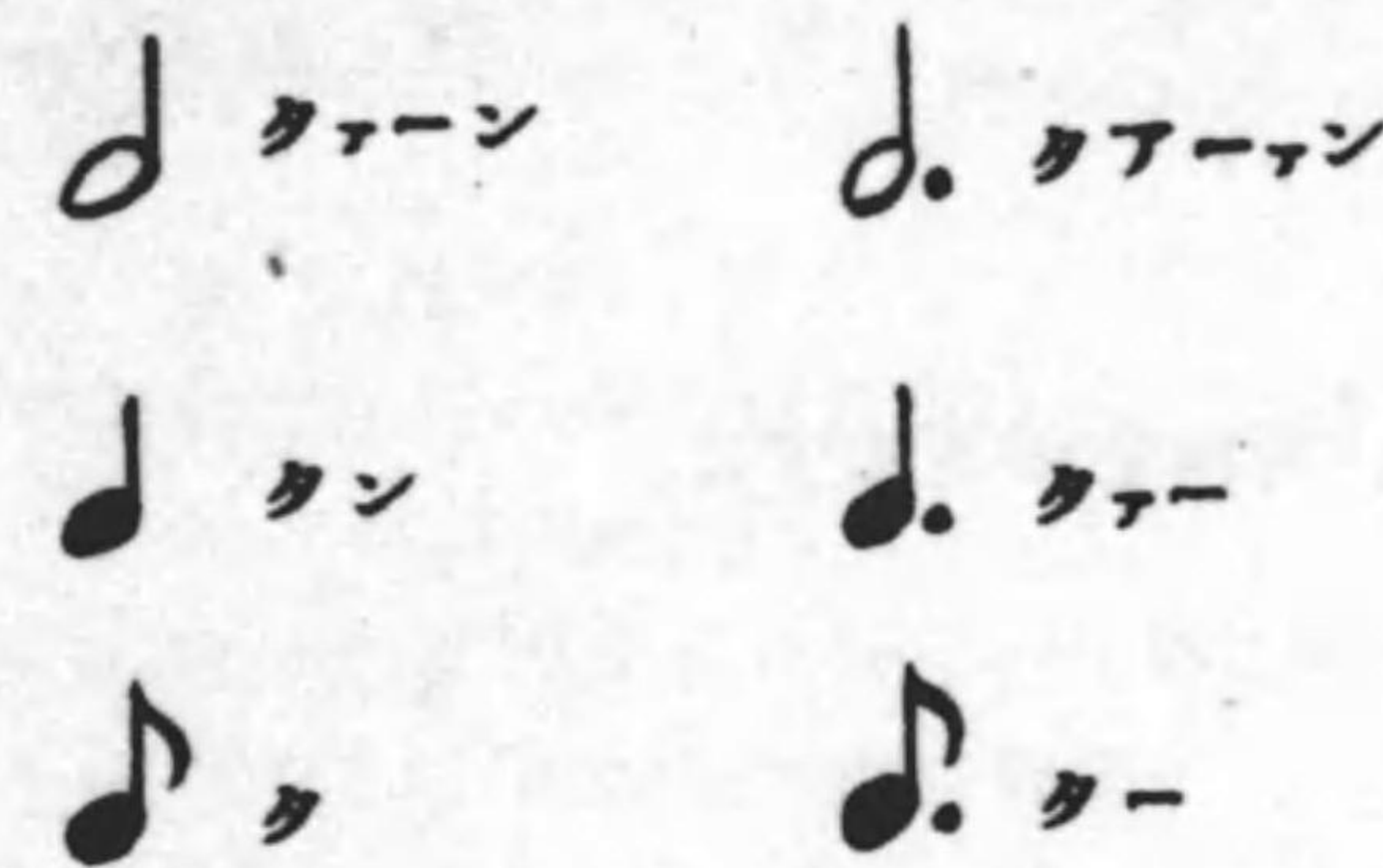
(3) 初歩の視唱法

第二學期後相當視唱力がついたと思つたならば、音階譜の指示唱によつて旋律の概觀を把握させて後視唱に入る。

(ハ) 旋律唱謠

聞き覚えの教材はリズムが不正確であるから本譜の掛圖か曲を示して次の指導法をとる。

「三年でお習ひする音楽の字は下に書いた位しかないがこんな名前がついてゐるから覚えませう。」

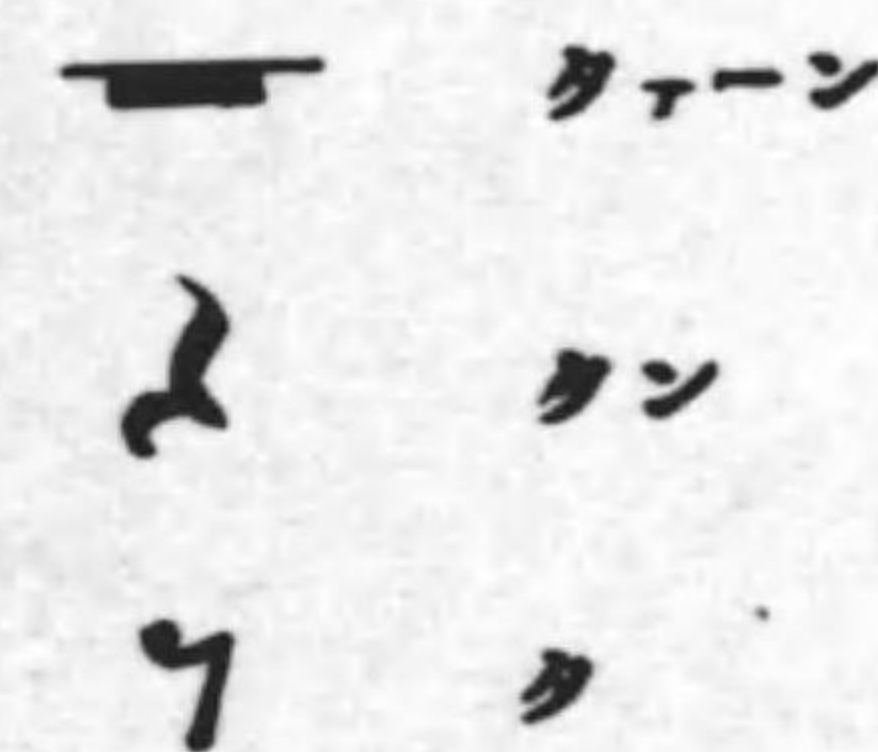


(これだけなら二、三分で覚える)

「この歌の譜をみてターンクンクンで歌うて見ませう、ゆつくり歌ひますからはつきり歌ひなさい」

休止符の指導

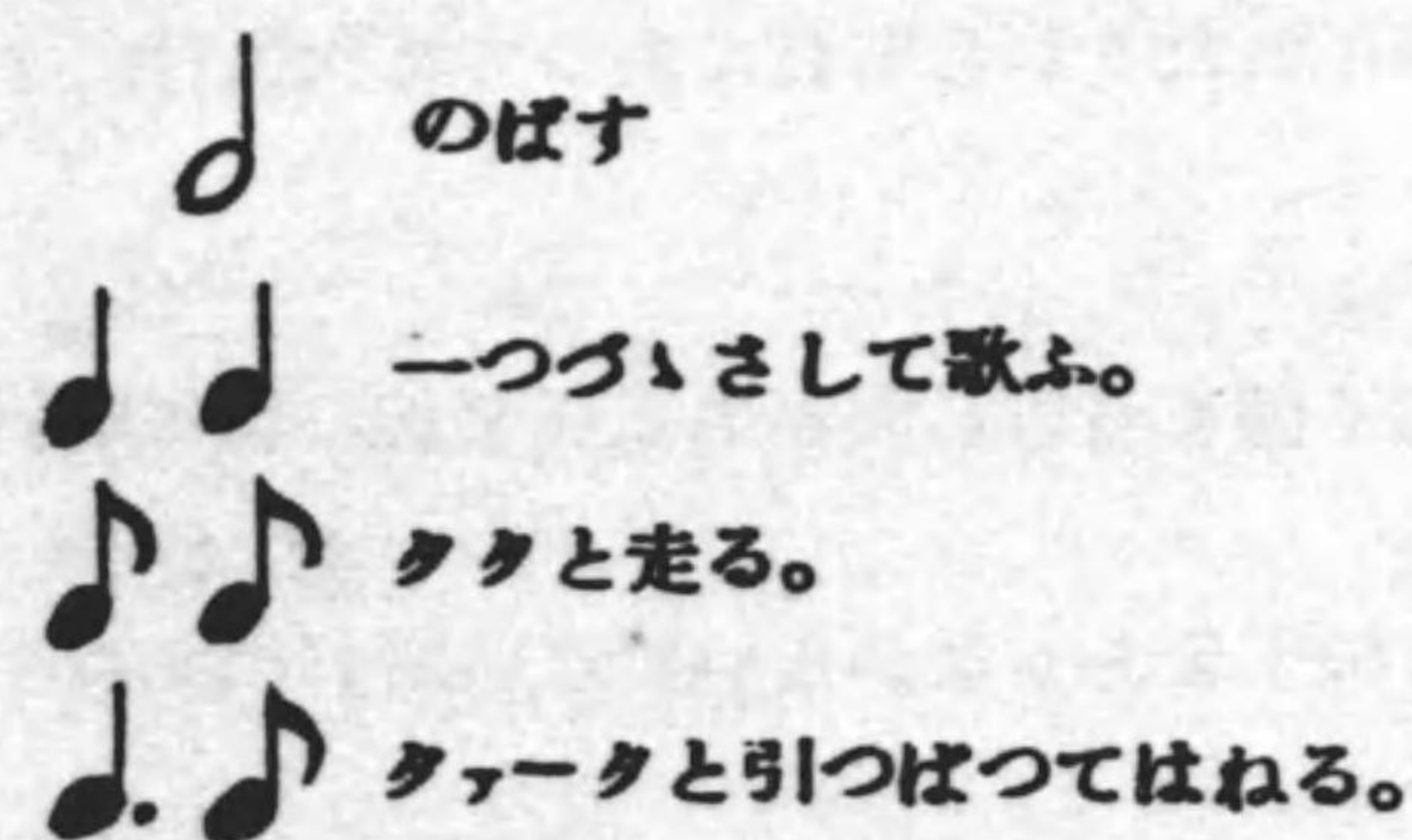
「下の印は休むのでしたね。これも口の中で歌ひながら休ませう」



かくして旋律唱謠から入る。

音符の長さを認識させるに都合よい。

即ち



視唱の際も拍數を教へると困難であるから大体の歌ふ氣持にとどめる。

(ニ) 歌詞の取扱

本學年になつて教材は豫告してその内の歌詞について次の事を豫習させる。

(教室備付けの唱歌帳を與へるか印刷して渡してもよい)

- (1) むつかしいことばをみつけだす。
- (2) 何回も讀んでから
  - どんな様子が歌つてあるか
  - よんでどう思つたか

以上の二項について豫習して自分の唱歌帳に記入させてもよい。

讀方の韻文教材の補充ともなる。

(ホ) 低學年唱歌帳に五線紙を加へる

五線紙は線間を廣く線の明瞭のものがよく、原稿紙の様にとりはづしが出来るものがよい

(ハ) 發想指導について

一年二年頃は教師の發想を聴き分ける能力を目標として「強く弱く歌ひませう」と導く。

三、四年になつては發想をつけた時とつけない時を比較することにより發想の美しさを味ははせ兒童自身にもつけて歌はせる。

- 「歌の氣持が出る様に歌つてみませう。」
- 他の兒童に批評鑑賞させて教師が補導する。

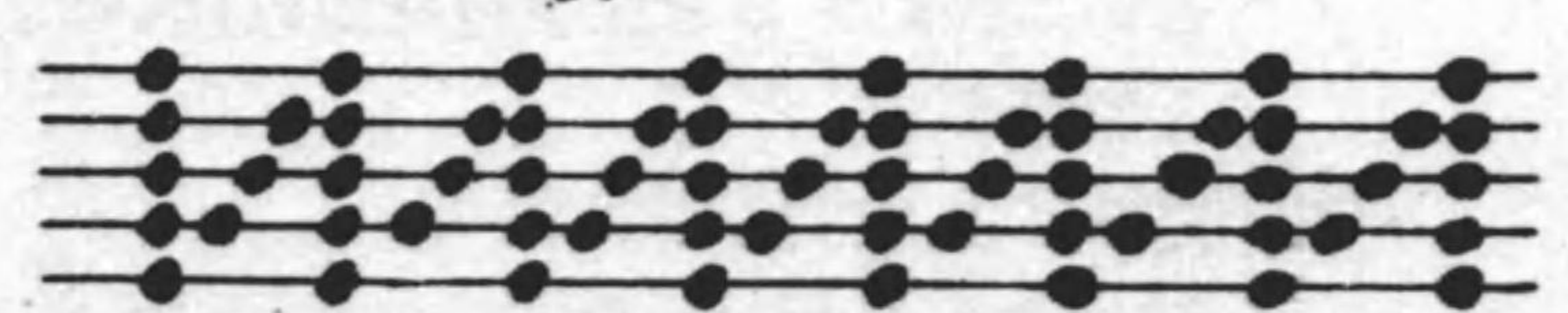
(ト) 寫譜について

• 「五線使用法」初めて兒童が五線紙を使用するのであるが間線上の記譜が不正確になり易く、困難を感ずるので初めは間線を區別して模様をかゝせるとよい。

間を使用しての模様 線間を使用しての模様



線を使用しての模様





基本指導

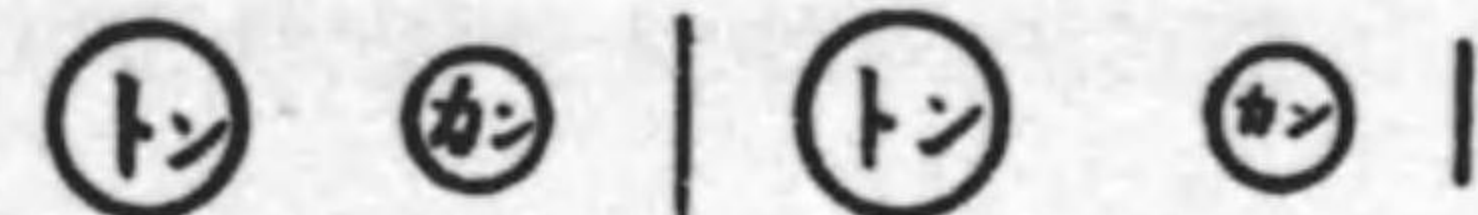
- (イ) 本學年は音階譜(音階圖譜の右側のもの)による音程練習を中心とし各練習を有機的に行ふ。音階譜も基音を移動しても階名を判別出来る様に指導する、この指導が充分行はれば調子の變化による階名唱誦の困難が補はれる。拍子を變へリズムを變化させて興味的に練習曲を編曲する。
- (ロ) 音階圖譜の音階譜より五線黑板の音階譜へうつる。
- (ハ) 既習教材の視唱を時々行ひ視唱力をつけ本譜を理解させ、音程を確實にする。
- (ニ) 拍子練習

拍節法を指導する。

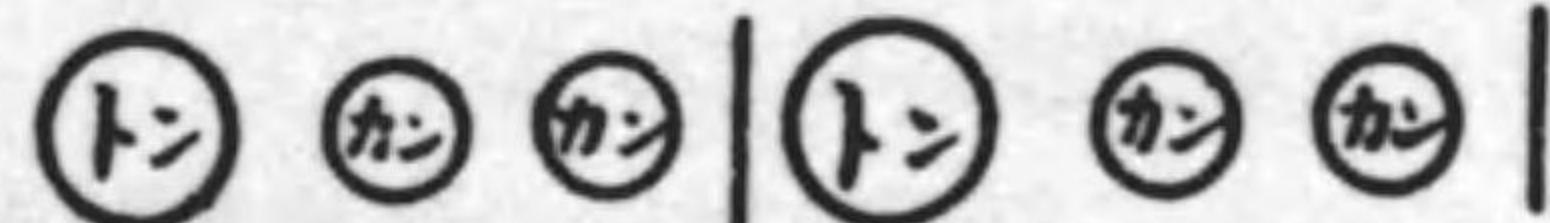


アクセントの指導をなす。

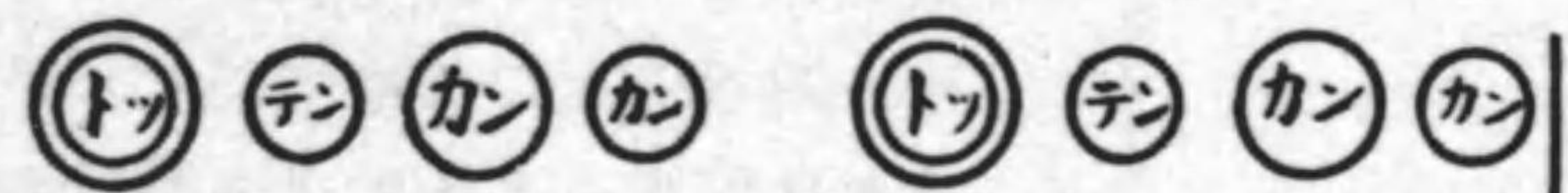
二拍子……第一拍は拍手 第二拍は掌を二本指でたたく。



三拍子……第一拍は拍手 二拍三拍は二本指でたたく。



四拍子……第一拍は拍手 二、三拍は二本指でたたく、三拍はやと強く。



(ホ) 音程練習

- 音階圖より音階譜へ
  - 初めはドミソドへ赤丸をつけて歌はせる。音階圖の間をせばめたものが音階譜で兩者異つたもので無いことをわからせる。「今まで左の方で廣い場所をとつてわたのが今度そのまゝ右の方へ来てだんだん間がせまくなつたが左の時と同じ様に歌はれるのです」
  - 慣れるに従つて基音だけを赤丸にする。
- 音程の發見
 

二年までは教師が困難な所を歌つてやる様にしたが本學年あたりから基音に転つて順次進行によつて發聲する指導をなす。その方法として

  - 組唱による方法
 

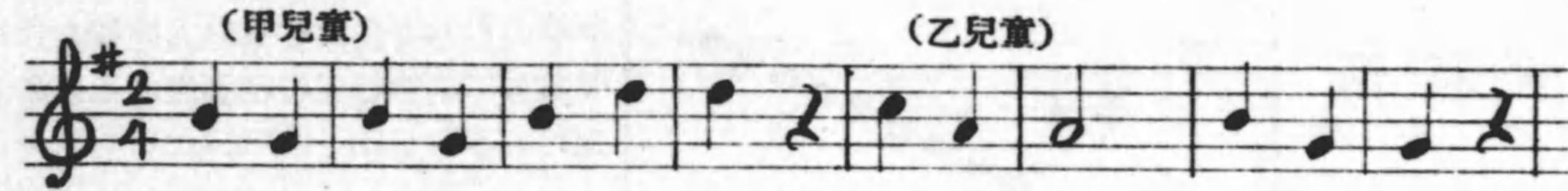
二組乃至三組にわけて音階譜を指した處を歌つて行く間に音程に誤がある所を他の組に發見させる。

「今一組から先生の指す所を歌つて頂きますが二組は拍子をとりながらいけない所が出たら手を擧げなさい、三度いけない所が出たら交代ませう」といふ様になると児童自身誤らない様にしようとする注意し又他の児童も音程の誤りを發見しやうと傾聴する。
  - 獨唱による方法
 

音階譜の指示唱は獨唱させるに都合がよい。時間が少い時でも教師の指す所にしたがつて僅かづつでも唱はせられ曲も自由に即興して児童の能力の少いものには順次進行を多くし能力の相當のものには超越進行を加へる。

又リレー式に旋律を受繼がせてもよい。

(例) 教師の指して行く曲



(ヘ) 聴音練習

要素的な取扱ひを避ける事は既述の通りであるがあらゆる場合に行はなければならない。

- 同形異同旋律判別
- 歌曲の長短ブレス、休止符の發見
- リズム、音程の相異の發見
- リズムの聴書(ター タン タンを ♪ ♪ ♪ の如く)
- 練習曲の聴取
 

二年では假名符であつたが本學年からは五線紙に書きとらせる。

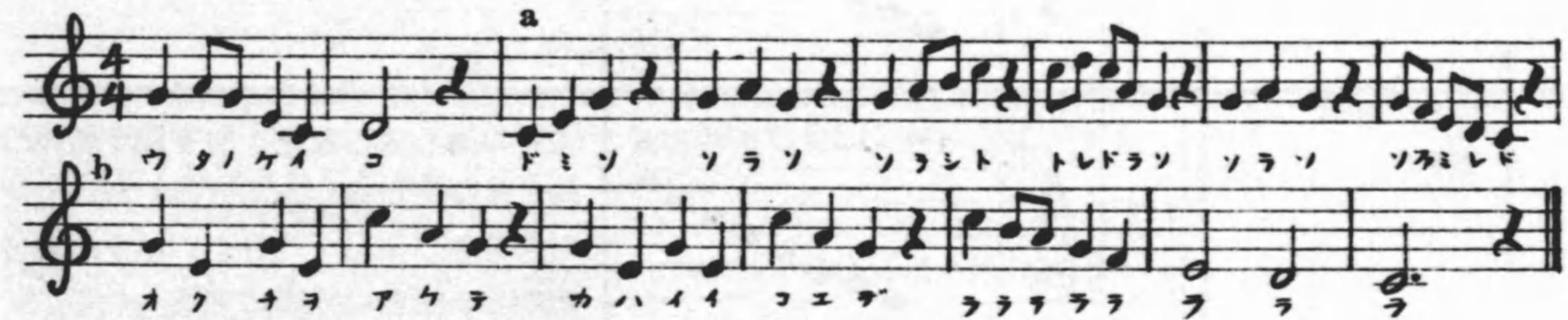
假名符と本譜の連絡

㊦ をつけたものは ♪ 何もつけないのは ♪  
 ♪ は ♪ ♪ は ♪ ♪ は ♪  
 休止符は假名符の時に既に授ける。

歌曲の聴寫練習

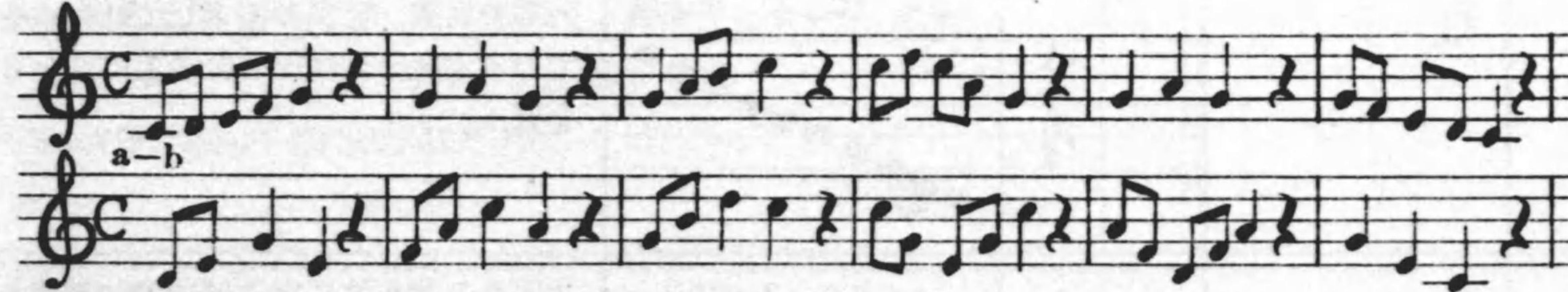
初めは符頭だけ書かせ長短の記號をつけさせる。

(ト) 音程、音階練習歌



a-bの小節を變化して歌はせる。

例 a-b



器樂指導

- 歌のリズムに合奏
- 主旋律に合奏(ピアノ)
- レコードに合せる
- リズム樂器シロフオンの指導
- 教師の指揮による
- 簡單なる樂譜による合奏

鑑賞指導

第三學年指導法

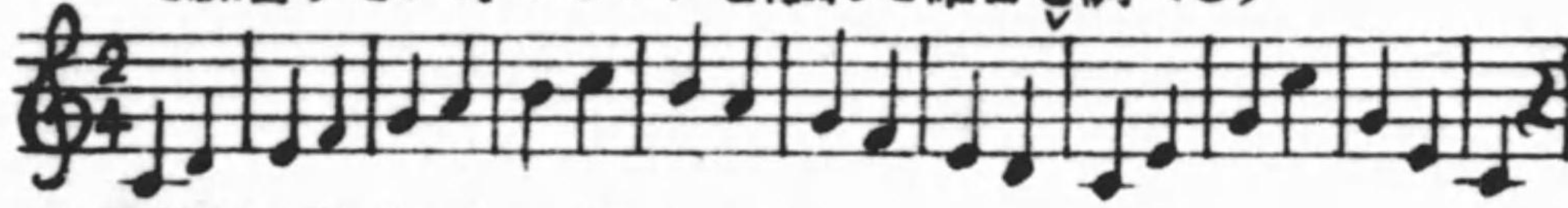


- 感想發表
- 内容の想像
- 拍子練習
- 旋律鑑賞(唱誦する)
- 繪畫表現
- 音色鑑賞
- 音樂童話
- 樂器圖と樂器の理解(初歩)
- 器樂指導と連絡
- 自由表現

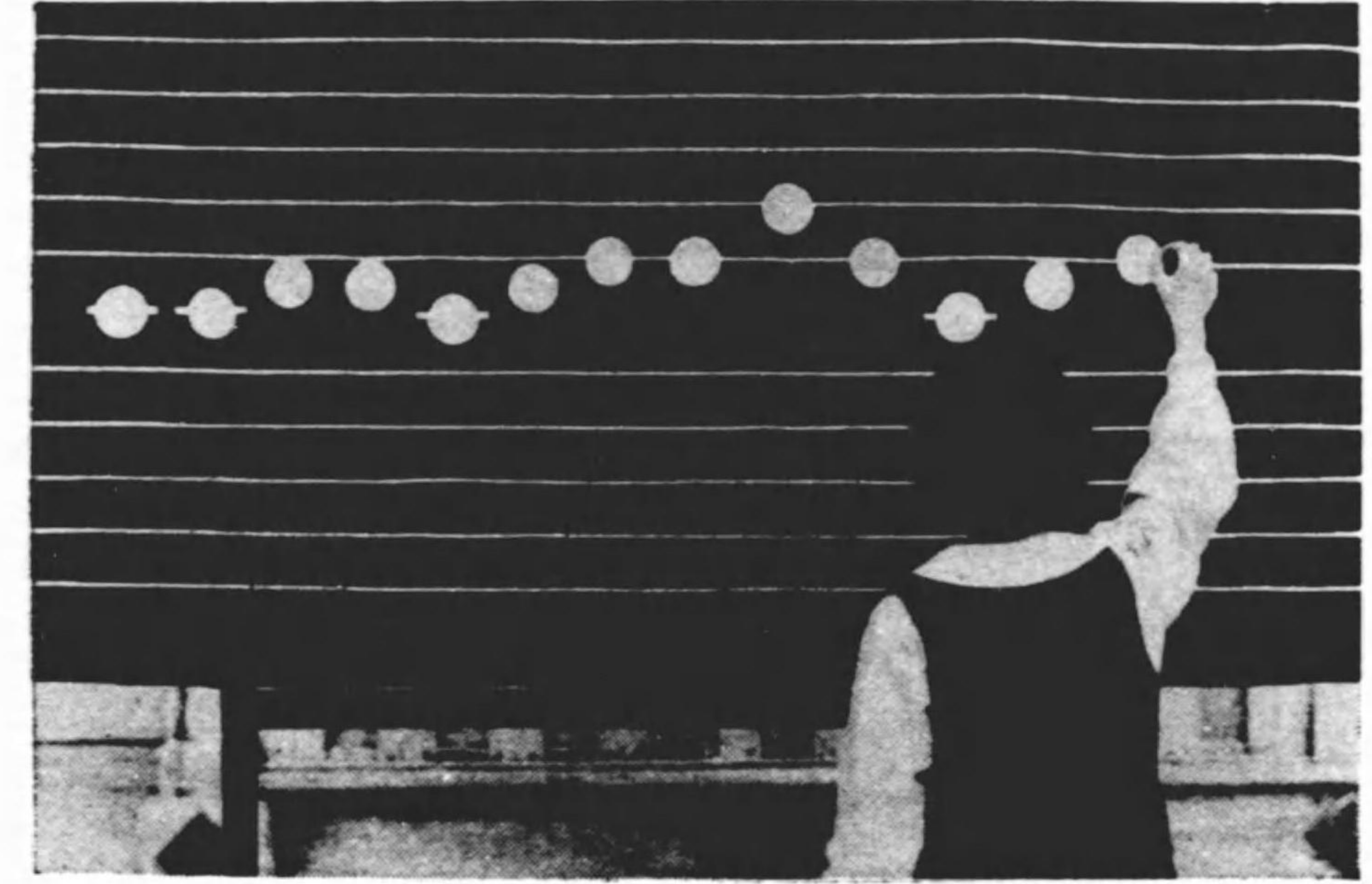
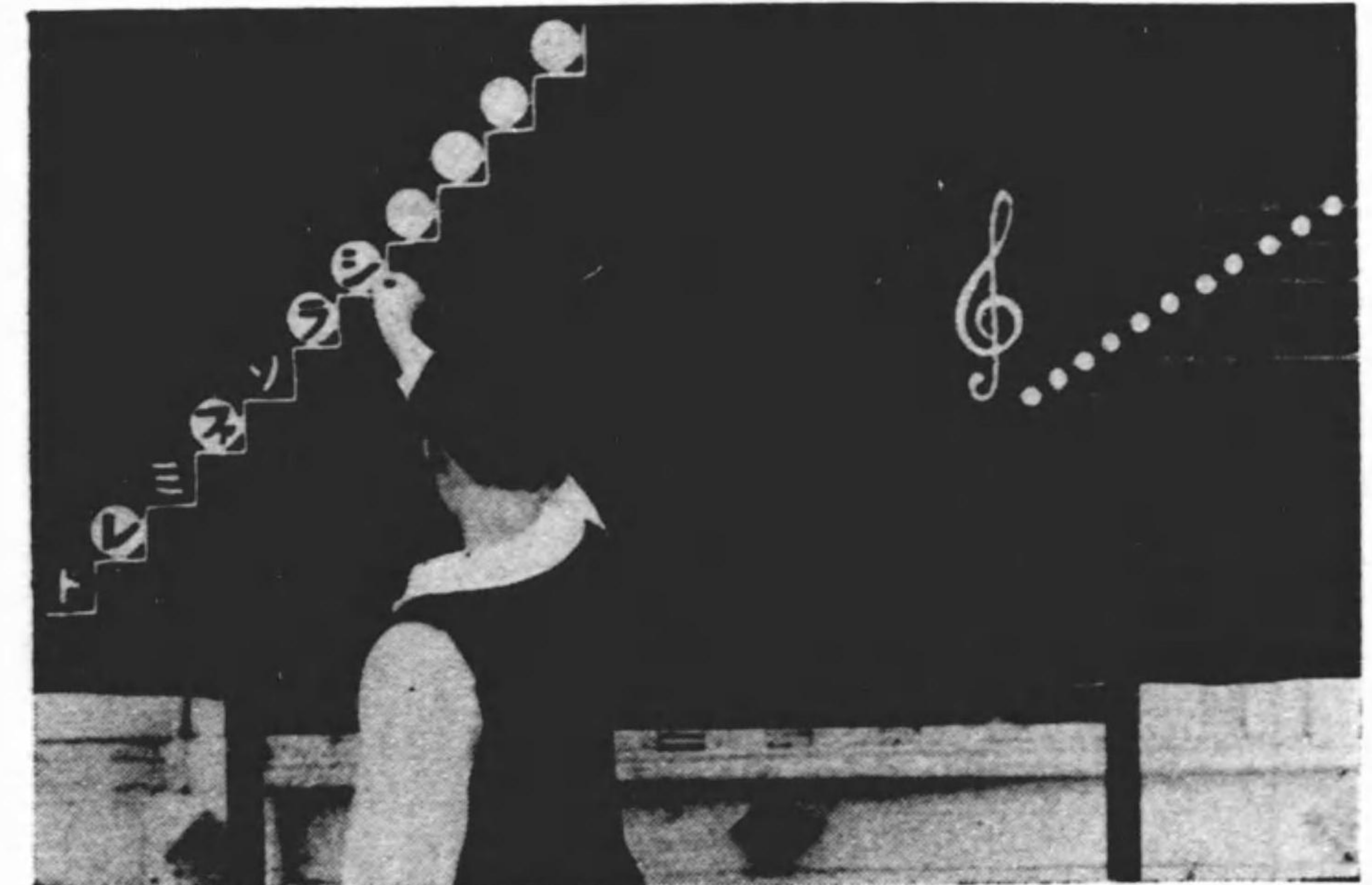


月	唱詠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
4	摘草 天長節	#	2/4	J=100	88秒強	菫の花の色や根芹の新鮮な香気によつて象徴された春の野の遊びを表現した本曲を授けて軽快優美の情を養ふと共に半音進行の多い二拍子の唱詠に習熟させる。
	木の葉	#	2/4	J=80	48秒	新芽の美しい色や延びて新緑となる様子を表現した本歌曲を授けて春の自然を讚美し快活の情を養ふと共に強起、弱起の律の交錯した音階的順次進行の歌曲の唱詠に習熟させる。
5	茶摘	#	4/4	J=80	1分14秒強	初夏に行はれる詩的情趣の深い茶摘を表現した本歌曲を授けて春の自然の中にひたせるとともに半音のない弱起の明るい民謡調の歌曲を味得せしめる。
	汽車	#	2/4	J=92	1分03秒強	汽車旅行の窓外の景色の變る面白さを表現した本歌曲を授けて壯快の情を養ふ。
6	燕		4/8	J=112	1分26秒強	電線の淋しさうな燕、餌を探す親燕の可憐な情趣を表現した本歌曲を授けて優雅な情を養ひ新しい八分の六拍子の高音進行の多い歌曲の唱詠に習熟させる。
	虹		2/4	J=72	58秒強	天空の衣裳、天女の橋として虹を嘆美してゐる本歌曲を授けて自然美にひたる心を養ふ。
7	螢	#	2/2	J=84	1分09秒強	夕暮から夜更けに至る螢の詩的情趣を表現した本歌曲を授けて螢狩の情景にひたらせ、快活の情を養ふとともに新しく出た二分の二拍子の歌曲の唱詠に習熟させる。
	青葉	#	4/4	J=100	1分17秒	初夏の新緑の爽快な情景を表現した本歌曲を授けて高尚優美の情を養ふ。

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>半音進行多く歌ひ難いが上品である。</li> <li>第二段「よめ-なも」が  となり易い。</li> <li>速度が速く歌詞の句讀點は二句、三句になるから二、三段はブレスを除いてもよい。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 軽快にうたふ。</li> </ul> </li> </ul>	<p>奏法</p> <p>dim=漸次弱く cresc=漸次強く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>音階的順次進行で超越が少いが音程関係が曖昧にならぬ様に。</li> <li>十六分音符のところは確實にうたふ。</li> <li>口形を變化しないと不明瞭になり易い歌詞である。 (順次進行をとつてゐるリズムにあり勝ちの音程不明瞭)</li> <li>リズム進行も變化してゐるから拍子練習は特別よく行ふ。</li> </ul>	<p>dim=漸次弱く cresc=漸次強く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>弱起の旋律</li> <li>半音なく民謡調のあかるい曲。</li> <li>各段の終りの四分休止符は次の四分休止符と共に確實に二拍を数へ速くならない。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 第二段の「ミミミレ」が「ミミレド」となり易い。</li> </ul> </li> <li>拍子練習をしながら弱起の所をよく諒解をせよ。</li> </ul>	<p>poco poco = 少しづつ次第に rite dim = ゆるやかに弱く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li> のリズムを明瞭にする、他のリズムが引きつけられ易い。</li> <li>三段のが  が  となり易い。</li> <li>四段の「ソソソレ」が「ソソソド」となり易い。</li> <li>「みとれて」は正しく  と歌ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>弱起の旋律は「手をたよいてはねる時に歌ひ出す氣持」で歌ふと指示する。</li> <li>高音が多く使用されてゐるから音が下がらぬ様に。</li> <li>四段、五段は類似旋律は誤唱され易い、「タービノナカマハ」が「ド-レミレミレドラ」と。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 第一節から第二節への歌ひ方の指導は「歌ひ終つたら手を打つてはねる氣持で二節を歌ひ出す即ち ⊙ミギ-の如く」</li> </ul> </li> <li>初めは遅く範奏範唱する。• 完全四度の進行あり。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム形式は  。</li> <li>一段の二、四節は速すぎない様に。</li> <li>「ソドレソド」が「ソドレソド」となり易い。</li> <li>附點四分音符は十分のばす様にする。</li> <li>衣裳は「いつしよ」と誤らない。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>二分の二拍子の初まり。</li> <li>第一音が高いから注意、ほは發音をハツキリと。</li> <li>二段  が  となり易い。</li> <li>三段の長六度 (ド→ラ) は音程確實に。• 四段は二小節でブレス。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>完全四度の進行が多い。(ミ-ラ)</li> <li>四分休止符は三拍のばして一拍休む、テンポが早くならない様に。</li> <li>二段の「うねうね」「ゆらゆら」の部分は言葉のアクセントと反對に進行してゐる。</li> </ul>	=テヌート (その音の長さを十分保つ)


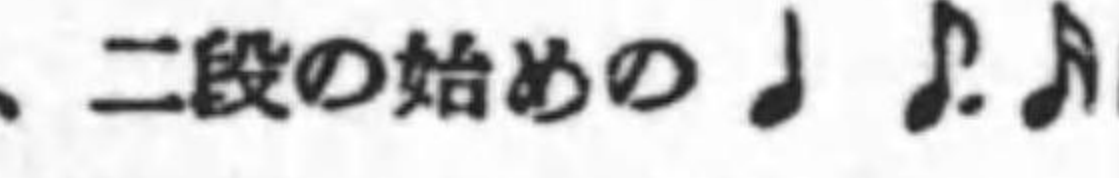
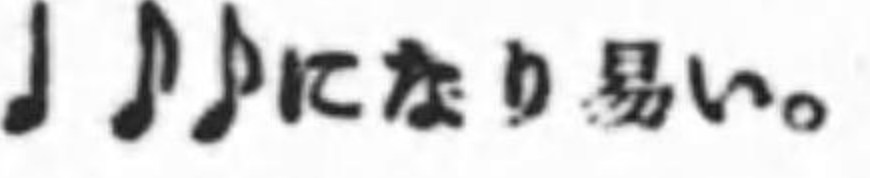
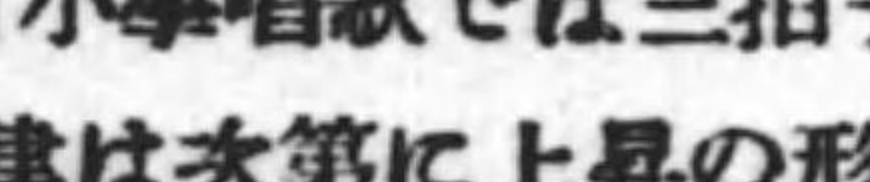
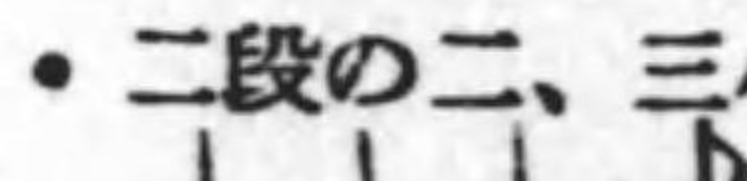
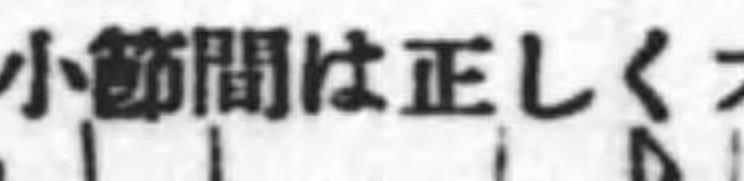


月	基本指導	鑑賞
4	<p>○音階練習(ハ調、ニ調、ホ調の三調子を連絡してラ、ア、ク音にて練習する、時々ピアノを離れて確否を調べる)</p>  <p>□音階圖の視唱による音程練習 本月中は二年に行つた練習を繰返して程度を見る。 ●既習曲の指示唱(教師が主音だけを興へて指した曲を歌はせる、リズムは鞭の早さによつてつけられる。) ●簡単な音程練習曲を指示唱させる。 ●音程の発見を指導する。</p>	
5	<p>□音階譜への指導 音階圖と同一でたゞ間隔が狭いものであることを知らせる。 赤丸を四ヶつけて既習曲を指唱示して慣れさせる。 ◇楽器音による聴音練習(調子はその時間の教材と同一にする) 音域(ハ、ニ調であればドーレ) ●初めは次の形式にて音程練習曲を聴音させる。</p>  <p>●ドレミソラドの六音についてよく聴音させる。</p>	<p>急行列車</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●何の音楽でせう。</li> <li>●どうして汽車といふことか。</li> <li>●この汽車のお話が出来るか。</li> <li>●汽車を作つて(数名の児童にて)合せませう(自由表現)</li> </ul>
6	<p>○音階練習(ハ調)にて上行上行を一息にて繰返して歌はせる。 ●初めに力を入れて歌ふと長く續かない。 ●息の吸ひ方が悪いと長く續かない。 ●姿勢をくづすとイケない。 ●途中で息を繼がない。 □音階譜の視唱による音程練習(ハ調ドーレ) ●既習曲の階名唱議より。 ●半音進行も指導する。 ●ゆつくりバトンにつれて。</p>	<p>森の狩獵</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●描寫内容について感想發表。</li> <li>●部分的に夜明、鍛冶屋、</li> <li>●どんな感じがしますか。</li> </ul> <p>森の鍛冶屋(二年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●描寫音楽について「寫眞のやうによくわかるのを感じてゐますか。」</li> <li>●こんな音楽ではよく聞いてその様子を考へる。</li> </ul>
7	<p>◇楽器音による聴音練習(ニ調) (例)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>●階名唱議が出来たら假名にて書かせる。</li> <li>●一、二児童を樂譜盤に丸にてあらはさせる。</li> <li>●拍子練習は四月當初より行ふ。 拍節によるときは「大きな拍子」 打節のときは「小さい拍子」と便宜上名稱を區別する。</li> </ul>	<p>アメリカン・パトロール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●何のレコードかあてゝ下</li> <li>●どの樂器をつかつたのでこんなきもちのよい音楽</li> <li>●器樂指導の木琴合奏と連絡。</li> </ul>

指導	器樂指導
	<p>本學期の指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 歌、ピアノに合せる場合は唱議教材中よりハ調の曲或は他の調子ならばハ調に移調して演奏させる。</li> <li>(2) 旋律唱議を徹底させ本符のリズムを自由に呼唱出来る様に導く。</li> <li>(3) 初歩指導の際であるからリズムの複雑な曲を成るべく避けて唱議教材或は行進曲中より選曲する。</li> <li>(4) 一學期間にまとまつた合奏は一曲か二曲で充分である。</li> </ol> <p>(樂譜板の利用)</p> 
<p>がわかりますか。</p> <p>すか。</p> <p>童にて)合せませう(自由表現)</p>	<p>表。</p> <p>狩獵を味はせる。</p> <p>(全曲鑑賞により壯快な氣分を味はせる)</p>
<p>音楽の事ですがこの外に今まで聞いた</p> <p>てその様子を考へる。</p>	<p>(一年)</p> <p>さい。</p> <p>すか、そう木琴ですね、上手に使へば</p> <p>になるのですよ。</p> <p>絡。</p> 

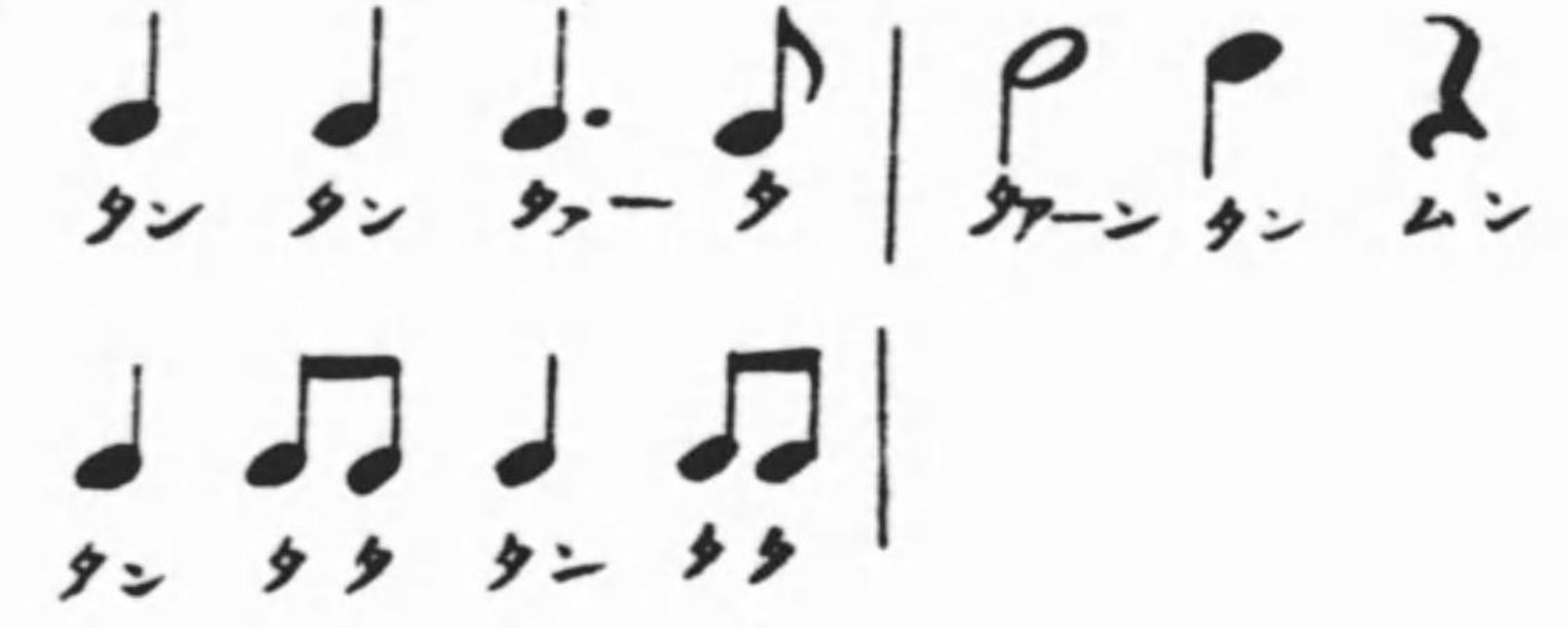


月	唱詠教材	調子	拍子	音域 速度	目的
9	波	##	4/4	♩=108 1分11秒強	白砂の海邊や岩のきり立つた海邊に打寄せる波の面白さを表現した本歌曲を授けて海に親しませ爽快な情を養ふと共に強弱起の混合した歌曲の唱詠に習熟せしめる。
	村 祭	#	2/4	♩=84 1分09秒強	曠方の教材と連絡して子供達にとつて親しみの深い田舎の秋祭の楽しさを表現した本歌曲を授けて愉悅の感と鎮守の神様に對する感謝の心とを養ふ。
10	蟲の聲	##	2/4	♩=80 1分	秋の野に鳴く虫の聲の面白さを表現した本歌曲を授けて爽快の情を養ふとともに速い言葉の擬聲音や同形類似旋律の正しき唱詠力を練る。
	明治節	##	4/4	♩=96 一節1分	明治節の儀式に備へ明治天皇の御盛徳を偲び國民的情操を養ふ。
11	雁がわたる	#	4/4	♩=104 1分32秒強	静かな秋の空を渡る雁の様子を表現した本歌曲を授けて静寂な情趣にひたらせ優雅の情を養ふと共に高音進行の多い歌曲の唱詠に習熟させる。
	麥まき	b	4/4	♩=126 1分09秒	農家の秋、親子睦じく麥まきをする情景を表現した本歌曲を授けて平和な情景にひたらせ、なごやかな氣分を養ふ。
12	飛行機	##	3/4	♩=168 1分17秒	子供の憧憬の中心である飛行機の壯觀を讃へた本歌曲を授けて勇壯の情を養ふと共に初めてのイ調四分の三拍子の歌曲の唱詠に習熟させる。
	(四月教材) 天長節	##	4/4	♩=96 一節40秒	天長節の儀式に備へ聖壽の喜びと皇運の隆盛を讃へ國民的情操を養ふ。

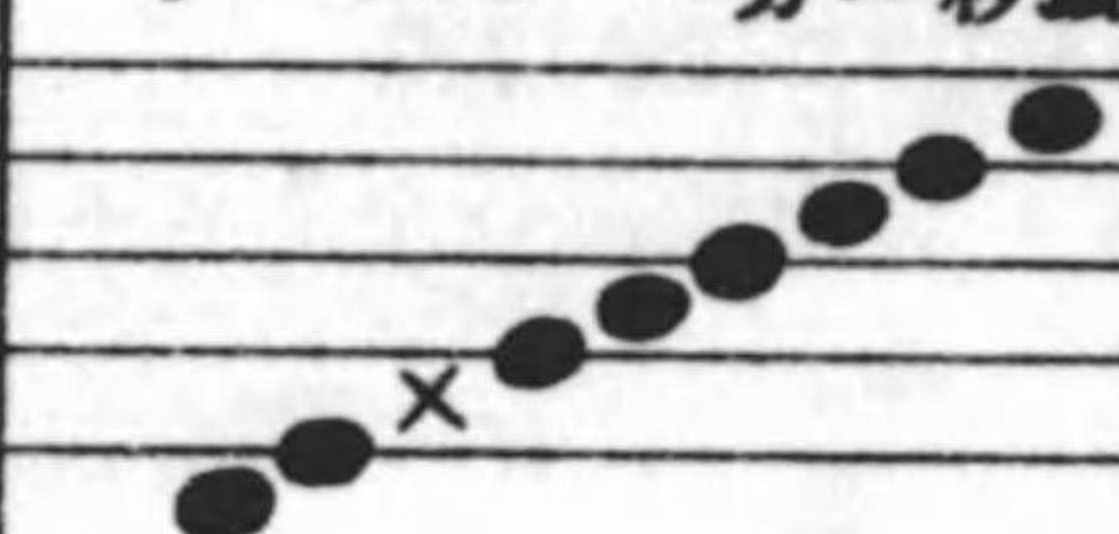
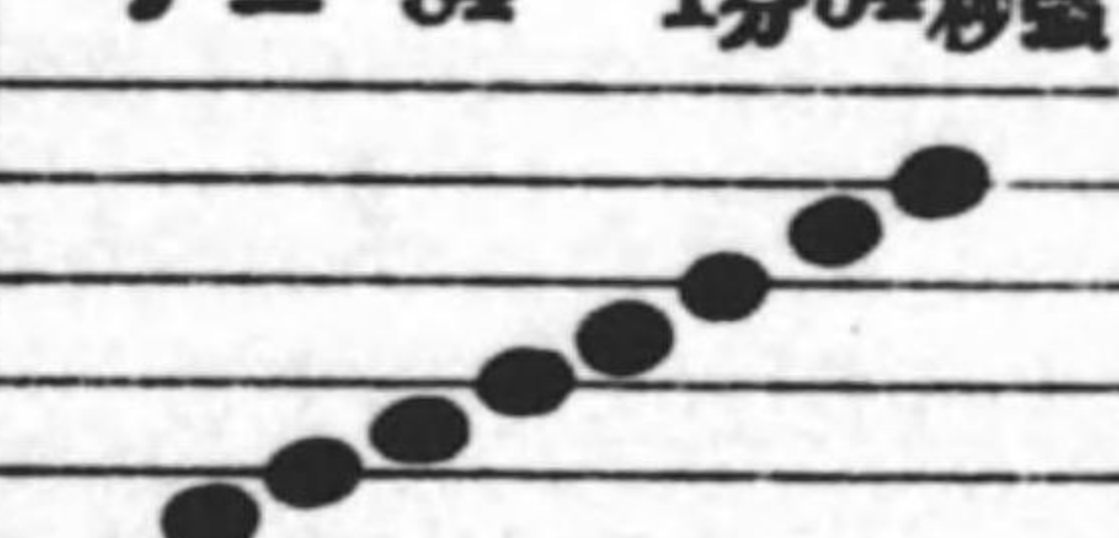
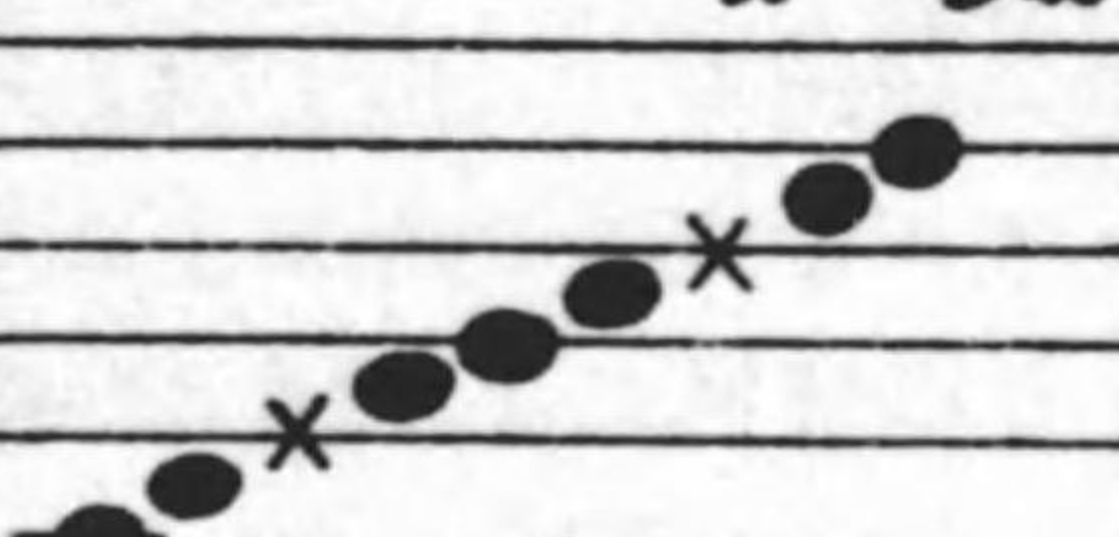
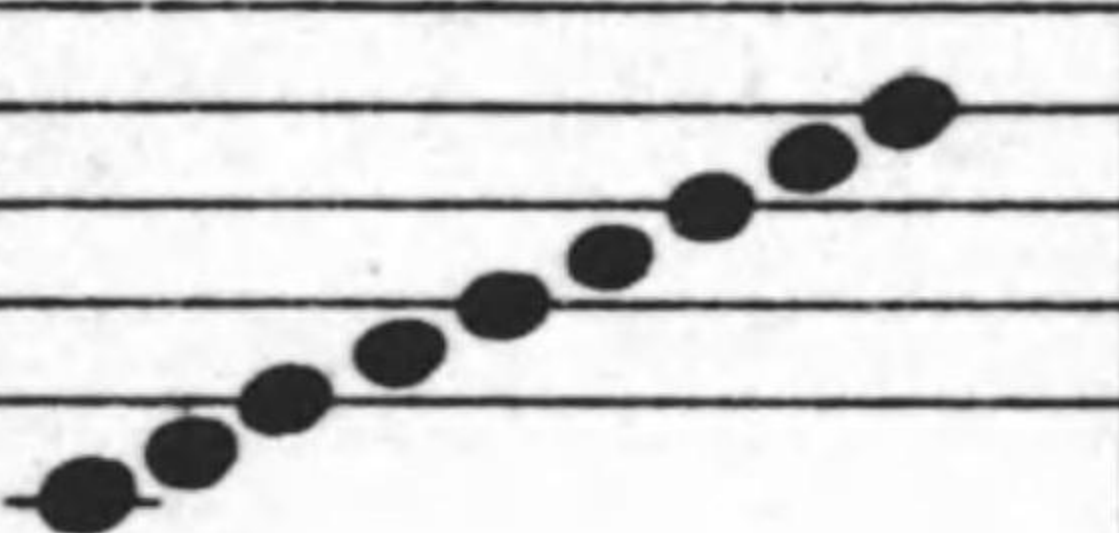
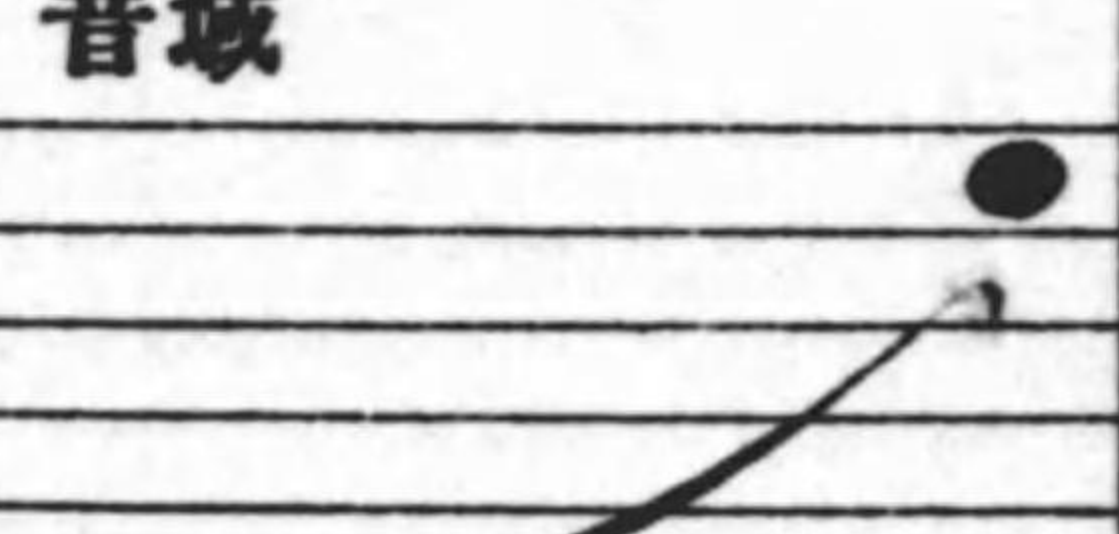
指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>弱起、強起のうつり變りの歌ひ方はなだらかに。</li> <li>「ちるなみ」は「……」とする。</li> <li>延長記號はあまり延ばさぬ。</li> </ul>	<p>con <i>For</i> = ペダルをもつて</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一、二段の始めの  は  になり易い。</li> <li>三段の擬音は前後變化をつけると面白い。</li> <li>オクターブ進行あり。</li> </ul>	<p>piuf = もつと強く sfz = 特にその音を強く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>同形類似旋律が多い、歌詞が誤唱され易い。</li> <li>虫の擬聲音は綺麗に弱く歌ふ。</li> <li>歌詞第二節の初め「きりきり、きりきり」と「あとからうまおひ」の二箇所は難しいからよく初めに範唱奏をなす</li> <li>四段「ドドシラ」が「ドドララ」と誤唱され易い。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞は大意の説明にとどめる、而して 明治天皇の御聖徳については歌詞と連絡して具体的に説話する</li> <li>休止符は二個だけであるからブレスに注意して拍子が狂はぬ様に。</li> <li>三節の「代々木の森の」は「よよぎのもりの」で一、二節の歌詞の割り方が違ふ。</li> <li>「仰ぎまつらん」は「あをぎまつらん」と發音する。「あらはれまして」の音程を正しく。</li> <li>各節の一句を初めにハツキリ暗誦する。・疲れ易いから高音を出来るだけやわらかに歌ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>曲と歌詞とは相俟つて美しさを表現してゐる、故に歌詞を中心として進める</li> <li>全体を通じて高音の旋律である、リズムは二分音符と四分音符の平坦な形式である。・二段はブレスを守りなだらかに歌ふ。</li> <li>三段「レミレソ」ソを音程正しく。・五段の「カリ」のりは延ばし過ぎぬ様に。・全体軽く樂に發聲せしめる。・完全五度の進行あり</li> </ul>	<p>cresc = クレツシエンド (段々強めて)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律が自由に動いてゐる。</li> <li>力強いリズムを現はすため後段の二分音符は正しく延ばす。</li> <li>一段、四段の「ラソミド」のソにアクセントが入らぬ様に音程正しく。</li> <li>一段、四段ソ→ミの長六度、三段の ド→ファの完全四度の上昇は音程に注意する。・長六度の進行あり。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>新訂小學唱歌では三拍子の歌曲の初め。・♩が  の如く二拍子になり易い</li> <li>旋律は次第に上昇の形。・初めが低音であるから重くならぬ様に。</li> <li>三拍子は初めであるからリズムをハツキリと範奏、範唱を充分に行ふ。</li> <li>二拍と一拍の結合した三拍子の基本練習と拍節法とを指導す。</li> <li>完全四度の進行がある。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>一句は「大君は」は「おーきみ」と發音する。</li> <li>第二小節のファの音はその前の音との間の四度音程が比較的難しい、階名で正しく歌はせる。</li> <li>二段の二、三小節間は正しくブレスさせる。</li> <li> が  と誤唱され易い。</li> </ul>	




月	基本指導	鑑賞
9	<p>● 假名譜より本譜への指導。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>五線紙の間を使用して模様をかきせる。(主に家庭作業)</li> <li>五線紙の線を使用して模様をかきせる。</li> <li>ハ調の位置に當分符頭のみにて書せる。</li> <li>印刷して次の形式を與へ多く練習する。(教師は樂譜盤を使用)</li> </ul> 	<p>波を越えて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな感じがしますか。</li> <li>拍子をとりながら聞きませう。</li> </ul>
10	<p>◇ 聴音書取練習 (ドーミ) = 調ト調へ調</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>樂器音を五線に書取る。</li> <li>兒童の書取る形式はすべてハ調に</li> </ul> <p>(例)</p>  <p>□ 音階譜の視唱による音程練習 (ドーソ) ハ調 (黑板)</p> <p>形式</p> 	<p>ダニューブ河の漣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲の全体鑑賞と感想發表</li> <li>どんな気分がしますか。</li> <li>何拍子でせう。</li> <li>女兒に自由表現をさせる</li> <li>旋律鑑賞(聴唱によつて)</li> </ul>
11	<p>○ 音階練習 (ト調へ調)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ト調へ調のものは次の形式によつて練習。</li> <li>速度は速くして連続したり、遅くしたり、母子音に變へたりする。</li> </ul>  <p>● 旋律唱詠の指導 (樂譜による)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲の樂譜を示して</li> <li>「今はこの歌を譜をよんでもらふ、名前を四つだけ覚えませう」 ターン ター タン タ これて歌ひませう</li> <li>曲は一年二年の休止符の無い既習曲を選ぶ。</li> </ul>	
12	<p>◇ 聴音書取練習 (ドーソ)、ト、ニ、ヘ、ハ調</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その時間中は調子を變へない。</li> <li>書取→階名唱詠→母子音にて歌ふ。</li> </ul> <p>(例)</p>  <p>□ 音階譜視唱音程練習 (ドーラ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場所と階名の吟味</li> <li>階段狀</li> <li>數在</li> <li>黑板の場所を指して視唱</li> </ul>	<p>金 婚 式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>拍子をとらせ説明なしで聞きさせる。</li> <li>感想發表。</li> <li>旋律を聴唱にて教へる。</li> </ul>

指 導	器 樂 指 導
せう。	<p>合奏樂譜の初歩指導</p> <p>(イ) 黑板に書いたリズムを自由に鳴らす事が出来る様に指導する。</p> <p>例</p> 
もよい。	<p>(ロ) 休止符は次の如く指導する。</p> <p>7 = ム 2 = ムン 一 = ムーン</p> <p>口を閉じて呼唱する</p> <p>(ハ) そのリズムを齊奏させてから記號を變化させる。</p> <p>(ニ) 呼唱練習を多く加へそれが自由に出来れば合奏も容易である。</p> <p>(ホ) 四拍子、二拍子のリズムを掛圖にして教師の指した處のリズムを樂器で齊奏させる練習を徹底させる。</p> <p>この徹底により讀譜が極めて容易となる。</p> <p>(ヘ) 拍子は混合しない様に注意する。</p>
聞かせる。	



月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
1	豊臣秀吉	♯	4/4		♩ = 104 1分32秒強	兒童の崇拜する豊臣秀吉の武勳を讃へた本歌曲を授けてその人格を偲ばせ崇拜の念と雄大な心とを養ふ。
2	冬の夜	♯	4/4		♩ = 84 1分54秒強	冬の夜の農家の睦い家庭と、静寂な情趣とを表現した本歌曲を授けて平和ななごやかな気分ひたらせる。
	螢の光	♭	4/4		♩ = 104 1分14秒強	卒業式の儀式に備へ惜別の情を深めると共に前途の多幸を祈る心を養ふ。
3	私のうち	♭	3/4		♩ = 72 2分40秒	農家の四季の情趣を表現した本歌曲を授けて田園生活の情趣を味はせると共に四分の三拍子の唱謠に習熟させる。
	新訂尋常 小學唱歌 第三學年用	調子 D 6 # 11 # 6 # 3 # 1	拍子 3/4 7 3/4 14 3/4 2 3/8 1 3/2 1	音域 	音程 (新出のもののみ) 短三度 F→レ レ←ス 完全五度 レ←→ラ 減五度 F→←ス 長六度 ミ→ソ	

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>• ♪♪♪♪のリズムが♪♪♪になり易い。</li> <li>• 四段「ドレミファ」が「ドレミソ」となり易い。</li> <li>• 三段四段五段は二小節でブレス。</li> <li>• 完全五度の進行がある。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 五段は發音に注意して曖昧にならぬ様に、そして附點四分音符にアクセントを少しつけると美しく響く。</li> <li>• 一節一句の「母は」は「ハハハ」とならない様に。</li> <li>• 一段チーカクが「ソーラソドレ」となり易い。</li> <li>• 「細なふ」は「のー」と發音。</li> <li>• 旋律唱謠より入るとよい♪♪♪の休止符は表現的意味を教へる。</li> <li>• 歌詞が相當難しい殊に都會の兒童にとつては、故に旋律が大體歌はれる様になつたらだんだん深めて取扱ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 歌詞は難しいから平易に説明する。</li> <li>• 速度が遅いとあまりにも感傷的になるから注意する。</li> <li>• Vを正しく守る。</li> <li>• 「まどのゆき」は「マドノウキ」</li> <li>• 「かさねつゝ」は「カサネツウツ」と歌ふ。</li> <li>• ♪♪♪は♪♪♪にならない事</li> <li>• ワカレユクを弱く歌ふ。</li> <li>• 歌ひ出しは一二三と數へて弱起旋律であることをわからせる。(拍節法によつて)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体に休止符がないから特にブレスは正しく指導する。</li> <li>• 弱起の三拍子である。</li> <li>• 「歌ふ」は口語体で「うたう」と發音</li> <li>• 完全五度の進行がある。</li> </ul>	
<p>新出リズム</p> 	



月	基本指導	鑑賞
1	<p>□音階譜の視唱による音程練習 (F-D)</p> <p>階段形式      散在形式      指して視唱</p>  <p>○音階練習(ハ、ニ、ホ調)拍子を変へて種々な形式による上行下行</p>  <p>トカカン トカカン :::: :::: :::: :::: :::: :::: :::: :::: ::::</p>	
2	<p>□音階譜の視唱による既習歌曲の階名唱譜 時間を定め回数を一定にして暗誦の競争をさせるもよい。 数回行つたらピアノをつけて児童自身に歌はせてみる。</p> <p>○音階練習(うたのけいこの階名唱譜)による。</p> <p>●冬の夜は聞き覚えの教材であるから歌詞の取扱が済んだら歌曲を示して旋律唱譜から入る。 リズムの誤唱が少くなり殊に「とーろとーろ」が良く指導出来る。 既習曲(ト調)の二、三旋律練習を初めに行ふとよい。</p>	<p>玩具の交響樂 (二年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静かに聴かせる。</li> <li>・ 曲の解説 (主にハイデルベルクの物語を主にして)</li> </ul>
3	<p>□音階譜の視唱による音程練習 (D-E) ハ調、 音階譜は黒板と譜圖と兩方使用するとよい。 基音を移動しても直に唱譜出来る様に習慣づける。</p> <p>◇聴音書取練習 (D-F)</p> <p>階名唱譜をさせる時はリズムをつける。 書取の時は符題のみ。</p> 	<p>時計屋の店 (一年) (二年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌時計にあらはれた「スコットランドの釣鐘草」と口笛にて旋律鑑賞</li> </ul>
	<p>本學年基本指導上の反省事項及進度 (指導者記入)</p>	<p>本學年指導教材 (指導點を示したるもののみ)</p> <p>急行列車 (C746)</p> <p>森の狩獵 (V35792)</p> <p>波を越えて (V35774)</p> <p>ダニューブ河の漣 (V35774)</p> <p>金婚式 (C90501)</p> <p>森の鍛冶屋 (二年)</p> <p>アメリカン・パトロール (一年)</p> <p>玩具の交響樂 (二年)</p> <p>時計屋の店 (一年、二年)</p>

指導	器樂指導
	<p>演奏曲の指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 主旋律の旋律唱譜を充分になす。</li> <li>(2) 階名にて歌はれる様にする。</li> <li>(3) 行進曲であるならば教室の出入はその曲に合せ又拍子練習もなす。</li> <li>(4) 拍手にてリズムをうたせる。</li> <li>(5) シロフォン圖にてシロフォン演奏指導をなす。</li> <li>(6) 大体出来たら合奏にうつる 初めは齊奏から次第に教師の指揮につれて演奏する所を分擔する。</li> <li>(7) 曲は容易なものを選び、指導の時間は、毎時數分間に行ひリズムは時間外にもうてる様に課題してよい。</li> </ol> <p>演奏曲の例 (主旋律)      行進曲</p> <p>♩ = 120</p>      



指導方針

- (イ) 本學年より樂譜視唱に入る。  
樂譜指導の要素として  
音程は前學年までに大体正しく歌はれてゐるか否か。  
  
調子の變化による階名唱謠  
は音階譜の基音となる赤丸を動かしても自由に階名を答へられるか否か。  
  
リズム（主に長短の配列について）は  
旋律唱謠が徹底して時間を正しくとる事が  
出るか否か。  
  
以上の三要素の吟味、反省をして兒童の力を知る事が必要でその結果教材の難易により方法を選ぶ。
- (ロ) 第四、五學年に於て視唱力をつけ第六學年になつては鑑賞指導方面に力を注ぐために本學年中に基礎的の事項は指導するも過去三年間の指導を反省してそれに立脚しなければ徒に嫌惡を興へるばかりである。
- (ハ) 發想指導について兒童の感じた所を表現して次第に正しい表現へと導く  
「歌の氣持に合ふ様に強く弱く歌つて他の列は拍子を取りながら聞いてどうだつたか考へなさい」
- (ニ) 寫譜の作業  
階名、リズム、歌詞の記憶等は最も寫譜を必要とする印刷して興へた曲でも一度は五線線に書きとらせる。

主に時間外の作業として書いて來た者には檢閲の印を押してやると喜んで寫して來る。  
リズムの複雑なものは符頭のみでよい、随つて音部記號、調子記號が必要となる。

- (ホ) 高音部記號  
圖畫紙に大きく五線を引かせてクレオンで模様の如く書かせる。



その時口の中で  
「二線をめぐり五線をめぐる」と言はせる。

- (ヘ) 調子記號  
以上と同じく五線に、シャープ、フラットの模様の書かよせる正しく線間に早く書寫出来る様に導く。（課外作業でよい）
- (ト) 聲量も増し音域も擴がる時代であるから唱謠指導、基本指導に於て發聲の指導を十分ににする。
- (チ) 發想指導  
旋律の形式、歌詞内容や旋律についての發想指導を意識的に導く様にする。  
如何にしたならば發想を表現して歌曲の情調を味得させるかを工夫させる。

- 内聲唱（口形体操）を多く行ひ口形の變化について指導する。  
前學年と同じく列毎に教壇上に出して歌はせ口形や唱謠態度について批判する。

指導法

- (一) 視唱法への導き  
三年までに音階譜（譜盤）の指導により基音が變化して自由に階名にて歌はれる様に指導してあれば左程困難でない、最も困難と思はれるのはリズムの指導である。  
これは前學年までに旋律唱謠をしてあるからそれと指導を聯關する。  
本學年に比較的多くあらはれる形式の内で以下のものがわかれば大体唱謠出来る。  
困難の所があらはれた際は旋律唱謠なり範唱により導く。  
♪ タン タン 「一つづよ」  
♪ ター タ 「のばしてはねる」  
♪ タ タ 「はしる」  
♪ ターン 「うんとのはす」
- (イ) 純視唱……（容易な教材、聞き覚えの教材）  
初めは讀方に於ける範讀の如く教師の範唱を行つた方がよい、  
豫告して自習させた方が徹底する。
- (ロ) 聴唱的視唱……（比較的困難な教材）  
• 初めは五線に符頭のみを示すその階名唱謠の後にリズムをつける。  
• 音階譜の指唱によつて曲の大体を把握せしめて歌曲に入る。
- (ハ) 聴唱法……（程度の高い教材）  
視唱力の少い兒童が多い場合。  
視唱力が伴はない兒童には無理がかより随つて唱歌を嫌ふ一因となると思ふ。  
聴唱法によつたとして第一歌詞を取扱つた後で階名唱謠を指導しておく。

(二) 歌詞の取扱ひ

前學年同様難しい語句のある教材は豫習させ讀方にある教材は讀方を指導後に取扱ふ。  
(1) 讀んでわからない言葉（よみ、わけ）  
(2) 思つた事、感じた事。  
(3) どんな様子を歌つてゐるか。

(三) 視唱練習

樂譜の視唱は説明よりも多くの樂譜を視唱する体験がよい。  
その意味で聞き覚えの教材若しくは容易な教材を多く興へて補充教材として曲だけでも指導したい。  
視唱力のつき初めた頃の兒童は假名を覚え初めた頃、字をあさると同様に喜んで歌ふものである。曲の調子は同一のものを二、三曲づつ視唱させる。

(四) 視唱力調査

全体として視唱出来たからそれがその學級の兒童個人の力とは云はれない。  
優秀兒童の補導や援助によつてゐるからその視唱力の大体については基本練習中の音程練習を個人的に行つてその大体を知らねばならぬ。

(五) 自學的訓練

歌詞の豫習と同様に歌曲の視唱も兒童の力によつては自習させてみたり又階名唱謠等も復習させる様にする。視唱させる曲は豫告するとよい。



**基本指導**

- (イ) 本學年に於ては音階譜の視唱による音程練習を前學年に引續き行ひ歌曲による音程練習をも加へる。
- (ロ) 音階圖の視唱による音程練習は曲を定めても効果が少いから教師が即興的に音の進行の無理の無いものをペタンにつれて自由に歌はれる様にする、したがつて各月の配當には曲を示さない。
- (ハ) 發聲器官が發達したから次第に音域を擴げ聲量の訓練をなす。
- (ニ) 基本指導の要諦として
  - (1) 歌曲と連絡する。
  - (2) 短時間に能率を上げる。
  - (3) 形式的取扱に流れず興味的に行ひ、斷片的指導にならない。
- (ホ) リズムの指導  
 聽音練習、音階練習と連絡して行ふ。  
 初めはピアノの音階の模唱から音階譜を指して歌ひ次第にリズムをつけて練習する。  
 大体次の如き形式について練習する。四拍子であれば

$\lambda = \text{quarter rest}$      $1 = \text{half rest}$   
 休止符の  $\lambda$  はタツと口の中で云つて休む  
 $1$  はタといつて休む

を初めは旋律を歌はせ次に組合せて音階練習をなす。

(例) 1

(例) 2

種々なる形式のものを掛圖として製作し又兒童には配列形式の異つたものを印刷して與へて練習せしめる。

- (ヘ) 楽曲に関する事項も教材の要求に応じて説明するにとどめ理論的取扱をさけて平易に述べる。
- (ト) 歌曲の聽寫練習  
 簡易な曲或は練習のため既習教材の一部又は全曲を初めは音の高さだけを●にて書きとらせ次にリズムを タンタンタン | タンタンタンと云つて に書かせる。
- (チ) 教師が階名をとらへて兒童に五線上に○にて書かせる階名聽書を加へる。

**鑑賞指導**

- (イ) レコードの選定 (其ノ二)  
 兒童に到底理解出来ない曲を選ぶ事よくないのは申すまでもないが、たと興味的無系統に選ぶよりは他方面にわたり、一つの体系が出来ると大へんよい。  
 器楽曲より眺めて可能なる範圍に於て選定するとよい。

**器楽曲の種類**

- (1) 作曲上の形式
  - 形式的音樂
    - 組 曲
    - 小 夜 曲
    - 交 響 曲
    - 鼓 奏 曲
    - 變 奏 曲
    - 鳴 奏 曲 等
  - 内容的音樂
    - 標 題 樂
    - 描 寫 樂
    - 交 響 樂 詩
    - 序 曲
    - 無 言 歌
    - 子 守 唄
    - 夜 曲 等
- (2) 演奏上の形式
  - 獨奏
  - 合奏 室樂(二……九重奏)
    - 弦樂合奏
    - 木管合奏
    - 眞鍮合奏
    - 吹 奏 樂
    - 管 弦 樂

**聲楽曲の種類**

- (1) 作曲上の形式
  - 民 謠
  - 藝術歌謠
  - 歌劇歌曲
  - 宗 教 樂
- (2) 演奏上の形式
  - 獨唱
    - ソプラノ
    - アルト
    - テノール
    - バ ス
  - 合唱
    - 共 唱 (二……九重唱)
    - 齊 唱
    - 男聲合唱
    - 女聲合唱
    - 混聲合唱

**(ロ) 第四學年指導法**

- 前學年の他に
  - 主題の唱謠
  - 曲想の比較
  - 曲名をあてる (判別)

**器樂指導**

- (1) 歌のリズムに合奏
- (2) 主旋律に合奏 (ピアノ)
- (3) レコードに合せる
- (4) リズム樂器、旋律樂器としてシロフォン指導
- (5) 教師の指揮
- (6) 樂譜による合奏
- (7) 明笛、銀笛の指導



月	唱詠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
4	春の小川		4/4		J=104 1分50秒強	長閑な陽春の小川を表現した本歌曲を授けて春の自然美を彷彿させて快活な気分にならせると共にハ調の視唱に習熟せしむ。
	動物園		2/4		J=76 1分16秒強	動物園の愉快なる様子を表現せる本歌曲を授けて軽い滑稽味を味はせて快活な気分にならせると共にハ調の視唱に習熟せしむ。
5	(女) お手玉	b	2/4		J=100 1分08秒強	お手玉遊びの面白さを表現した本歌曲を授けてその情景を展開して軽快、優雅の情を養ふと共にハ調四分の二拍子の視唱に習熟せしむ。
	(男) 曾我兄弟	#	2/4		J=88 1分49秒強	曾我兄弟の勇壯なる敵討ちを表現した本歌曲を授けてその面影を偲びつゝ兄弟愛と孝心とに感激させると共にト調の唱詠に習熟せしむ。
6	夢		2/4		J=84 51秒強	子供らしい夢の面白さを表現せる本歌曲を授けて軽い滑稽味を味はせ、併せて軽快純真な気分にならせ一面リズムの構造の複雑なハ調の歌曲の唱詠に習熟せしめる。
	雲	#	4/4		J=104 2分18秒強	千變萬化の雲の美しさを表現せる本歌曲を授けて自然美を彷彿させて壯快な情を養ふと共にト調四分の四拍子のリズムカルな曲の唱詠に習熟せしむ。
7	牧場の朝	#	4/8		J=132 1分49秒強	牧場の朝の詩的情趣を表現した本歌曲を授けて爽快優美な気分にならせると共に弱起、強起の旋律の交錯したニ調八分の四拍子の唱詠に習熟せしむ。
	水車	b	4/4		J=132 55秒強	静かな水車の春と秋との詩的情趣を表現せる本歌曲を授けて軽快なる気分にならせると共にリズム形式の複雑な變調四分の四拍子の唱詠に習熟せしむ。

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>一段、四段の三小節「サラサラ」「ササヤク」は弱く歌ふ、然し其の前二小節も弱くなり易い。・ 平和な曲想を感得させると共に快活優美の情を起させる。・ プレッシング前の四分音符は充分テヌートする。・ 類似旋律を理解させ之を中心として自學的に讀譜練習をなす。・ 曲想はのどかな優美。</li> <li>ハ調の視唱に慣れさせるために補充教材として検定曲を二三曲取扱つた方がよい。</li> </ul>	<p>sm..... =オクターブ高く奏する。 Fine.....D.C =D.Cより初に振りFineで終る。</p> <p>奏法 第一歌詞は </p> <p>第二三歌詞は </p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム形式が統一されてゐるから始の小節のリズム形式を体得させ之を應用して全部を視唱させる。</li> <li>三段三小節の「ミソド」のソの音程が曖昧になり易い。</li> <li>快活な長閑な曲想表現。・ ライ③②又はオー③ス①②の音に不自然な力が加はらない。・ 四分音符に二音の歌詞についた所は ♪ ♪とならぬ様に正しく分割する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムは四分音符と八分音符とからなる平坦なやさしい形状で日本古來の童謡、俗樂の陽旋法に近い音の動きである。</li> <li>常にお手玉の遊戲に合せる様な氣持で軽く歌ふ。</li> <li>プレッシングを正しく。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞が難いから平易に解釋する。・ 勇壯に歌はせる反面粗暴にならぬ様に。</li> <li>弱起の旋律でリズムに統一ありやさしい曲。</li> <li>各段最初の八分音符の長さが曖昧にならぬ様に。・ 附點八分音符に少し明瞭にアクセントをつけて、リズムを鮮明に。・ 三段のレの音程に注意。</li> <li>全体として急がず元氣にみちた力強い曲想を表現する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム構造複雑 故に初めはユツクリ後は正規に。</li> <li>三段の三小節のテヌボが速くなり易い。・ 四段の四分休止符の所は正しく一拍休み「ユメダツク」は軽く歌ふと滑稽味があらはれる。</li> <li>「マツシクラ」のクがグにならぬ様に。・ 快活な曲想を表現する。</li> </ul>	<p>cresc = </p> <p>▼ = ◦ のスタッカートよりはつきり ♩ = 特に強く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一、二段のプレッシングの個所を正しく。</li> <li>♪ ♪ のリズムの處は音程やリズムが曖昧にならぬ様に。</li> <li>全体としてはきはきと歌ひ快活な曲想を表現する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>三段の一小節のフに注意。・ 四段三小節の三拍目にある附點八分音符を正しく一拍半テヌートする。・ 五段一小節の「ドレミソラ」のソの音程が曖昧にならないやうに。・ 優雅な曲想を表現する。・ 弱起強起の旋律が交錯してリズム形式も變化が多いから全体の構造をよく聞かせる。</li> <li>一段三小節の「ララス、ドレ」のスが不明瞭にならぬ様に。</li> </ul>	<p>奏法</p> <p>♩ = これを成るべく短く奏す ♩ = 特に強く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム形式に變化があつて特に永い休止符が用ひてあり(三、四段に)最後の節に休止符がない。・ プレッシングが不規則であるから注意をする、特に一段から二段にうつるときに。・ すこし野趣をおびた優雅な曲想を表現。</li> <li>三段の四小節四段の三小節の三拍の休みの前にある四分音符が伸びない様に、又三拍の休止符は確實にする。</li> </ul>	



月	基本指導	鑑賞
4	<p>○音階練習（ハ調）リズムをつけて上下行を一息にて。 □音階譜の視唱音程練習（ハ調ド〜ミ）</p>  <p>◇聴音書取練習（ハ調ド〜ド）書取記号は●又は↓にて。</p>  <p>●視唱練習の意味で充分補充教材の視唱を行ふ。</p>	<p>小川のほとりにて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どんな情景が浮んで来ますか。</li> <li>• 全体をきいてどんな気分がしますか。</li> <li>• 楽器とその表現について</li> </ul> <p>主題</p> 
5	<p>●寫譜指導、音部記号、シャープ、フラットを模様として書かせる。 ○音階練習（ハ、ニ調二拍子にて）</p> <p>(例)</p>  <p>□音階譜の視唱音程練習（ラ〜ラ）ハ調 散在形式</p>  <p>◇聴音書取練習（ド〜ラ）ハ調 慣れる間は順次進行を書取らせる。</p>	<p>密 蜂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 旋律の美しさについて感ずるか。</li> <li>• どんな處が蜜蜂の感じがするかのどですか。</li> <li>• ヴィオリンの音色と表現の特長を話する。</li> </ul>
6	<p>○音階練習（音階譜の視唱）ハ、ニ、ホ調の基音のみを與へる。 □音階譜の視唱音程練習（ソ〜ラ）ハ調 ◇聴音書取練習（ラ〜ラ）ハ調</p> <p>(例)</p> 	<p>トロメライ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 旋律美の鑑賞</li> <li>• 主題の唱詠全曲のハーミ</li> <li>• 旋律暗誦</li> </ul>  <p>ウィリアム、テル序曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 黎明、嵐、寂靜、終曲の</li> <li>• ウィリアム、テルの話</li> </ul>
7	<p>○音階練習（ハ、ニ調）音階譜の視唱を加へる。</p>  <p>□音階譜の視唱による既習曲の階名唱詠。 ◇聴音書取練習（ソ〜ラ）ハ調</p>	<p>朝の気分（ベア、ギュントの組曲）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どんな情景が目に浮かぶか。</li> <li>• 氣持の發表</li> <li>• ベア、ギュントの話</li> </ul>

指導	器樂指導
<p>すか。（感想發表）がしますか。（旋律鑑賞）指導する。</p> 	<p>□明笛銀笛の指導（設備出来たら） 銀笛はハ調のものを使用 明笛は製作する場合は調子を決することが出来ない。 楽器（口にあてる）の交換は衛生上留意すること。 音階</p>  <p>左手</p>  <p>右手</p>  <p>●合奏樂譜について</p> <p>(イ) リズム掛圖の齊奏が徹底する様に練習しておく。 (ロ) 全曲のリズムを書いて一小節か二小節づつをリレー式に各楽器によつて受繼いで演奏させる。 (ハ) 全曲を演奏する時、齊奏よりも打楽器が一部分演奏する美しさを知らせる。 (ニ) 以上の指導過程を経て合奏樂譜の指導に入る初めは二、三楽器にして次第に加へる。リズムは各楽器によつて色彩別にするとよいと云はれて居り楽器名を表現するより容易である。 然し印刷して與へる事は困難であるが黑板上のものを寫譜する時は色鉛筆を使用させる。</p> <p>黒・白=全楽器                      黄=シンバル 青=    トライアングル              茶=小太鼓 緑=    カスタネット                紫=輪鈴 赤=タンバリン                      其他</p> <p>二個以上の楽器の時は符頭を重ねて表す。</p>
<p>想發表。 するか。 のどですか。 の特長を話する。</p>	
<p>ソング唱詠 • 女兒の自由表現。</p> 	
<p>感想發表</p>	
<p>曲)</p>	



月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
9	廣瀬中佐	#	4/4	J=112	1分48秒弱	廣瀬中佐の忠勇を表現した本歌曲を授けて中佐の忠誠に感激をさせ愛國の情を養ふと共にト調四分の四拍子の視唱に習熟せしむ。
	たけがり	#	2/4	J=84	1分26秒弱	たけがりの楽しさを表現した本歌曲を授けてその情景を展開して快活な感じを喚起すると共に三連音符のあるト調四分の二拍子の唱謠に習熟せしむ。
10	山雀	b	2/4	J=112	51秒強	可憐な山雀が籠の中で色々艶をするところを述べた本歌曲を授けて興味ある情景を展開して快活な気分を浸らせると共にヘ調四分の二拍子の視唱に習熟せしむ。
	漁船	#	2/4	J=76	1分16秒弱	勇壯なる漁船の様子を表現した本歌曲を授けてその壯快さを味得させあはせて、リズムカルな類似旋律の多いヘ調四分の四拍子の唱謠に習熟せしむ。
11	村の鍛冶屋	b	2/4	J=84	1分31秒弱	勤勉素朴な鍛冶屋の働く様子を表現した本歌曲を授けて労働の尊さと喜びを感じさせると共に十六分音符の多く含まれたヘ調四分の二拍子の視唱に習熟させる。
	霜	b	4/4	J=96	1分	霜の詩的情趣を表現した本歌曲を授けて優雅な情を養ふと共にヘ調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
12						

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>中佐の忠勇を偲ばせて忠君愛國の情を養ふ。</li> <li>歌詞は讀本で習つてゐるから可成り省畧して直にうたはしてよい。</li> <li>第一、二、三段のブレスが不規則になり易い。</li> <li>第二段のフ、第三段の始めのシの音程を明確に。</li> <li>發想に氣をつける第三段の前半を弱く他はmf。・全体力強い感じを表現。</li> <li>歌ひ慣れてゐるために無頓着に歌ひ過ぎぬ様に。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>三連音符はあまり急がない様に又音符の長さが不平均にならぬ様に。</li> <li>長閑な快活な曲想を表現。</li> <li>ブレスの前の四分音符は餘り短くならぬ様に。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>擬聲の處は特に軽快に歌ふ。・一段二小節の八分休止符をハッキリ表現してその前の八分音符を短く切る。・二、三段の二小節にある四分音符は力を入れない様に十分テヌートする。・三段三小節の「ミラソミ」の旋律が二小節の「レラソー」の旋律にひきつけられて曖昧になり易い。</li> <li>全体として軽快に可愛らしく歌ふことが肝要。</li> </ul>	♩ = 特に強く
<ul style="list-style-type: none"> <li>一段の終りの小節「レミミレ」が「レレミレ」となり二段の終りの小節「レレレド」が「レレミド」となり易い(類似旋律を十分明らかに)</li> <li>掛け聲の個所に力を入れ易く亂暴に歌ふ癖がつき易いから下品にきこえぬ様に。・曲は元氣よく速度は正しく守つて明快に。・三段目は拍子が混亂し易い。・附點八分音符に少しアクセントをつけてリズムを鮮明に。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>同形旋律と類似旋律とをよく觀察させて明確にうたふ。異なる所を指摘して自發的に唱謠せしむ。・十六分音符の並列してゐる個所は拍子が曖昧にならない様に。・全体をハキハキと快活に歌はせる。</li> <li>三段の始めのシの音程を明確に。・明るく快活な曲想を表現する。</li> <li>ブレスが無いから二小節毎につけない、速さが早くなり易いから注意する。</li> </ul>	♩ = この音を成るべく早く奏す ♩♩♩ = ベタルをふんではなす
<ul style="list-style-type: none"> <li>第一節「笹の葉の白きは霜の光にてまだ夜は深し岡の邊の道」熊谷直好(岡霜)・第二節「有明の消えにし影を松の葉にしばし残せる霜の色かな」加藤千鶴(朝霜)・優雅の情を表現する様に。・一段、三段の二小節「ドレミ」のミの音程があがり易い。・短かいが同形類似の旋律が多い。</li> <li>拍子について變格小節なることの理解。・フに起る旋律は音程を明確に。・二分音符が比較的多く使はれてゐるから之を正しく。</li> <li>發想の指導をなすによい教材である二段の後半に頂點を置いて。</li> </ul>	dim = だんだん弱く V = Vブレス loco = その場所を奏す ⊖ = ポーズ(時間を延ばす) sua..... = オクターブ高く奏す



月	基本指導	鑑賞
9	<p>○音階練習(ト調) 聴音練習をやりながら歌はせる。 音階譜の視唱をさせて確否を調べる。</p>  <p>□音階譜の視唱による音程練習(ト調ソラ)</p>  <p>◇聴音書取練習(ト調ドーラ)</p>	<p>郭公(ピアノ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想発表</li> <li>・どうして「郭公」といふ</li> <li>・こんな旋律が何度あらは</li> </ul> 
10	<p>各練習は今迄のものを練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●リズム指導</li> </ul> <p>♪ ターン ♪ ター ♪ タン ♪ タの復習 教師の旋律唱読を音符にて書かせる。</p> <p>(教) ターン タン タン 兒童 </p> <p>♪ ター タ タン ♪ </p> <p>♪ タン タン タン タタ ♪ </p>	<p>金魚(ピアノ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律鑑賞</li> <li>・ピアノの表現美</li> <li>・管弦楽との比較(墨繪と</li> </ul>
11	<p>◇聴音書取練習(ヘ調ソラ) リズムをつける。 ピアノを弾く時拍子をとりながら聴音し</p> <p>(イ) 旋律を歌つてみる。 (ロ) リズムをつけて書取る。 相当困難であるから無理をしない。</p> 	<p>玩具の交響楽(二年)(三年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管弦楽について(楽器配</li> <li>・作曲者ハイドンが作曲ま</li> <li>・旋律鑑賞(主題を唱読さ</li> </ul>  
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書寫作業</li> </ul> <p>假名符を本譜になほす、印刷にて與へて書寫力をつける。</p> <p>♪ ♪ ♫ 各調子にわたつて</p> <p>③ レ ド ミ</p> <p>ヘ調ドレミファ   ソラソミド   ④ドレ   ミソミド   </p>  <p>又階名聴書として教師が階名を呼び兒童が早く正しく五線に記入する練習を毎月加へる。</p>	

指導	器樂指導
<p>名がついたのでせう。 れるかよく聞いて下さい。</p>	<p>タンバリン </p> <p>トライアングル </p> <p>カスタネット </p> <p>シンバル </p> <p>輪鈴 </p> <p>(軽くふる)</p> <p>シロフォン </p> <p>(ハーモニカ) </p>
<p>油繪のたとへで)</p>	<p>タンバリン </p> <p>トライアングル </p> <p>カスタネット </p> <p>シンバル </p> <p>輪鈴 </p> <p>シロフォン </p> <p>(ハーモニカ) </p>
<p>置掛圖利用)での話せる)</p>  	<p>タンバリン </p> <p>トライアングル </p> <p>カスタネット </p> <p>シンバル </p> <p>輪鈴 </p> <p>シロフォン </p> <p>(ハーモニカ) </p>
	<p>タンバリン </p> <p>トライアングル </p> <p>カスタネット </p> <p>シンバル </p> <p>輪鈴 </p> <p>シロフォン </p> <p>(ハーモニカ) </p>


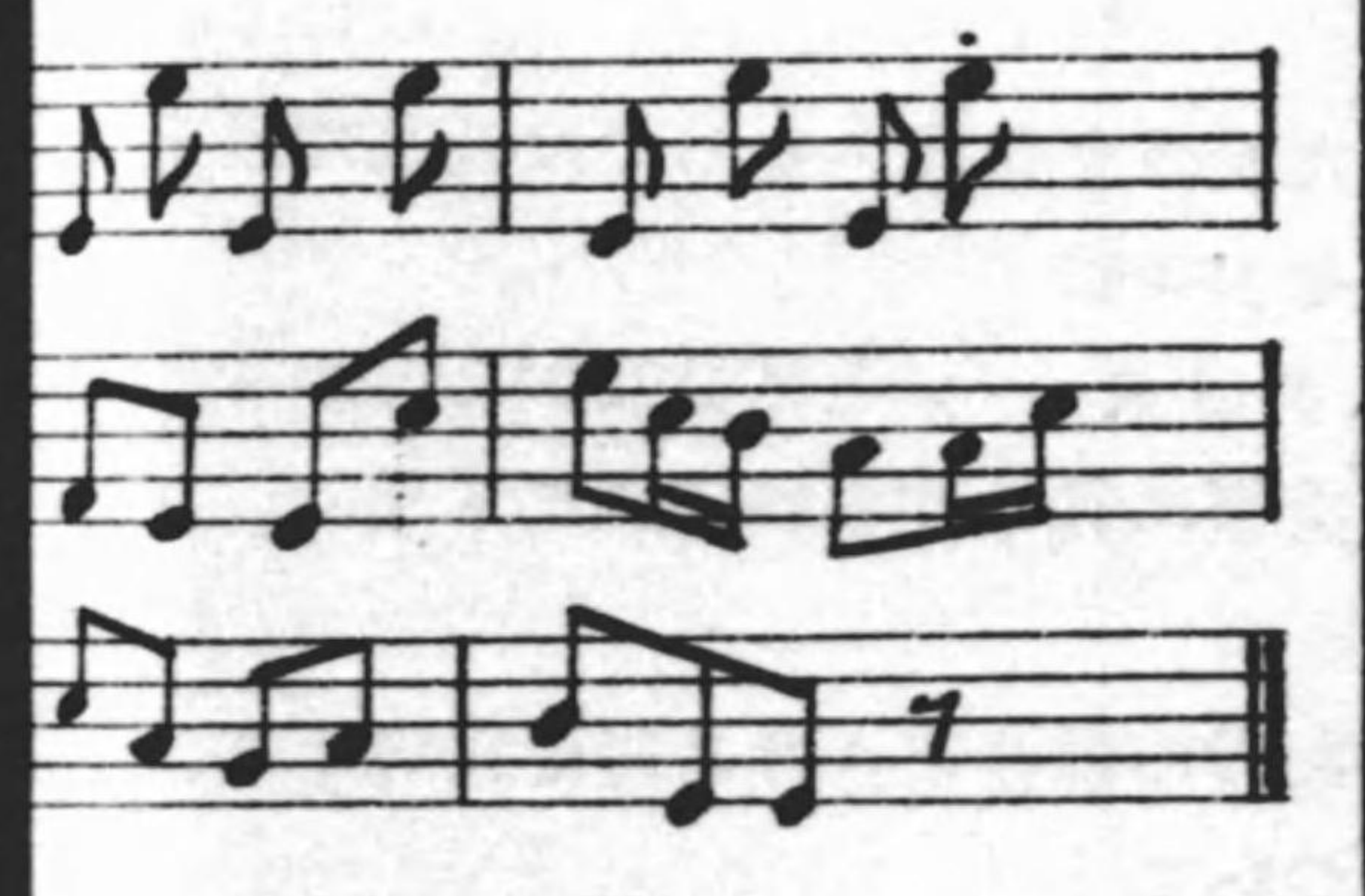
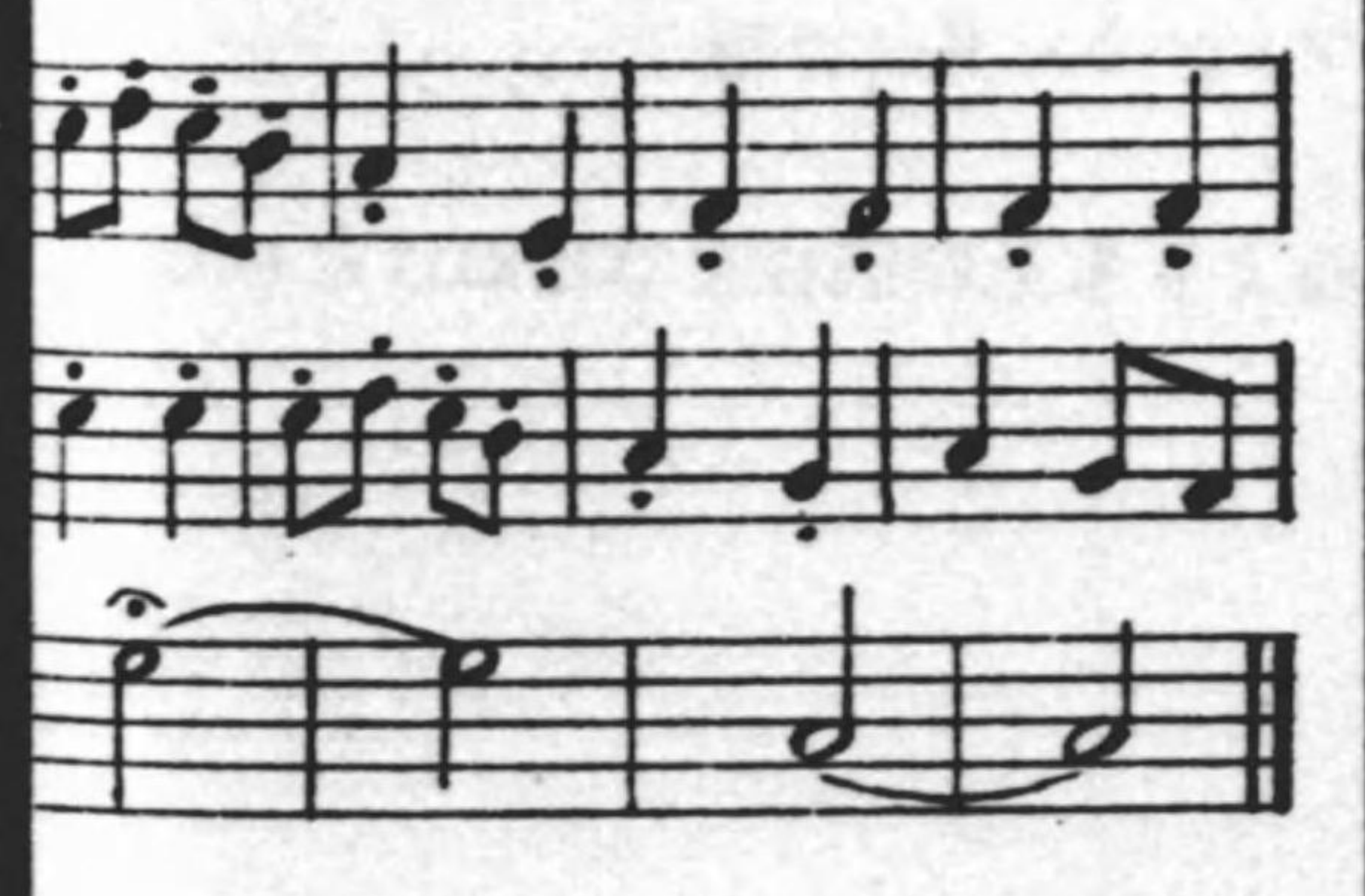


月	唱詠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
1	餅つき		2/4		J=100 48秒	楽しくて忙しそうな餅つきの様子を表現した本歌曲を授けてその楽しさな情景を展開して快活な情を養ふとともにハ調四分の二拍子の視唱に習熟せしむ。
	雪合戦		2/4		J=76 1分16秒弱	壮快なる雪合戦の情景を表現した本歌曲を授けて勇壯活潑な氣性を養ふと共にリズム構造複雑なハ調四分の二拍子の視唱に習熟させる。
3	橘中佐		4/4		J=104 1分51秒弱	橘中佐の悲壯なる最後を表現した本歌曲を授けて愛國の至情を養ふと共にイ短調の唱詠に習熟させる。
	新訂尋常小學唱歌第四學年用	調子 ♭7 #0 #4 bb1 ハ5 イ#1	拍子 3/4 13 4/4 11 9/8 1 4/8 2	音域 	音程 (新出のもののみ) 短二度 ソ↔フ 完全四度 ミ↔シ 完全五度 ミ→ラ シ→ミ 完全八度 レ↔レ	

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>四段二小節の十六分音符の次のブレスが可成りむづかしいから注意を要す。二段二小節にある休止符の上の停止記號は前の八分音符を延ばさない様に注意する。一段の終り「サヤ」は餘り力が入ると下品になるから注意。ハキハキと快活に歌ふ。「べつたんこ」の「こ」は延ばし過ぎぬ様に。最後はハ調の主和音の三度で終つてゐる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>第一段、第二段の第二小節にある十六分音符の四つないだところは音がすべつて拍子が曖昧になり易いから各音を丁寧に歌ふこと。第一、二段三小節にあるシンコペーションの形式の所は始めよく拍子をとらせて音符の關係を理解せしむ。第二段第三節の「ミソレ」が「ミソド」に近い様な曖昧な音程になり易い。旋律が比較的に高音に起つてゐるから發音に注意して軽く歌え。</li> <li>歌詞第三小節第一句の「げきせん」のせんは正しく♪♪に第三句「らつばと」は(ら-つばと)延して歌ふ、又第四句の上の「一度にどつと」もどを延して「ど-つと-」と歌ふ。全体をハキハキと輕快に齒切れよく。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>イ短調ではあるがハ調として視唱させて曲想の相違を發見させる。</li> <li>第二段第三小節の「スィレドスィ」の旋律が「スィミドスィ」となり易いから注意。各段終りの附點二分音符は十分テヌートして歌ふ。</li> <li>全体として落着きのある悲壯なる曲想を表現する。</li> <li>尋常小學讀本(黒表紙)の橘中佐の處を讀むか説話するとよい。</li> </ul>	poco rit = ポーコ リターダンド(少しゆるくする)
<p>新出リズム</p>	



月	基本指導	鑑賞
1	<p>○音階練習 リズム掛圖の視唱による。 初めは簡單のものを上下行するに十五音をならべる。</p>  <p>次第に變化して複雑なものにする。</p>	<p>ロング、ロング、アゴー變奏曲 • 旋律鑑賞 • テーマ視唱 • 主題がどんなにして繰返されてゐるか。 • 變奏曲について • 木琴演奏指導と連絡</p> 
2	<p>□補充教材の視唱による音程練習 時間の初めに一、二曲づつ歌曲掛圖により行ふ。 ○音階練習、一月のものゝ發展。</p>	<p>ブルー、ダニープ、ワルツ • 旋律鑑賞 • 何拍子ですか • ワルツについて</p>
3	<p>□音階譜の視唱による音程練習 長旋法的音程練習より短旋法的音程練習へ導く。</p> 	<p>森の鍛冶屋 (二年、三年) • 旋律唱誦を主とする</p> 
	<p>本學年指導 鑑賞教材 (指導點を示したるもののみ) 小川のほとりにて (C735A) 玩具の交響樂 (二、三年) 蜜蜂 (V22619) 森の鍛冶屋 (二、三年) トロメライ (P1024) 朝の氣分 (V316) 郭公 金魚 (C523) ロング、ロングアゴー變奏曲 (P10234) ウィリアム、テル序曲 (C1721-1722) ブルー、ダニープ、ワルツ (P40208)</p>	

指導	器樂指導
<p>(木琴)</p> <p>されてゐるか。</p> 	<p>□合奏指揮について 指揮法は基本指導に於て拍節法を練習してゐるから兒童を交互に出して指揮をさせる。 (イ) 小數の時は右手だけを川ふる、指揮棒はなくともよい。 (ロ) 腕を柔く振り拍子を明瞭にする。 (ハ) 強く奏する時は極めて大きく振り次第に弱くなる時は小さく手先だけで指揮する。 (ニ) 曲の氣分によつて腕の振り方を考へる。靜かな曲は極めてゆるやかに、輕快な曲は浮き立つ様に軽く指揮する。 (ホ) 初めは基本形式 (基本指導の項参照) によるが次第にそのうつり變る處をやはらかにする。</p>
	
	



指導方針

- (イ) 本學年は視唱法により困難なる教材は聽唱法を加味する。
- (ロ) 視唱能力の調査  
 學級兒童の視唱力の大体について短い歌曲を唱讀させて個人的に調査する。  
 全体として可成り視唱出來たといつてもそれは個人の能力はそこまで及ばないのである。  
 兒童相互に補つて歌はれてゐるのであるから全体の力が個人の力とならない。  
 音階譜の視唱による音程練習等にも個人的に練習させる事を多く加へたい。

指導法

- (イ) 發想の指導  
 歌曲の情調を表現する様に自發的に工夫させるその反省し判断した事を發表させて相互に吟味する態度を養ふ。歌ふことから味ひつゝ歌ひ指導。  
 發想をつけたことによつて歌曲の美しさを味はせる
- (ロ) 自發的學習活動の態度を次第に養成するその方法として
  - (1) 新教材の豫習
  - (2) 寫譜作業 既習歌曲はすべて五線に書取らせる。  
 「新訂唱歌」を持つてゐると寫譜がおろそかになり易い、忘備のための寫譜でなく寫譜自身意義ある事を諒解せしめる。
  - (3) 音階練習にリズムを印刷して與へて自習させる。  
 等について  
 結果については時々檢閲して獎勵する。

(ハ) 短旋法歌曲の取扱

短旋法の歌曲を範唱し長旋法による曲を歌はせて曲想の違ひを發見させる。  
 短旋法 さびしい、かなしい  
 長旋法 うれしい、たのしい  
 又曲の始め終りの音が違ふといふ事も發見させ短音階で出來てゐる事を簡単に話しする。

旋律創作指導

初步作曲指導と云つてもよいと思ふが教師の輔導によつて旋律を創作させるのである指導は四年頃より初める。

- (1) 二小節位を模唱して後の二小節を兒童各自に考へさせる。  
 ことに注意すべきは相當音程感が確立してゐないと効が無い。
- (2) 樂譜板を利用して短い旋律を書寫させながら兒童に暗示を與へる。
- (3) 創作した旋律を書寫させるには音高だけを記入させリズムは  
 ♪タン♪タ♪ターンと歌ひながら書かせる  
 數多く次第に長く作られる様にする。
- (4) 不自然な音の動きをさける様に指導する、實際について  
 例へば  
 ♯→フ→シ→レ♯→ラ等
- (5) 出來た曲よりもその過程を尋ねねばならない。

教授案の形式

尋常科 第〇學年〇組唱歌科教授案

- 1. 教材 〇〇 (新訂尋常小學唱歌第〇年用)  
 (教材を記入)
- 2. 教材歌  
 イ、歌詞について  
 ロ、樂曲について  
 ハ、歌曲と兒童との考案  
 ニ、指導經過  
 (1) 基本指導  
 (2) 唱謠指導  
 (3) 其他の指導
- 3. 目的
- 4. 配當 〇時間  
 第一時 (教授事項)  
 第二時 ( / )
- 5. 準備
- 6. 方法  
 第一時 ( 月 日於唱歌室)  
 主眼 (主に第一時の教授事項の主眼)  
 過程  
 イ、  
 ロ、  
 ハ、  
 ニ、  
 ホ、  
 (註 第二時以下同様)



基本指導

(イ) 唱誦指導に述べた如く

積極的な学習に堪える様になつたから形式的、分解的な指導も加へる。

(ロ) 拍子練習

今までリズムも大体の歌ふ氣持によつて長短をつけてゐたが本學年より拍數を確實に指導する。



(ハ) 音階練習

(イ) リズムの變化による音階練習を多くする。

(ロ) 單一な上、下行のみでなく組合せたものを指導する。

(ニ) 發聲について

變聲期前の發聲器管の發育した時であるから或程度の聲量の訓練をなす。

この指導の一として

唱誦指導の際第一歌詞と第二歌詞を同時に歌はせ口形の變化と共鳴による聲がはつきり聞えて來る事を指導する。

(ホ) 重音指導

(1) 價値

- 兒童の音程の確立
- 旋律美の構成
- 和聲の調和美

(2) 開始期

- 兒童に相等、旋律感や音程の確立が出來た頃をみる
- 零四の後期、或は零五の初期から指導を初めてよい

(3) 指導過程

- 齊唱指導 (一、二、三年)

この際に歌詞一節と二節、或は階名と歌詞を同時に歌はせて自分が歌ひながら他を聞く習慣や弱く歌つても歌詞が明瞭に聞える様に指導する。

- 輪唱指導 (四年頃)

簡単な輪唱を加へる、例へば「Hの丸の旗」「ひよこ」「人形」等や歌詞をつけず階名のみにて次の曲等を輪唱させる。



• 重音練習

音階譜を二本のバトンで指しながら練習を初める。

(1) 初歩指導として一部はドドドド……とつとけ

他部が同一拍子にてドミソミソミドミソソミレド

(2) 次に一部ミドミド | ミソソ | ファレレ | ミドド

二部 ミミミ | ミミミ | レレレ | ミドド

(3) バトンを指した處を兩部に分れて自由に歌はれる様にする様にする

各部分は必ず交替する。

(4) 基本練習の際に

重音音階練習曲 の視唱にまで導く  
重音音程練習曲

• 合唱曲の視唱にまで

(5) 練習曲は教師に於て細案をたてること。

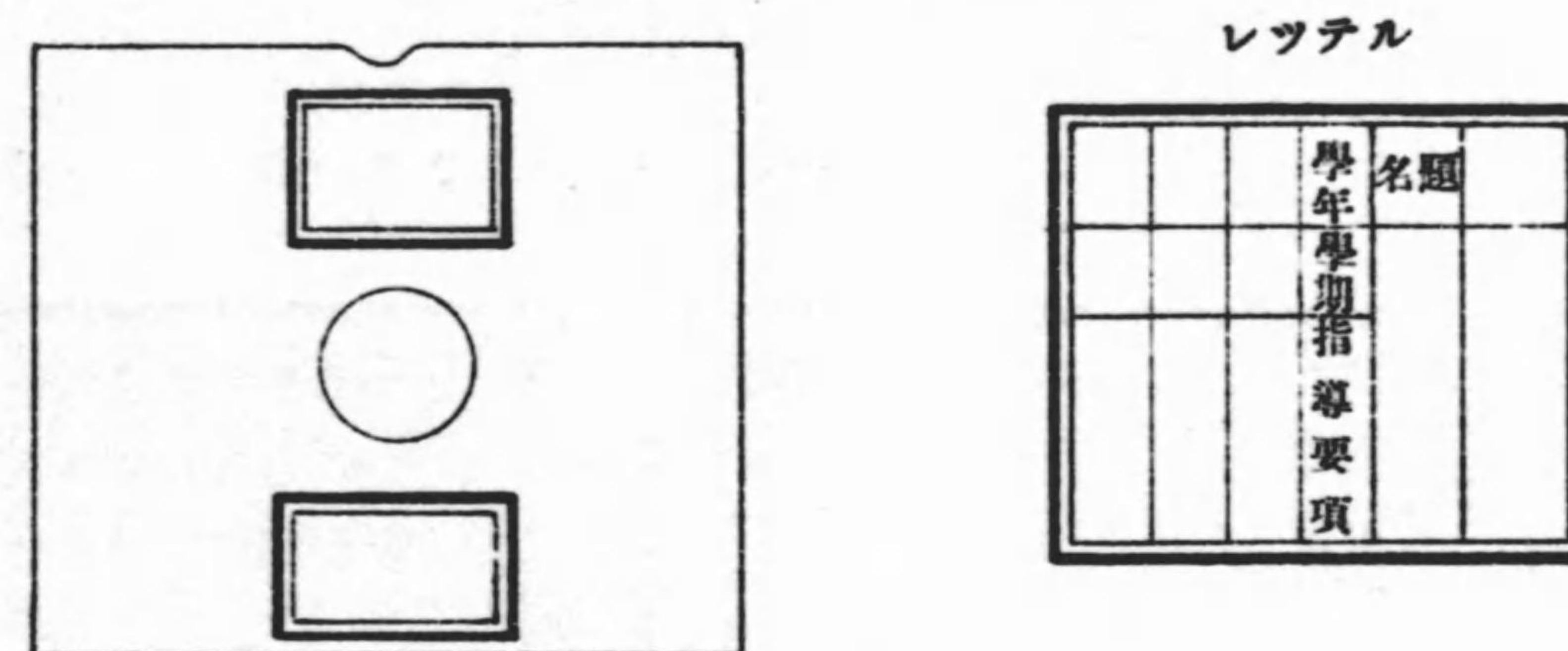
鑑賞指導

(イ) レコードの整理法

茶ボールの袋を作つて一枚毎に入れ圖の如く指導要項を記入出来るレッテルを貼付するとよい。

種目は色別けにしてレコード面にも色別けの紙と番號をはり整理は兒童が出来る様にする。

レコード棚も各段のレコード名が一目瞭然ならしめると都合がよい。



(ロ) 第五學年指導法

- 前學年の指導要項の他に
- 管弦樂器の音色鑑賞と樂器の説明
- 子守唄の話
- 機會ある毎に今まで鑑賞レコードを聴かせる

器樂指導

- (1) 歌のリズムに合せる
- (2) 主旋律に合奏 (ピアノ等)
- (3) レコードに合せる
- (4) 各部分の基本練習を加へる
- (5) 旋律樂器の指導 (ハーモニカ、明笛、銀笛、シロフォン、ピアノ)
- (6) 樂譜による合奏



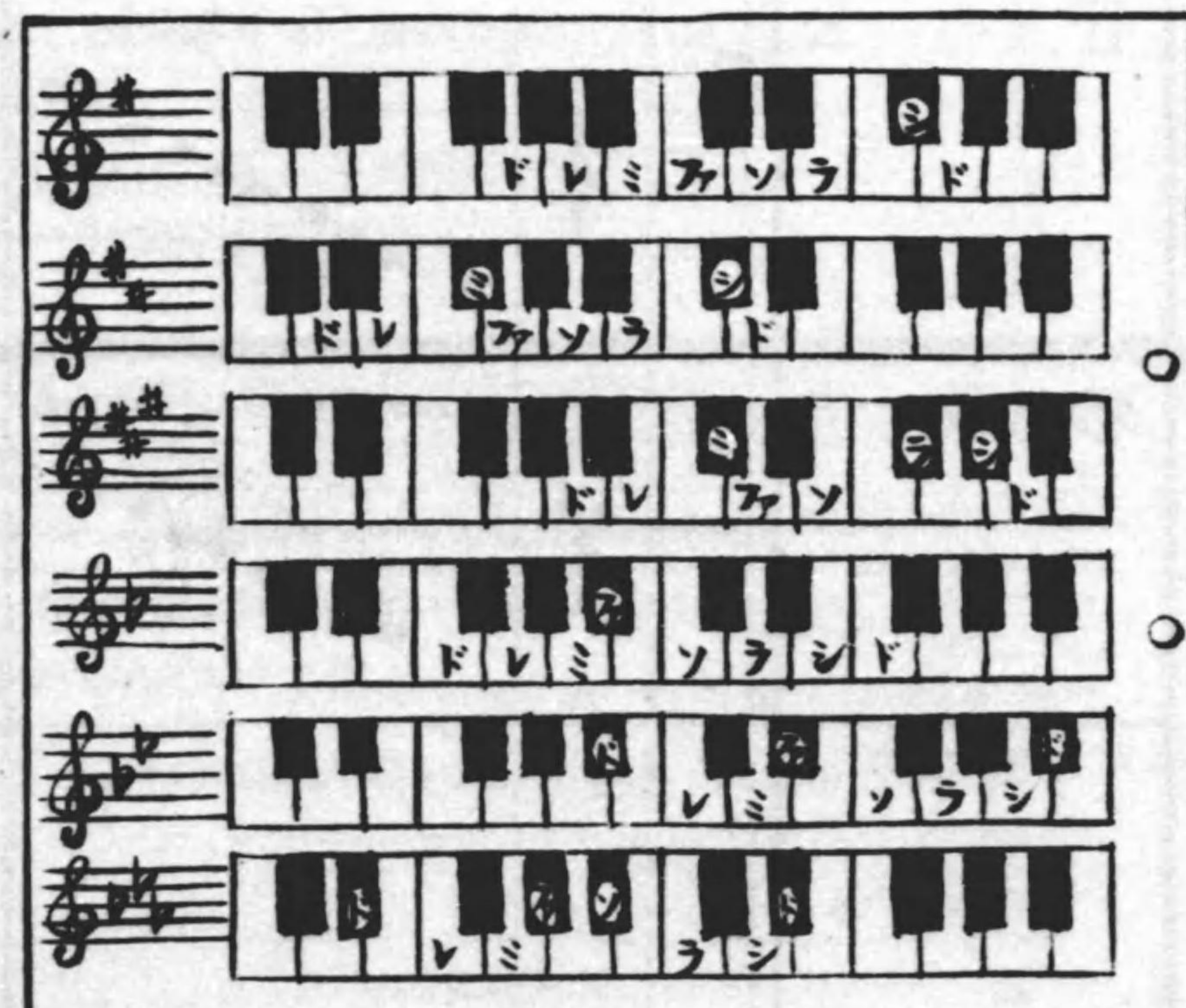


月	唱誦教材	調子	拍子	音域	速度	目的
4	金剛石 水は器		4/4		♩ = 92 2分47秒	昭憲皇太后の御詠の御心を体得し優美典雅な情を養ふ。
	(女) 舞へや歌へや		4/4		♩ = 92 2分16秒	春の野に舞ふ小鳥や胡蝶の軽快な様子を表現した本歌曲を授けて快活優美な気分浸らせると共に比較的リズム形式の複雑なへ調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
5	鯉のぼり		4/4		♩ = 96 2分	大空に躍る鯉のぼりの勇姿を表現した本歌曲を授けて勇壯活潑な気分導くと共にへ調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
	(男) 朝日は登りぬ	##	2/4		♩ = 69 1分29秒	海邊、山街の朝を表現した本歌曲を授けて爽快明朗な気分にすると共にイ調四分の二拍子の視唱に習熟させる。
6	(女) 朝の歌	##			♩ = 108 2分	黎明の莊嚴、明快、優美な様子を表現した本歌曲を授けてその情景にひたせると共にホ調の視唱に習熟させる。
	水師營の會見		4/4		♩ = 120 4分48秒	兩將軍の會見の様子を表現した本歌曲を授けて感激の場面と温い情誼を味はせると共にト調短音階の唱誦に習熟させる。
7	海		3/4		♩ = 84 1分34秒	海の情景を讚美した本歌曲を授けて美的境地に浸らせ高雅の情を養ふと共にへ調四分の三拍子の視唱に習熟させる。

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律全体に雅楽旋律法のうごきが見え日本の感じを多分に持つ曲である。</li> <li>曲譜は簡単に取扱ひ直ちに歌詞に入つて静かに反復して歌ひ其雅麗な曲想を味はせる。</li> <li>四段の「ドドレラーツツ」の最後のツがミに下り易い。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>類似同形旋律を充分吟味して取扱ひ視唱を徹底させる。</li> <li>第三段の終りにある停止記號はその前を少しリターゲンドにして落ちつける</li> <li>音の速く動いてゐるから口形の變化に充分注意してあくまで軽快に歌はせる</li> <li>超越進行に注意。</li> </ul>	cresc = 〇 = 延長記號
<ul style="list-style-type: none"> <li>♩、♪のリズムを鮮明に歌詞もていねいに。</li> <li>♪の八分音符は短くなり易い。</li> <li>一、二段の附點八分音符は不明瞭になり易いから少しアクセントをつけて歌ふ。</li> <li>全体が明るくハキハキと歌ふことが肝要。</li> <li>♪の並列の處は平に歌ふこと。</li> </ul>	<b>p</b> = 特に強く
<ul style="list-style-type: none"> <li>各段始めの八分音符が曖昧になり易い、又弱起旋律のアクセントのつけ方に注意する。</li> <li>♩、♪との ♩ 個所を區別して取扱ひをして各小節の始の音に少しく強くアクセントを與へて鮮明にリズム形式を表現する。・速度は=69より少し速めに。・同形類似旋律の理解。</li> <li>各段のリズム形式の同一な事を概観させる。</li> <li>超越進行としては一段四段ソミの長六度、二段のソレの完全五度の音程に留意する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>終りから二小節目及び八小節目のこの音は音率が下り易い。・壯嚴にして明朗然も華麗なる黎明に對し希望を以て高らかに之を讚ふ。・ブレスに注意第一節より第二節にうつる際伴奏の左手のドソドを強く弾く(：高いドで終り低いソ即ち十一度の隔りがある。)。・轉調の個所は少しリターゲンドの氣持で丁寧なうたふ。(音が下るから)・星影、朝日の影は姿の意である。・全体をハキハキと明るく。</li> <li>高音進行の所はブレスをよく守る。・♪はレガートに歌ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>始めは長法的な音程を練習するが漸次之を導いて短法的な音程進行の練習をしてこの教材の音程に入る。・二段三小節の終りのドがスィになり易い</li> <li>十分に歌へる様になつたなら他の曲と比較して歌はせ音の動きからくる曲の感じの違いを發見させる。・曲に對して各節の歌詞の附け方に注意。</li> <li>温雅な曲想を發見。・速さは歩行に合せる様に歌ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各小節の始めの ♩ ♩ が ♩ ♩ となり易い。・三拍子の拍子訓練をなす。</li> <li>第一段の二小節を四小節の四分休止符の前にある四分音符が長めになり易いから美しく切る様に歌ふ。・第三段三小節のラと五段二小節のソは超越進行で上行するため力を入れる舞があるから乗かく發音する。・全体を明るく快活な曲想で歌はせること。・二段二小節のスィの音が低下し易い。</li> </ul>	

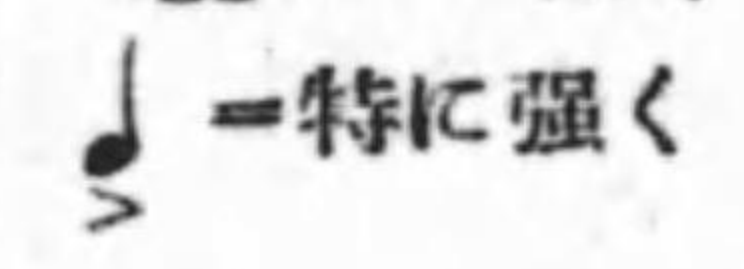




月	基本指導	鑑賞
4	<p>○音階練習(リズム掛圖視唱音階練習)各調子にて (例) </p> <p>教材中のリズムを取り出してもよい</p> <p>□音階譜の視唱重音練習(ハ調ソラ)  <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の歌ふ音程を確實に歌ふ。</li> <li>兩部を交代する。</li> <li>競争して歌ふ氣持を無くする。</li> <li>簡単な曲を完全四度、長三度、完全一度を組合せて兩部はパトンと萬年筆、或は指と萬年筆にて示す。</li> </ul> </p>	<p>春の歌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旋律鑑賞</li> <li>春の歌について感想發表</li> <li>内容の解説</li> <li>主題唱論</li> <li>無言歌について</li> <li>メンデルス、ゾーンの話</li> </ul> 
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間二、三回續けて能率的に (例) </li> </ul> <p>◇聽音書取練習(ハ調ソラ) 既習曲を四節乃至六節をリズムをつけて書取させる容易な曲を選び繰返す。</p>	<p>デザート、キャラバン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感想發表</li> <li>沙漠の隊商について説 沙漠の様子、隊商の様子</li> <li>主題の唱論(視唱或は る)何回位出るか、ど</li> </ul> 
6	<p>●輪唱練習 既習曲例へば「日の丸の旗」「紅葉」について二小節おれた兩部で行ふ。 初めは他の歌ふのを聞かなく一組だけと考へて歌はせる組を幾つかに分けて聞いてゐる児童を作り歌ひ方について吟味批評させる</p>	<p>ウィリアム、テル序曲(黎明の氣分(四年))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝の氣分と黎明との旋律比較(氣分の變化)</li> <li>各部の旋律美の比較</li> <li>朝の氣分の主題の唱論</li> </ul> 
7	<p>○音階練習(ト調短音階を聽唱にて) </p> <p>□音階譜視唱音程練習(變ハ調ミーフ) 基音だけを與へ何處を指しても歌へる様に練習する。 </p> <p>◇聽音書取練習(變ハ調にて書取る) 既習曲の一部</p>	

指導	器樂指導
	<p>□ピアノの指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ピアノの鍵盤圖を與へて初歩指導をなす。</li> <li>専門的な指導でなく單音で主旋律を弾く程度を目標にしてゐる。</li> <li>ハ調の曲又は此の調子に移調したものを弾ぶ。</li> <li>放課後或は課外に樂器を解放する。</li> </ol> <p>ピアノ鍵盤圖 (表)</p> 
<p>話する 子、人々の心持 旋律唱論で大体歌へる様にすんなりに變化して行くか</p> 	<p>(裏)</p> 
<p>黎明(四年)</p> <p>律比較(氣分の變化)</p> 	<p>(裏)</p> 

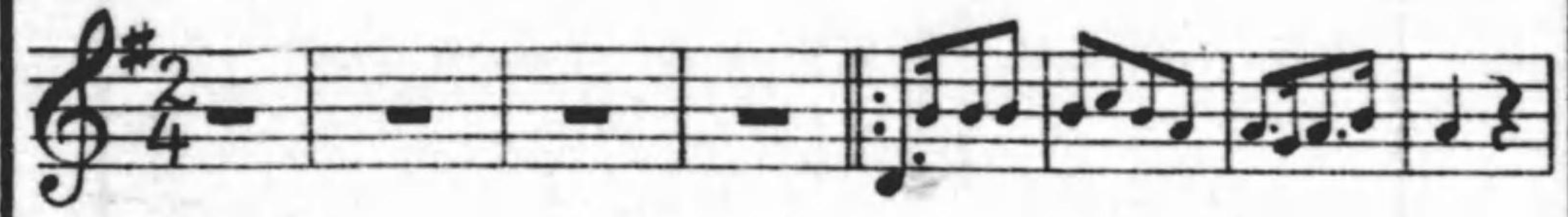



月	唱詠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
9	山に登りて	#	2/4	J=100	38秒強	山頂の爽快さと静寂とを表現した本歌曲を授けて快活な気分を浸らせると共に=調四分の二拍子の視唱に習熟させる。
	秋の山	#	2/4	J=58	1分40秒強	秋の山の紅葉に彩どられた情景を表現した本歌曲を授けて自然美にひたらせ=調四分の二拍子の視唱に習熟させる。
10	日光山	b	4/4	J=96	2分	日光山の華麗を表現した本歌曲を授けて美景に浸らせ優美の情を養ふと共に=調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
	(女) 風鈴	#	4/4	J=96	1分30秒	風鈴の詩的情趣を表現した本歌曲を授けて軽快優美の情を養ふと共に=調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
11	いてふ	b	4/4	J=120	1分20秒	いてふの壯麗を表現した本歌曲を授けて雄大壯麗の気分を浸らせると共に=調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
	管公	#	4/4	J=80	2分24秒	管公の崇高な面影を表現した本歌曲を授けて其人格を欽仰させると共に*調短音階四分の四拍子の視唱に習熟させる。
12	冬景色	#	3/4	J=100	1分26秒強	冬の静寂な自然美を表現した本歌曲を授けてその詩的情味を味はると共に=調四分の三拍子の視唱に習熟させる。

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>長旋律ではあるが稍俗樂陽旋法に近い感がある。・始めは速度ユツクリ。</li> <li>二段終りの「ラソミレスィ」の進行は歌ひ馴れないから注意して行ふ。</li> <li>全体を明るく朗らかに。・八分音符の連続は小節の初めにアクセントをつけないと活気を失ひ易い。</li> </ul>	<p>leggiero = 軽く</p> <p> = 特に強く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>速度はやゝ速めに歌ふ。・二小節毎にブレスをしたがるから正しく四小節を守る。・發想記號が細かに示してあり一、二節歌ひ分ける。</li> <li>三段ミードミードの音程正しく。</li> <li>四段からは曲想は稍輕快となる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>一段四小節のレはドになり易い。・可成り同形旋律、類似旋律が多いから之をよく自覺して視唱する様に。・第三段二、三小節を中心に全曲の頂點があるから之を了解させて發想をつける。</li> <li>快活な曲想を表現する。</li> <li>各段の終りの四分休止符の前にある四分音符は附點四分音符にならぬ様に。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふうりん」♪♪♪ はと歌はせる。・「ちりんりん」は「チリーンリーン」と歌つた方がきれいに聞える。・爽快な氣持。・視唱の徹底的取扱ひによつて弱強起の旋律の區別をはつきりさせる。・附點二分音符と二分音符の時價を正しく保つて歌はせる。・四段一小節の四分休止符を正しく表現する。</li> <li>「風鈴の音」「打水のあと」の「の」に特別アクセントが入り易い。</li> </ul>	<p>Con Ped =</p> <p>ペダルをもつて</p>  <p>( )は音符が上下重なつてゐる處。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>曲が壯麗なるに速度が速いから軽くならぬ様に。・王者はワウジャ、金色はコンジキと發音。・ブレスの前にある二分音符は充分テヌートする。</li> <li>一言一音の時間を確實に保つて音勢をつけて歌ふ。</li> <li>五段の三小節にある四度下降五度上昇する間のレの音程を不確實に。</li> <li>明るく力強い曲想を表現する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ト調の視唱に習熟させ短音階の唱詠になれさせる。・第三段の最律の音が急に超越して上行するため強くなり易いから柔かく發音。</li> <li>全体をなだらかに優しく歌はせ言葉を特に明瞭に。・拍子がだれて重苦しくならぬ様に。・三段三小節の「ミラソファ」は音程が狂ひ易い。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>第一、二、四段のリズム形式が同じ。・第一段第二段前半の旋律の進行が同じく並行してゐる。・第二、四段の後半が同形旋律。</li> <li>第一段三小節の「レミレスィ」が「レミドレ」となり易い。・第二段一小節「ソスィレ」が「ソドレ」と。・第三段の第一小節と第二小節との間はブレスせず滑らかにうつる。・比較的落着いてノンビリと歌ふ。</li> </ul>	<p>dim = &gt;</p>  <p>奏法</p>



月	基本指導	鑑賞
9	<p>○音階譜の視唱音程練習 (=調)</p> <p>次の形式を一息にて繰返す、又極めてゆつくり歌ふ練習も加へる</p>  <p>□音階譜の視唱音程練習 (=調スライド)</p>  <p>階段式→散在式→五線</p>	<p>管弦樂の樂器</p> <p>弦樂器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音色鑑賞 (樂器の音色する)</li> <li>樂器掛圖及び管絃樂器</li> <li>説明よりも何回も聞か</li> </ul>
10	<p>□音階譜の視唱重音練習 (例)</p> <p>(イ)</p>  <p>(ロ)</p>  <p>◇聽音書及練習 (=調ドーフ)</p>	<p>管弦樂の樂器</p> <p>木管樂器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>弦樂器と同様</li> <li>音色に親しませるため、樂器の特長、表現</li> </ul>
11	<p>○音階練習 (ホ調短音階を聴唱にて)</p>  <p>□音階譜の視唱音程練習 (=、ヘ調ソーフ)</p> <p>◇聽音書取練習 (リズムAの變化を書取させる)</p> 	<p>管弦樂の樂器</p> <p>眞鍮樂器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>弦樂器と同様</li> </ul>
12	<p>○音階譜視唱音程練習 (三拍子にて)</p> <p>♪♪♪ カ♪♪ カ♪♪ の形式にて</p> <p>◇□各練習の徹底</p>	<p>管弦樂の樂器</p> <p>打樂器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>弦樂器と同様</li> </ul> <p>静けき夜、聖なる夜</p> <p>鐘とオルガンと眞鍮管樂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旋律鑑賞、感想發表</li> <li>内容解説 (クリスマス)</li> <li>コルネット、バス、バ</li> </ul>

指導	器樂指導
<p>を把握して何の樂器があてられる様に</p> <p>配置掛圖によつて理解させる</p> <p>せて親しませる様にする。</p>	<p>演奏曲「軍艦マーチ」</p> <p>(指導者が適當に總譜を作曲する)</p> <p>(軍艦マーチの鑑賞指導と連絡する)</p>          
<p>「ビクター」</p> <p>に「victarの子供の度の旋律」を聞かせる</p> <p>情感を味はせる。</p>	 
<p>器の四重奏</p> <p>の夜、教會の鐘、樂人たちの演奏)</p> <p>リトン、オルガンの音色鑑賞</p>	



月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
1	大塔宮	#	6/8		♩=104 2分46秒	大塔宮の多難なる御生涯を表現した本歌曲を授けてその御人格に感激させると共にホ調短音階八分の六拍子の視唱に習熟させる。
	(男) 進水式	b	4/4		♩=120 1分42秒	進水式の壯觀を表現した本歌曲を授けて勇壯活潑な氣持にすると共にリズム形式の複雑なヘ調四分の四拍子の唱謠に習熟させる。
2	(女) 三才女	#	4/4		♩=92 3分08秒	三人の才女を表現した本歌曲を授けてその詩的情趣を味得させ高雅優美の情を養ふと共にト長調、ト短調の混合した歌曲の唱謠に習熟させる。
	兒島高德	b	4/4		♩=80 2分24秒	兒島高德の誠忠を表現した本歌曲を授けてその精神に感激させると共にヘ短調四分の四拍子の唱謠に習熟させる。
3	新訂尋常小學唱歌第五學年用	調子	拍子	音域	音程 (新出のもののみ)	
		♭ 6 # 6 # 4 ♭ 4 ♭ 3 ♭ 2 ♭ 1 ♭ 2 ♭ 2 ♭ 1 ♭ 1	3/4 5 3/4 17 3/4 2 3/8 1		短二度 ラ←#ソ 長三度 スイ←ソ 完全五度 ミ←ラド←ファ 短六度 プ←ラ 短七度 プ←ソ 完全八度 ミ→ミ	

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム形式の一単位二小節の構造を体得させ之を應用して視唱させる。</li> <li>三段のリターグンドとアテンボの氣持を明確に表現させる。• 軽く流暢に歌はせること。• 音程困難で調子が狂ひ易いから力めて樂器に依頼して歌はしめる。• 延長記號の處は約二倍程延長し餘韻を残して次を徐ろに歌ひ終る、終尾は消えるが如く歌ふ。• 三段の「スイスイ」の音程を正しく。</li> </ul>	rit = だんだんゆるやかに atempo = もとの速さに ♯ = 延長記號 cresc =
<ul style="list-style-type: none"> <li>テンボが速いから、正確に時長の必要。• 音程として第三段の短七度音程及び四小節のソミの長三度音程に注意。• 高音進行が多いから發音に考慮しないと音率が低下する。• リズムの構造上の變化を十分吟味して視唱させる。</li> <li>三段の後半は十分クレシェンドをきかせる。• 四段二小節の八分休止符を明確に。• 附點二分音符及び二分音符との結合されたものを充分テヌートする</li> <li>勇壯潤達の曲想を表現しハキハキと歌ふ(旋律が自由に變化してゐる)</li> </ul>	(b)  奏法  奏法  奏法 
<ul style="list-style-type: none"> <li>短旋法の部分は其の前後と氣持をかへて少しゆつくりし流暢に歌ふ(和歌を朗誦する様な氣持で)</li> <li>六段三小節の終りのラの音程に注意。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>第五段第三小節に表はれるシンコペーションの形式のリズムを正しく拍子をとらせて歌はせる。• 低いラの音はなるべく軽く發音して重苦しくならぬ様に。• よく歌へる様になつたら既習曲と比べて短音階の曲なることと理解。</li> <li>短音階の曲はだれ易いから可成り拍子を嚴格に歌ひだれない様に。</li> <li>一段三小節の終りのファ、五段二小節の終りのミの音程に注意。• 六段一小節の二分音符は十分テヌート、六段三小節のリズムを正しく表現する。</li> <li>五段を中心に發想をつけ優美に歌ふ。</li> </ul>	
新出リズム (4/4) (3/4) (2/4) (3/8) (8/8)	



月	基本指導	鑑賞
1	<p>○音階練習 (ホ短調) 11月に説明                      □簡易音程練習曲の視唱 (ト調)                      音程練習曲よりも歌曲の中より選んだものが音の進行に無理なく旋律の美しさを味はれる。                      ◇聴音書取練習 (ト調の既習曲)</p>	<p>アヴェ・マリア                      ・聖母讃歌について                      ・旋律鑑賞                      ・歌詞の内容 (器楽曲で                      ・バツハのお話                      ・グノーのお話)</p>
2	<p>●輪唱練習「ひよこ」「人形」の曲を二小節ちがえて輪唱させる。                      □音階譜の視唱による重音練習                      「日の丸の旗」を二重唱させる。                      ・高音部の人数を少しく低音部を多くする。</p> 	<p>○子守唄の話                      ・ブラームス、ジョスラン、シューベルト、モーーツァルト等によるレコード或は旋律唱論                      ・日本の子守唄とも比較</p>
3	<p>○音階譜の視唱音階練習 (ハ短調)                        □音階譜の視唱音程練習 (變ホ調ソード)                        ◇聴音書取練習 (調ホ變ソード)</p>	
	<p>本學年基本指導上の反省事項及び進捗 (指導者記入)</p>	<p>本學年指導教材 (指導點を                      春の歌                      デザート、キャラバン                      管弦楽の楽器 (C13012-                      静けき夜、聖なる夜 (C9                      アヴェ・マリア (V7103)                      子守唄 ブラームス (C3                      シューベルト (C33305)                      ジョスラン (C33316)</p>

指導	器楽指導
<p>その詩情が味はれるか)</p>	
<p>ン、シューベルト、モーーツァルト等によつて親しませる。 鑑賞</p>	
<p>示したるもののみ)                      (V10002) ウィリアムテル (四年)                      朝の気分 (四年)                      13013)                      0504)                      3309)</p>	







**基本指導**

(イ) 本學年に於ては音程練習曲の視唱による音程練習を行ふ、その方法として

- (1) 稍系統的に音程練習曲を作曲し印刷して與へる。
- (2) 音程練習曲を歌曲掛圖として示す。
- (3) 教師の豫定したものを豫め板書して置く

(ロ) 三連音符及び變拍子の取扱

(1) 四分音符を一つうたふ間に八分音符を三つうたふのが三連音符です。



- 初めの音符にアクセントをつける。
- 一拍に正しく三つを歌はせる。

(2) 三連音符を含むものを拍子の上からは變拍子といふ。



(ハ) 音程練習曲について

- リズム形式も變化し、超越進行を加へた練習曲によつて練習するが、その曲は練習曲や名曲の一部又は聞き馴れた旋律を選んで興味的にする。
- 二重音階も加へて和聲の美と音程の確實性を養ひたい。



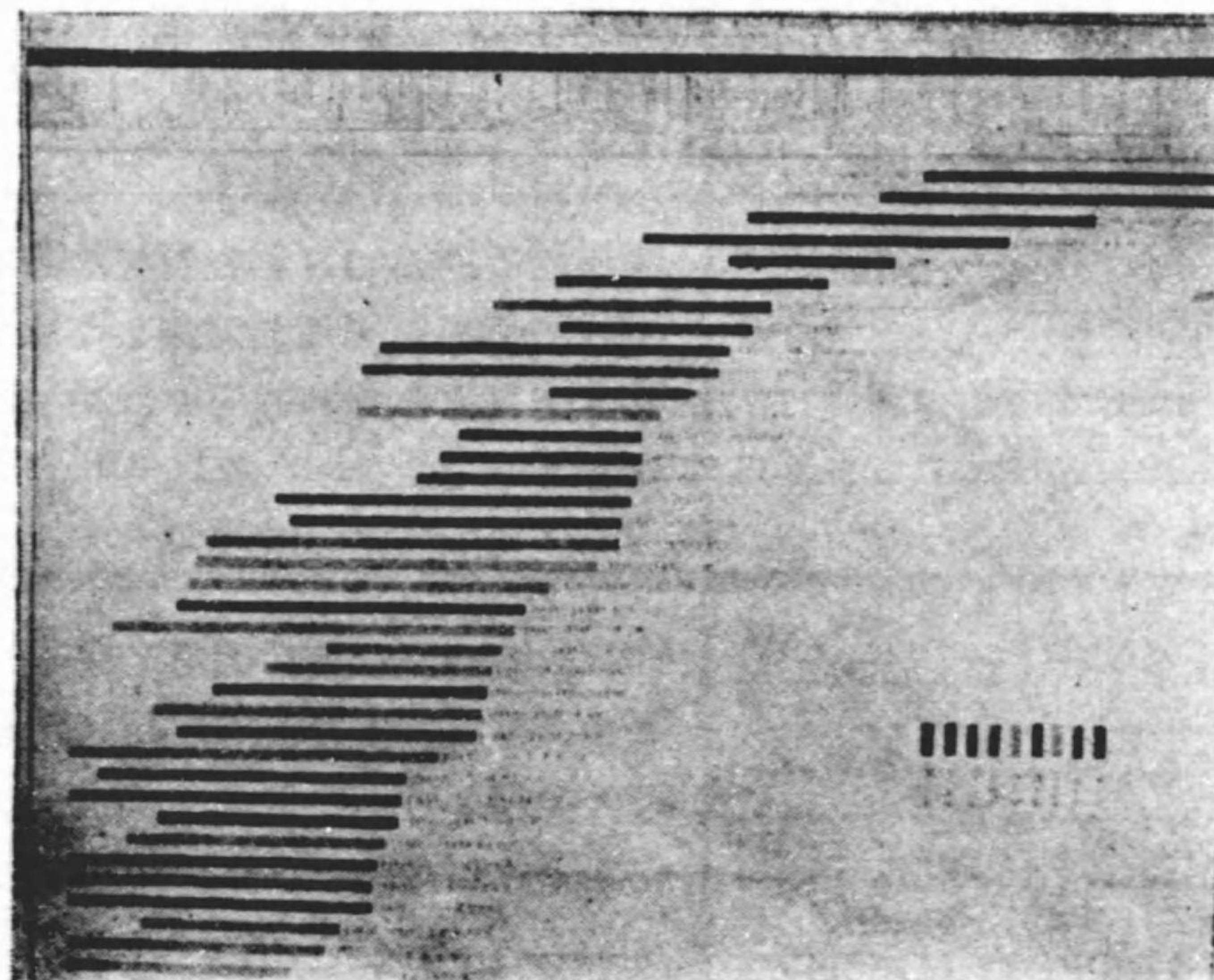
**鑑賞導指**

(4) 教鞭物作製

• 音楽年表

1. 著名音楽家を一覧しながらその人の生國や位置を明かにする。
2. 音楽家の生年月日、死亡月日、その時代を暗記して教へる必要を無くする。
3. 我國の歴史と連絡し漠然とした今から約何年前が明瞭になる。國史の史實は小學校に關係あるもののみを選ぶ。

4. 絶えず兒童の目に觸れ、親しませる。
5. 表は生國により色彩別にし、その長さは生涯を示す。



• 管弦樂器の配置掛圖

(1) → 樂器の解説圖と配置圖を兼ねたもの。

(2) → 次の形式のものを擴大し色彩をほどこして掛圖となす。

尙教鞭物については教師が出来るだけ作製してそれにより出来るだけ具体的にしたい。

• 其他「樂器の發達圖」

(ロ) 第六學年指樂法

- 旋律鑑賞
- 感想發表
- 内容解説
- 歌劇、國歌の話
- 音楽家の話
- 合唱の鑑賞
- 音色鑑賞





**器樂指導**


- (1) 各種演奏樂譜による合奏
- (2) 兒童指揮
- (3) 樂器製作(手工科と連絡して)
- (4) リズム樂器の考察
- (5) 演奏譜の作曲(兒童の能力により)







月	基本指導	鑑賞
4	<p>○音階練習 (= 調三拍子) 音階練習曲を次のリズム形式にて作る。  </p> <p>組合せて曲を作る。                      □音階譜の視唱による音階練習及び重音練習 (=、變ホ調) 及び (ト、ヘ調) 重音練習                      (例) </p> <p>◇聴音書取練習 (變ホ調)                      ・聴音練習を多く課し時間がある時は書取を課す。</p>	<p>中央亞細亞の高原にて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲の由來</li> <li>・作曲者の解説</li> <li>・全曲 諦 聴</li> </ul> 
5	<p>●重音音階練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い旋律を指導し低い旋律を導き困難な部分は人数を多くする。</li> <li>・聞く児童を作り和愛美を味はせる。</li> </ul>  <p>○音階練習曲の視唱 (=、ホ、變ホ調) 三連音符を含む                      (例) </p>	
6	<p>○音階練習曲の視唱 (ト調) (ヘ調)                      □音階譜視唱重音練習 (ト、ヘ調)                      「日の丸の祖」「ひよこ」「人形」等を兩部を指しながら二重唱をさせる。                      ◇聴音練習 (簡易な練習曲)</p>	<p>スーベニア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律鑑賞</li> <li>・スーベニア (思出) についての逸話</li> <li>・テーマの唱詠</li> </ul> 
7	<p>○音階練習曲の視唱 (變ホ調) 各種のリズムを組合せて                      □音階練習曲の視唱 (變ホ調)</p>	

指導	器樂指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想發表とプログラムの比較</li> <li>・ボロディンについて</li> <li>・民謡の旋律唱詠</li> </ul> 	<p>樂器製作について</p> <p>(1) カスタネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大体の型を與へて自由に製作させてよい</li> <li>・實際使用上不整一になると考へたら次の如き展解圖を印刷して與へて大きさを定める。</li> <li>・ミシン鋸使用。出來たら柄の形をよくする。別に柄だけをとりつけないがよい。</li> <li>・兩方の唇をつけるのは琴か三味線の糸をつける、餘りしめすぎず、弛み過ぎず適當に加减する。</li> <li>・黒ニスを塗つて着色する。</li> <li>・木材は硬質のものを選ぶ (よく乾燥してゐること)</li> <li>・内部に凹地をつくる。</li> </ul> <p>(展解圖)</p> 
<p>スーベニア</p> <p>についての逸話</p> 	
	<p>(2) トライアングル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太い針金又は鐵棒を用ひる。(鋼鐵がよい)</li> <li>・圓の如く曲げ紐をつける</li> <li>・紐を結びつけると音が出ない</li> <li>・打棒は柄を作つて入れる。</li> </ul>

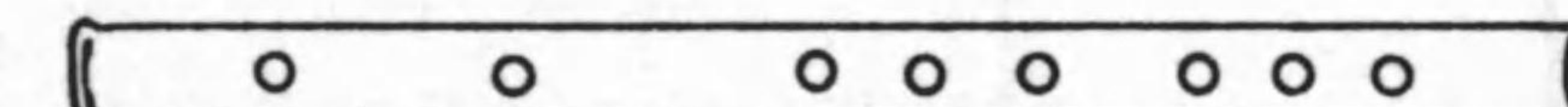
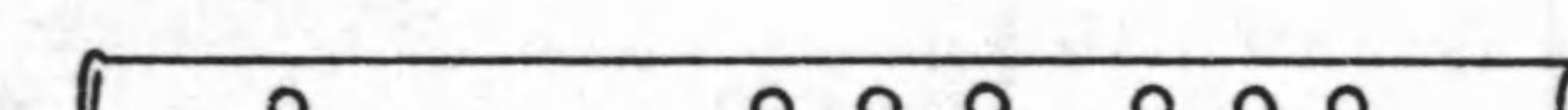
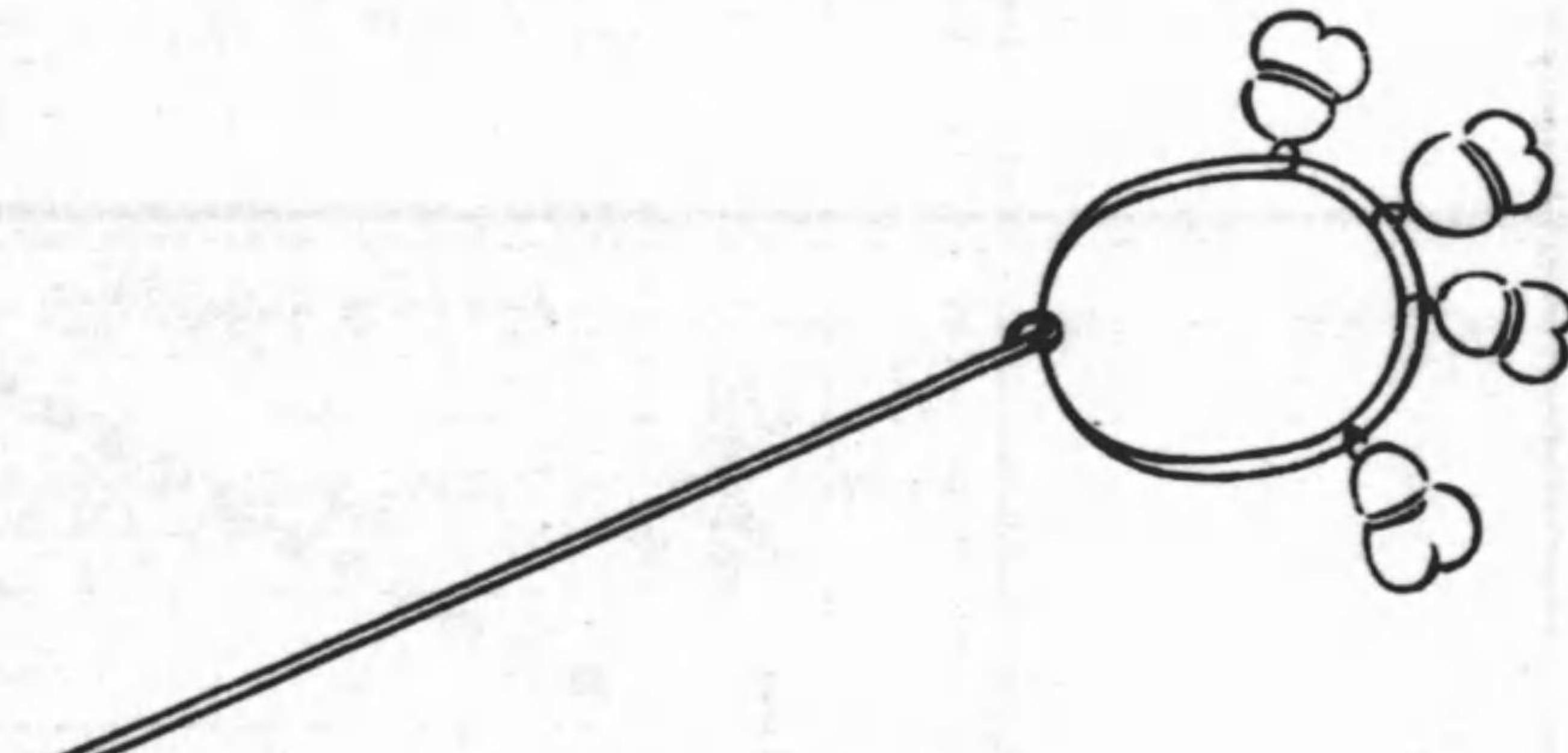



月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
9	瀧	##	3/4		♩=116 1分41秒	瀧の壯觀を表現した本歌曲を授けて爽快雄大な情を養ふと共に三拍子と四拍子との混合した=調の視唱に習熟させ曲想の變化をさとらしむ。
	(女) 風		3/4		♩=100 2分24秒	風の詩的情趣を表現した本歌曲を授けて輕快優美の情を養ふと共にハ調四分の三拍子の視唱に習熟させる。
10	故郷	##	3/4		♩=80 1分48秒	懷郷の情をのべた本歌曲を授けて輕快愛郷の純情を味はせると共にト調四分の三拍子の視唱に習熟させる。
	燈臺	b	4/4		♩=104 1分51秒	燈臺の尊き使命を表現した本歌曲を授けて、快活の情を養ふと共に變ホ調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
11	秋	b	6/8		♩=160 1分12秒	清澄な秋の樂しさを表現した本歌曲を授けて愉快な氣分に浸らせると共にヘ調八分の六拍子の視唱に習熟させ強起弱起の旋律のリズムの轉換を正しく歌はせる。
	鎌倉	##	4/4		♩=120 3分12秒	鎌倉の歴史的な面影を偲ぶ本歌曲を授けて往時を追憶して詩的情趣に浸らせると共にホ短調四分の四拍子の視唱に習熟させる。
12	鷺	##	3/4		♩=108 1分17秒	鷺の雄々しい姿と優しい心とを表現した本歌曲を授けて壯快な情を養ふと共にト調四分の三拍子の視唱に習熟させる。

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>三拍子の部合は爽快なる曲想、四拍子の部分雄大な曲想</li> <li>♪♪を並列した部分は音程やリズムを正確に。</li> <li>五段の二分音符は十分テヌートする。</li> <li>最後の停止記號の附點二分音符を正しく三拍で切り停止の氣持を表現</li> <li>曲想の轉換を鮮明に。</li> </ul>	<p>cresc..... = </p> <p>∞ = 延長記號</p> <p>sf = 特に強く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ブレスの前の二分音符又は附點二分音符は充分テヌートする必要がある、然し不自然に聲が擴大しない様に。</li> <li>五段二小節の終りのスタッカトは美しく歌ふ。</li> <li>第二、三段の間の完全八度の下降の音程に注意</li> <li>爽快な曲想を表現する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>第一段三小節のミミファのファが上がり易い。・第二段のファがミに近い音程になり易い。・第二段三小節のソの音程を正しく。・第三段の各小節に表はれる八分音符二個は充分テヌートしてなめらかに。・第三段の終りにある四分音符及休止符を正しくして第四段へ拍子正しくうつる。・第四段の前半に中心があるから之によつて發想をつけ全体を落着いてやさしく歌ふ。・半音を正しく歌ふと柔かな優しい氣持が表れる。・ブレスの前の音をやよつめてブレスし後の音を正しく歌ひ出す。・落着いた優雅な曲想を表現。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム形式が一定してゐるから視唱容易。</li> <li>歌曲の中心は第三段の前半にありこの部分を強く歌つて全体をひきしめる。</li> <li>第三段三小節最後のファの音が強くひかない様に。</li> <li>二、四段同形旋律の二部のリード形式。</li> <li>全体をほがらかにハキハキした曲想で歌ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>第一小節が強起で始まり第三小節から弱起に變る點を十分注意してリズムの變化を知らせる。</li> <li>弱起強起の混用した點に注意して拍子練習を十分にす。</li> <li>全体を流暢に輕快に歌ふこと大切。</li> <li>附點四分音符は正しく三拍テヌートして歌はせる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>低いミの音は餘り力を入れないで軽く發聲する。・各段の終りの附點二分音符は正しく三拍延ばす様に。・一、二段二小節の四分音符が附點四分音符になり易い。・二、三段のオクターブの超越進行はハツキリ歌ふ。</li> <li>三段の三小節の三拍目の附點四分音符が四分音符になり易い。・一通りの讀譜練習ができた後音の進行や曲の感じからト長調でない事を知らせる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的高音の進行</li> <li>附點八分音符の現はれる部分のリズムを十分鮮明に表現する、母音をひびかせる。・五段に現はれる ♪♪を十分テヌートして他の部分との區別を明瞭に表現する。・一段の「ラドソ」が「ラドラソ」になり易い。</li> <li>全体に音勢をつけて歌ひ勇壯活潑な曲想を表現する事が肝要である。</li> </ul>	<p>marcato</p> <p>= ^ = sf =</p> <p>音勢をつけて</p>



月	基本指導	鑑賞
9	<p>○音階練習曲 (ハ、ニ調三拍子にて) リズム形式</p> <p>□音階練習曲の視唱 (ハ、ニ調三拍子)</p> <p>◇聴音書取練習 (ハ、ニ調三拍子)</p> <p>♪♪, ♪♪♪, ♪♪♪♪, ♪♪♪♪♪, 等の含んだ曲</p>	<p>月光の曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベートーヴェンとその</li> <li>・月光の曲の旋律鑑賞 (</li> <li>・各章の部分鑑賞</li> <li>・「月光の曲」の文との比較</li> </ul>
10	<p>□重音練習曲の視唱 低音部をよく練習する (例)</p> 	<p>ユモレスク (ドヴォルザーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律鑑賞</li> <li>・内容解説</li> </ul>
11	<p>○音階練習 (ホ短調) 唱論教材「鎌倉」のため</p>  <p>□重音練習曲の視唱 (ハ、ト、ハ調) (例)</p>  <p>◇聴音書取練習 (ト変ロ調簡易練習曲か既習曲の一部)</p>	<p>カルメン 抜萃曲 ウィリアム、テルの序曲 (四年五年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルメンの筋の説明</li> <li>・抜萃曲の旋律鑑賞と場面説明</li> <li>・歌劇の話、ウィリアムテルの序曲を比べて</li> <li>・ハーシングで旋律唱論「闘牛師の歌」</li> </ul> 
12	<p>□重音練習曲の視唱 (例)</p>  	<p>タンノイザー合唱 兵士の合唱 (ファウスト) 歌劇の話 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンノイザーの梗概</li> <li>・合唱の鑑賞</li> <li>・ファウストの梗概</li> <li>・兵士の合唱の鑑賞</li> <li>・合唱についての理解</li> </ul>

指導	器樂指導
<p>逸話 感想発表 比較</p>	<p>樂器製作について</p> <p>(3) 明 笛</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥した細竹を使用</li> <li>・節を利用する</li> <li>・調子等を定めることは出来ない</li> <li>・共鳴する紙をはるものと、はらないものと二通りある</li> <li>・穴は良く鳴る明笛を参考にしきり又は火ばしを纏いてあける。</li> </ul>   <p>(4) 輪 鈴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビール、サイダー、牛乳等の口を集めさせる</li> <li>・針金を用意</li> <li>・口金の中央に穴を明けて五、六個針金にとはす。</li> <li>・別に針金に鈴をつけたものも軽快な音を出す。</li> </ul> 
<p>歌劇の話 (1) 年五年)</p> <p>面の説明 テルの序曲を比べて</p> 	<p>歌劇の話 (2)</p>



月	唱謠教材	調子	拍子	音域	速度	目的
1	スキーの歌	##	4/4		♩=120 1分48秒	勇壯なるスキーを表現した本歌曲を授けて、その情趣を展開して明朗潑刺たる気分を養ふと共にイ調四分の四拍子の唱謠に習熟させ重音唱歌に對する理解を與へる。
	夜の梅	#	6/8		♩=152 1分16秒	夜の梅の情趣を表現した本歌曲を授けて優雅な気分浸らせると共にト調八分の六拍子の視唱に習熟させる。
3	卒業の歌	♭	4/4		♩=104 4分18秒	卒業の歡喜と師恩に感謝する心を表現した本歌曲を授けて喜悅と快活の情を養ふと共に變ホ調四分の四拍子の唱謠に習熟させる。
	あふけば尊し	##	6/8		♩=66 約2分	師恩に感謝し惜別の情を表現した本歌曲を授けて卒業式の儀式にそなへる。
新訂尋常小學唱歌第六學年用		調子	拍子	音域	音程(新出のもののみ)	
		D 2 # 7 ♭ 3 ♯ 4 ♯ 4 ♯ 6 ♯ 2 本 1	3/4 2 4/4 13 3/4 9 6/8 3 3/2 1		増一度    ♭←♭ 短二度    ♭←→ソ♭←→ #♭ 短三度    ♭→#♭ 長三度    ♭←→♭ 完全五度    スイ←ミ 完全八度    ミ←ミ	

指導上の注意	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム構成に可成り變化多くブレスの稍々不規則處々に短七度の超越進行がある。・附點四分音符のあるリズムを鮮明に。</li> <li>二分音符と八分音符との連合した部分を十分テヌート。</li> <li>二部合唱の部分は音勢をつけて歌はせる、單音で歌はせるときは低音部を歌ふ。・勇壯明快の發想を表現する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>四分音符と八分音符とが並列したリズムを正しく表現する。</li> <li>第一段の最初の長六度の進行は不正確にならぬ様に。・第三段の低い音は軽く歌ふ。・二、四段最初のフの音程を正しく。</li> <li>スラーとタイとの比較。</li> <li>輕快に流暢に歌つて優美の曲想を表現する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>類似旋律が多いからよく觀察させ理解させて歌はせる。</li> <li>だれない様輕快にはきはきと。</li> <li>二段二小節「レスィソ」の音程を正しく又低音は力を入れずに軽く歌ふ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>半音進行が不確實になり易い。</li> <li>各段の終りを十分のばす。</li> <li>發想に注意して感銘深く唱謠する。</li> <li>「イマコソワカレメ」は次第にゆるやかに「イザサラバ」は弱く靜かにうたふ。</li> </ul>	
<p>新出リズム</p>	



月	基本指導	鑑賞	指導	器樂指導
1	總復習 (時間の餘裕は他の音楽指導方面にあてる)	各國國歌 ・旋律を教へる ・比較鑑賞 ・逸話、歌詞内容について	説話	樂器製作について (5) 弦樂器 ・共鳴箱を作る ・弦は琴、三味線をあつめて置く 又細い針金でもよい ・出来たもので合奏は出来難いが 弦の張り方による音の變化 弦の長さによる音の變化 共唱等についてわからせる。
2	總復習	○音楽講話 (音楽家の話)		(6) 自由製作 其他の樂器について 兒童の考察したものを 鳥笛等を作るもよい。
3	總復習	○音楽講話 (音楽家の話)		
	本學年基本指導上の反省及び進度 (指導者記入)	本學年指導教材 (C90616) 中央亞細亞の高原にて スーベニア (V811B) 月光の曲 (P40181-40182) ユモレスク (P608) カルメン 拔萃曲 (V6873) タンノイザー合唱 (C90611A) 兵士の合唱 (C90611A) 各國國歌	(指導點を示したるもののみ) ウィリアムテル序曲 (四、五年)  1B)	





唱歌指導体系之實際

定價金壹圓

昭和十一年五月三十一日印刷

昭和十一年六月五日發行

新潟市旭町二番町

著者 新潟師範學校附屬小學校唱歌部

新潟市古町通六番町九六一番地

發行者 西村 六平

印刷者 澁谷 喜平

新潟市醫學町通一番町四一番地

印刷所 新潟活版所

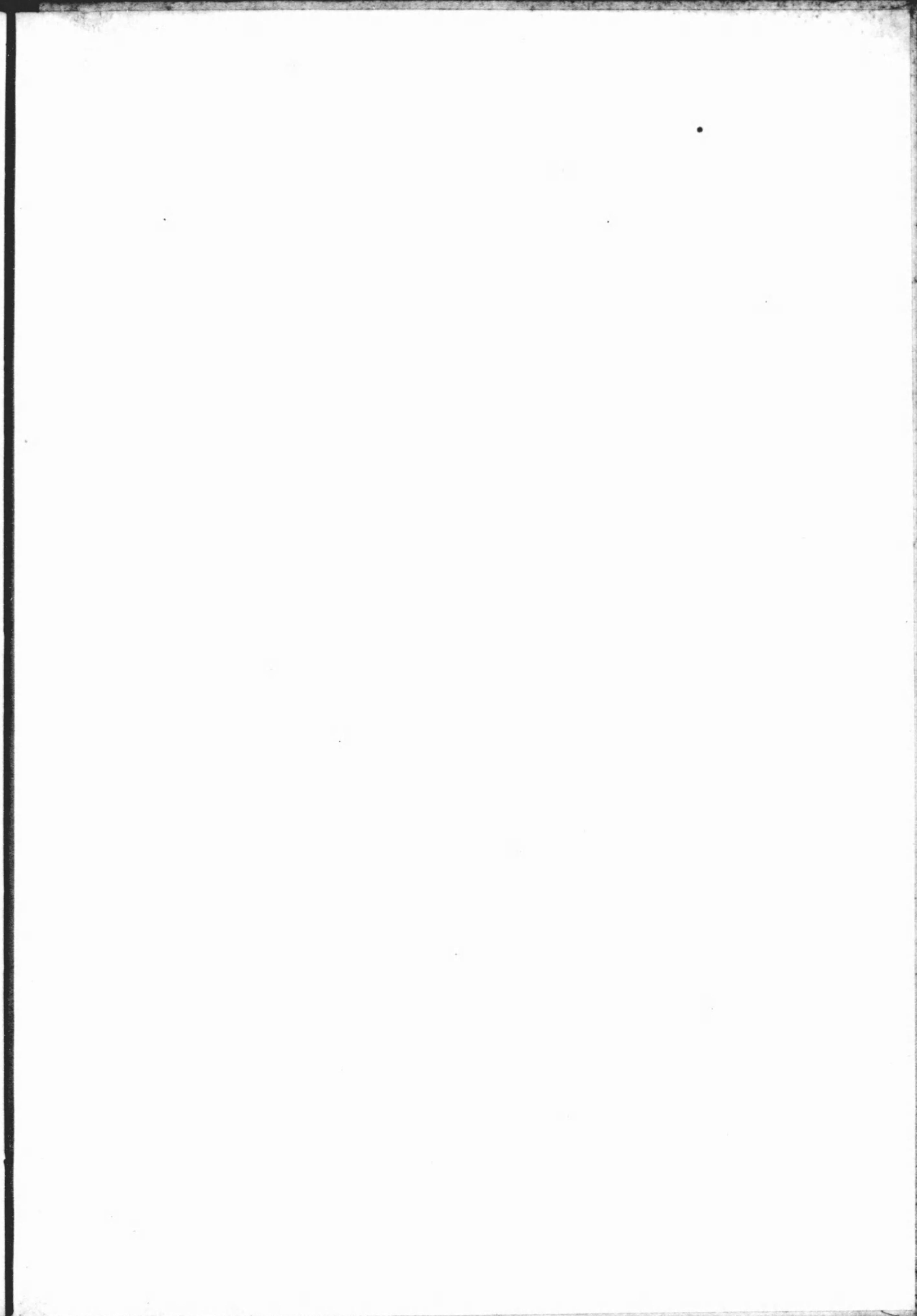
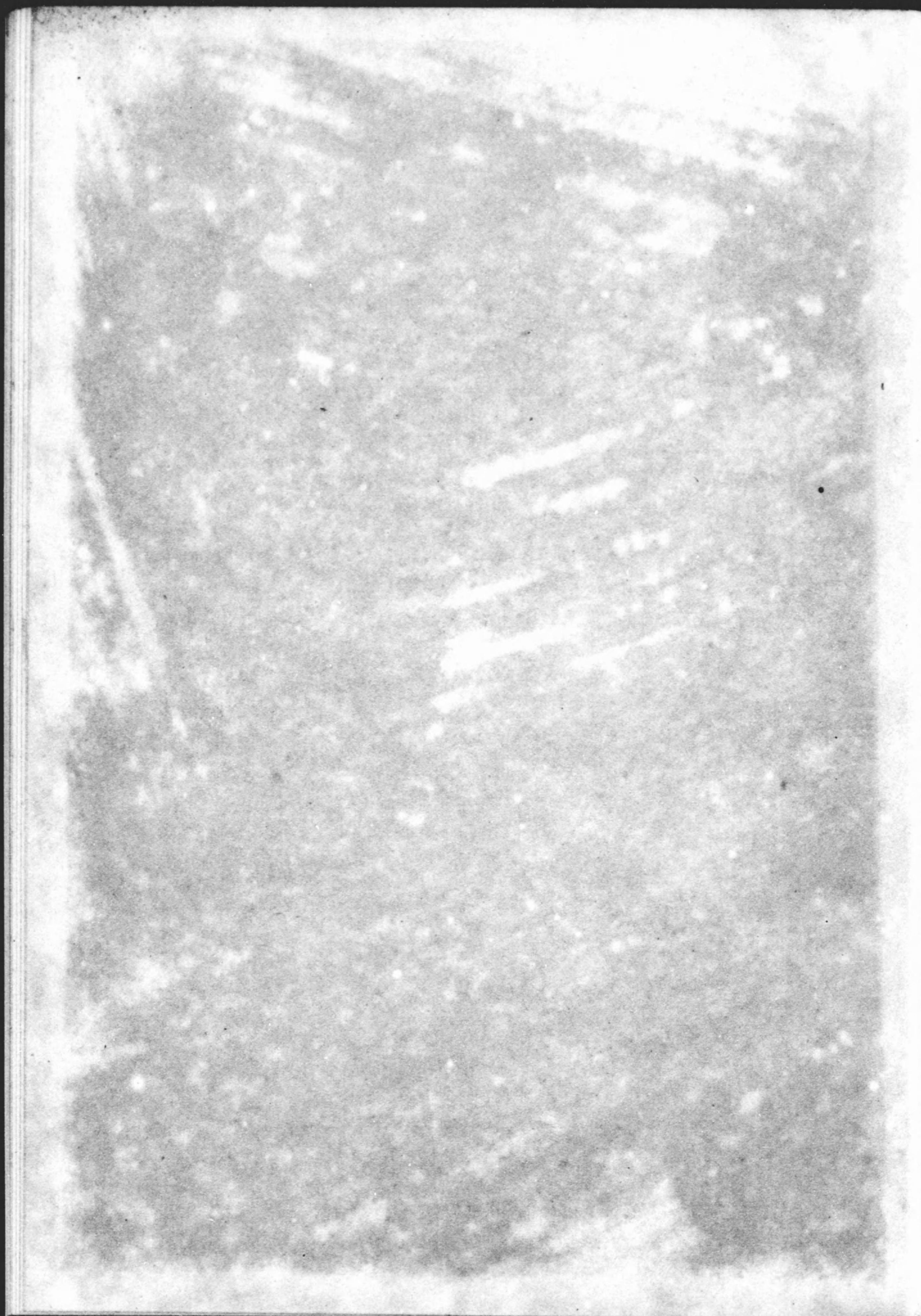
新潟市醫學町通一番町四一番地  
電話 二〇九五番

新潟市古町通六番町九六一番地

發行所 萬松堂書店

振替口座東京五五六三番 電話 四四〇番







特 202

453